




Dell OpenManage Server Administrator

バージョン 7.4 コマンドラインインタフェース
ガイド



メモ、注意、警告

-  **メモ:** コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。
-  **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その問題を回避するための方法を説明しています。
-  **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Copyright © 2014 Dell Inc. All rights reserved. この製品は、米国および国際著作権法、ならびに米国および国際知的財産法で保護されています。Dell™、およびデルのロゴは、米国および/またはその他管轄区域における Dell Inc. の商標です。本書で使用されているその他すべての商標および名称は、各社の商標である場合があります。

2014 - 03

Rev. A00

目次

1 はじめに.....	11
本リリースの新機能.....	11
CLI コマンドを実行するための Windows コマンドプロンプトへのアクセス.....	13
プライマリ CLI コマンド.....	13
CLI エラーチェックおよびエラーメッセージ.....	14
成功のメッセージ.....	14
失敗のメッセージ.....	14
CLI を使用したスクリプト記述と比較.....	15
コマンド構文の概要.....	16
2 omhelp コマンドの使用.....	17
ヘルプコマンドの例.....	17
3 omreport: 計装サービスを使用したシステム状態の表示.....	19
パラメータ表の規則.....	19
omreport コマンドのコマンド概要.....	20
omreport コマンドのヘルプ.....	23
omreport modularenclousure.....	23
omreport about.....	24
omreport chassis または omreport mainsystem コマンド.....	25
omreport chassis acswitch または omreport mainsystem acswitch.....	25
omreport chassis batteries または omreport mainsystem batteries.....	26
omreport chassis bios または omreport mainsystem bios.....	26
omreport chassis biossetup または omreport mainsystem biossetup.....	27
PowerEdge 12G システムより前のシステムでの BIOS セットアップパラメータ.....	27
PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップグループ.....	30
omreport chassis currents または omreport mainsystem currents.....	31
omreport chassis fans または omreport mainsystem fans.....	31
omreport chassis firmware または omreport mainsystem firmware.....	31
omreport chassis frontpanel または omreport mainsystem frontpanel.....	31
omreport chassis fru または omreport mainsystem fru.....	32
omreport chassis hwperformance または omreport mainsystem hwperformance.....	32
omreport chassis info または omreport mainsystem info.....	32
omreport chassis intrusion.....	33
omreport chassis leds または omreport mainsystem leds.....	33
omreport chassis memory または omreport mainsystem memory.....	34
omreport chassis nics または omreport mainsystem nics.....	36
omreport chassis ports または omreport mainsystem ports.....	37

omreport chassis processors または omreport mainsystem processors.....	37
omreport chassis pwrmanagement または omreport mainsystem pwrmanagement.....	40
omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring.....	41
omreport chassis pwrsupplies または omreport mainsystem pwrsupplies.....	43
omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess.....	43
omreport chassis removableflashmedia または omreport mainsystem removableflashmedia.....	44
omreport chassis slots または omreport mainsystem slots.....	45
omreport chassis temps または omreport mainsystem temps.....	46
omreport chassis volts または omreport mainsystem volts.....	46
omreport licenses.....	46
omreport system コマンドまたは omreport servermodule コマンド.....	47
omreport system または omreport servermodule.....	47
ログ表示のコマンド.....	48
omreport system alertaction または omreport servermodule alertaction.....	48
omreport system assetinfo または omreport servermodule assetinfo.....	50
omreport system events または omreport servermodule events.....	50
omreport system events type または omreport servermodule events type.....	50
omreport system operatingsystem または omreport servermodule operatingsystem.....	51
omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations.....	52
omreport system platformevents または omreport servermodule platformevents.....	53
omreport system recovery または omreport servermodule recovery.....	53
omreport system shutdown または omreport servermodule shutdown.....	53
omreport system summary または omreport servermodule summary.....	54
omreport system thrmsshutdown または omreport servermodule thrmsshutdown.....	59
omreport system version または omreport servermodule version.....	59
omreport preferences コマンド.....	60
Omreport Preferences Messages.....	60
omreport preferences webserver.....	60

4 omconfig : 計装サービスを使ったコンポーネントの管理..... 63

パラメータ表の規則.....	63
omconfig コマンドの概要.....	64
omconfig コマンドのヘルプ.....	66
omconfig about.....	67
omconfig chassis または omconfig mainsystem.....	68
omconfig chassis biossetup または omconfig mainsystem biossetup.....	68
omconfig chassis currents または omconfig mainsystem currents.....	86
omconfig chassis fans または omconfig mainsystem fans.....	86
omconfig chassis frontpanel または omconfig mainsystem frontpanel.....	87
omconfig chassis info または omconfig mainsystem info.....	89
omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds.....	90

omconfig chassis memorymode または omconfig mainsystem memorymode.....	90
omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement.....	91
omconfig chassis pwrmonitoring または omconfig mainsystem pwrmonitoring.....	93
omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess.....	95
omconfig chassis temps または omconfig mainsystem temps.....	105
omconfig chassis volts または omconfig mainsystem volts.....	106
omconfig preferences.....	107
omconfig cdv 形式のプリファレンス.....	107
omconfig preferences dirservice.....	107
Omconfig Preferences Messages.....	108
Omconfig Preferences Useraccess.....	108
Omconfig Preferences Webserver.....	108
omconfig system または omconfig servermodule.....	109
omconfig system alertaction または omconfig servermodule alertaction.....	110
ログをクリアするコマンド.....	113
omconfig system pedestinations または omconfig servermodule pedestinations.....	114
omconfig system platformentevents または omconfig servermodule platformentevents.....	115
omconfig system events または omconfig servermodule events.....	117
omconfig system webserver または omconfig servermodule webserver.....	119
omconfig system recovery または omconfig servermodule recovery.....	120
omconfig system shutdown または omconfig servermodule shutdown.....	120
omconfig system thrmshutdown または omconfig servermodule thrmshutdown.....	121

5 omconfig システムまたは servermodule assetinfo : 所有コスト値の編

集.....	123
取得情報の追加.....	123
保証情報を追加するためのコマンド例.....	124
減価償却情報の追加.....	125
減価償却情報を追加するためのコマンド例.....	125
延長保証情報の追加.....	126
延長保証情報を追加するためのコマンド例.....	126
リース情報の追加.....	126
リース情報を追加するためのコマンド例.....	127
メンテナンス情報の追加.....	127
メンテナンス情報を追加するためのコマンド例.....	128
アウトソーシング情報の追加.....	128
アウトソース情報を追加するためのコマンド例.....	129
所有者情報の追加.....	129
所有者情報を追加するためのコマンド例.....	130
サービス契約情報の追加.....	130
サービス情報を追加するためのコマンド例.....	131
サポート情報の追加.....	131

サポート情報を追加するためのコマンド例.....	132
システム情報の追加.....	132
システム情報を追加するためのコマンド例.....	132
保証情報の追加.....	133
保証情報を追加するためのコマンド例.....	133
6 Storage Management サービスの使用.....	135
CLI コマンド構文.....	135
コマンド要素の構文.....	136
omreport storage と omconfig storage のユーザー特権.....	137
7 omreport storage コマンド.....	139
omreport 物理ディスクステータス.....	140
omreport 仮想ディスクステータス.....	141
omreport コントローラステータス.....	141
omreport エンクロージャステータス.....	142
omreport 温度プローブステータス.....	142
omreport ファン状態.....	143
omreport 電源装置ステータス.....	143
omreport EMM ステータス.....	144
omreport エンクロージャのスロット占有レポート.....	145
omreport バッテリステータス.....	145
omreport グローバル情報.....	145
omreport コネクタステータス.....	146
omreport Cachecade ステータス.....	146
omreport PCIe SSD のステータス.....	147
omreport Fluid Cache のステータス.....	147
omreport Fluid Cache プールのステータス.....	147
omreport パーティションのステータス.....	148
omreport Fluid Cache ディスクのステータス.....	148
omreport storage tape.....	148
8 omconfig storage コマンド.....	149
omconfig 物理ディスクのコマンド.....	150
omconfig 物理ディスクの点滅.....	151
omconfig 物理ディスクの点滅解除.....	151
omconfig 物理ディスクの削除の準備.....	152
omconfig セキュアな物理ディスクのインスタント削除.....	152
Omconfig Cryptographic Erase Secured Physical Disk.....	153
omconfig 物理ディスクの初期化.....	153
omconfig 物理ディスクのオフライン化.....	154
omconfig 物理ディスクのオンライン化.....	154

omconfig グローバルホットスペアの割り当て.....	155
omconfig 物理ディスクの再構築.....	155
omconfig 物理ディスク再構成のキャンセル.....	156
omconfig メンバー交換のキャンセル.....	157
omconfig 物理ディスクのクリア.....	157
omconfig 物理ディスククリアのキャンセル.....	158
omconfig デバイスの書き込みキャッシュの有効化.....	158
omconfig デバイスの書き込みキャッシュの無効化.....	159
omconfig 信頼性ログのエクスポート.....	159
omconfig RAID を非 RAID に変換.....	160
omconfig 非 RAID を RAID に変換.....	160
omconfig 仮想ディスクのコマンド.....	161
omconfig 整合性チェック.....	162
omconfig 整合性チェックのキャンセル.....	162
omconfig 整合性チェックの一時停止.....	163
omconfig 整合性チェックの再開.....	163
omconfig 仮想ディスクの点滅.....	163
omconfig 仮想ディスクの点滅解除.....	164
omconfig 仮想ディスクの初期化.....	164
omconfig 仮想ディスクの高速初期化.....	164
omconfig 仮想ディスクの低速初期化.....	165
omconfig 仮想ディスクの初期化のキャンセル.....	165
omconfig バックグラウンドの初期化のキャンセル.....	166
omconfig 専用ホットスペアの割り当て.....	166
omconfig 仮想ディスクの削除.....	167
omconfig 仮想ディスクのフォーマット.....	167
omconfig 仮想ディスクの再設定.....	168
omconfig 仮想ディスクのセキュア化.....	168
omconfig による仮想ディスクの不良ブロックのクリア.....	169
omconfig 仮想ディスクポリシーの変更.....	169
omconfig 仮想ディスクメンバーの交換.....	170
omconfig 仮想ディスクの名前の変更.....	170
omconfig 仮想ディスクでの Fluid Cache の有効化.....	170
omconfig 仮想ディスクでの Fluid Cache の無効化.....	171
omconfig 仮想ディスクでの Fluid Cache の再アクティブ化.....	171
omconfig コントローラコマンド.....	172
omconfig コントローラの再スキャン.....	174
omconfig コントローラ警告を有効にする.....	174
omconfig コントローラアラームを無効にする.....	174
omconfig コントローラアラームの静止.....	175
omconfig コントローラアラームのテスト.....	175
omconfig コントローラ設定のリセット.....	175

omconfig 仮想ディスクの作成.....	176
omconfig コントローラ再構築率の設定.....	183
omconfig コントローラプロパティの変更.....	183
omconfig 保存キャッシュの破棄.....	184
omconfig 暗号化キーの作成.....	184
omconfig 暗号化キーの変更.....	185
omconfig 暗号化キーの削除.....	185
omconfig バックグラウンドの初期化率の設定.....	185
omconfig 再構築率の設定.....	186
omconfig 整合性チェック率の設定.....	186
omconfig コントローラログのエクスポート.....	186
omconfig セキュアな外部設定のインポート.....	187
omconfig 外部設定のインポート.....	187
omconfig 外部設定のインポートと回復.....	187
omconfig 外部設定のクリア.....	188
omconfig 物理ディスク電源管理.....	188
omconfig 巡回読み取りモードの設定.....	188
omconfig 巡回読み取りの開始.....	189
omconfig 巡回読み取りの停止.....	189
omconfig Cachecade の作成.....	189
omconfig LKM コントローラを有効にする.....	190
omconfig LKM コントローラの再キー.....	190
omconfig 複数の RAID を非 RAID に変換.....	190
omconfig 複数の非 RAID を RAID に変換.....	191
omconfig エンクロージャコマンド.....	191
omconfig エンクロージャアラームを有効にする.....	192
omconfig エンクロージャ警告を無効にする.....	192
omconfig エンクロージャ資産タグの設定.....	192
omconfig エンクロージャ資産名の設定.....	193
omconfig 温度プローブのしきい値の設定.....	193
omconfig 温度プローブしきい値のリセット.....	194
omconfig すべての温度プローブのしきい値の設定.....	194
omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット.....	195
omconfig 点滅.....	195
omconfig バッテリーのコマンド.....	195
omconfig バッテリー学習サイクルの開始.....	196
omconfig バッテリー学習サイクルの遅延.....	196
omconfig グローバルコマンド.....	196
omconfig スマートサーマルシャットダウンのグローバルでの有効化.....	197
omconfig Smart サーマルシャットダウンのグローバルでの無効化.....	197
omconfig コントローラのグローバル再スキャン.....	198
omconfig ホットスペアプロテクションポリシーの設定.....	198

omconfig コネクタコマンド.....	199
omconfig コネクタの再スキャン.....	199
omconfig Cachecade コマンド.....	199
omconfig Cachecade の点滅.....	200
omconfig Cachecade の点滅解除.....	200
omconfig Cachecade の削除.....	200
omconfig Cachecade のサイズ変更.....	201
omconfig Cachecade の名前変更.....	201
omconfig PCIe SSD コマンド.....	201
omconfig キャッシュプールへの PCIe SSD デバイスの追加.....	202
omconfig キャッシュプールへの PCIe SSD デバイスの追加.....	202
omconfig PCIe SSD デバイスの再アクティブ化.....	202
omconfig Fluid Cache コマンド.....	203
omconfig Fluid Cache に対するライセンスの適用またはアップデート.....	203
omconfig Fluid Cache への接続.....	203
omconfig パーティションコマンド.....	203
omconfig パーティションリストの更新.....	204
omconfig Fluid Cache ディスクコマンド.....	204
omconfig データの破棄およびキャッシュの無効化.....	204

9 CLI コマンド結果の使用法.....205

コマンド結果の出力オプション.....	205
コマンド出力表示の制御.....	205
ファイルへのコマンド出力の書き込み.....	206
上書きされるファイルへのコマンド結果の保存.....	206
既存のファイルへのコマンド結果の追加.....	207
CLI コマンド出力のフォーマットの選択.....	208
リスト (lst)	208
表 (tbl)	209
セミコロン区切りの値 (ssv)	209
カスタムの区切り形式 (cdv)	209

はじめに


Dell OpenManage Server Administrator (OMSA) は、統合されたウェブブラウザベースのグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) またはコマンドラインインターフェース (CLI) から、包括的な 1 対 1 のシステム管理ソリューションを提供します。Server Administrator は、システム管理者がネットワーク上のシステムをローカルまたはリモートで管理できるように設計されています。システム管理者は、包括的な 1 対 1 のシステム管理を提供することにより、ネットワーク全体を管理できます。


Server Administrator の文脈では、システムとはスタンドアロンシステム、個別のシャーシ内に接続されたネットワークストレージユニットを持つシステム、またはモジュラエンクロージャ内の 1 つまたは複数のサーバーモジュールで構成されるブレードシステムを指します。


Server Administrator では、包括的な統合管理サービスを介してローカルシステムおよびリモートシステムを簡単に管理できます。Server Administrator は、管理下のシステムに単体でインストールされており、Server Administrator ホームページからローカルおよびリモートでアクセス可能です。Server Administrator は、ダイヤルイン、LAN、またはワイヤレス接続で、リモートから監視対象システムにアクセスできます。

設定機能により、Server Administrator は以降の項で詳述する基本タスクを実行できます。この CLI ガイドには、Server Administrator と Storage Management で使用できるすべてのコメントを記載しています。

レポート機能と表示機能により、ネットワーク上のシステムの全体的な正常性状態の取得が可能です。電圧、温度、ファンの 1 分間の回転数 (RPM)、メモリ機能などの重要な詳細情報をコンポーネントレベルで確認できます。システムの所有コスト (COO) の詳細情報の表示、BIOS、ファームウェア、オペレーティングシステム、およびすべてのインストール済みソフトウェアのバージョン情報の確認もできます。

 **メモ:** CLI は Server Administrator ウェブサーバーを使用しません。暗号化についての懸念がある場合は、CLI から `omconfig system webserver action=stop` コマンドを実行して、ウェブサーバーをオフにします。ウェブサーバーは再起動後に自動的に起動するため、システムが再起動するたびにこのコマンドを実行する必要があります。詳細に関しては、「[omconfig system webserver または omconfig servermodule webserver](#)」を参照してください。

 **メモ:** Dell OpenManage Server Administrator のインストール後、Dell OpenManage CLI ユーティリティにアクセスするためのパスをリセットするため、ログアウトしてから再ログインするようにしてください。


 **メモ:** 本書で使用される用語についての情報は、dell.com/support/manuals で『用語集』を参照してください。

本リリースの新機能


OpenManage Server Administrator の新リリースに追加された主な機能は次のとおりです。

- 次のオペレーティングシステムのサポートを追加。
 - Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter、Foundation、Essentials、および Standard の各エディション

- Novell SUSE Linux Enterprise Server 11 SP3 (64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 6.5 (64 ビット)
- VMware ESXi 5.0 U3 および ESXi 5.1 U2
- VMware vSphere 5.5
- 次のブラウザへの対応が追加されました。
 - Mozilla Firefox 22 および 23
 - Internet Explorer 11
 - Safari 6.0
 - Google Chrome 27、28、および 30
- Citrix XenServer 6.1 向けの新しいライセンスフォーマットのサポート
- 次のアダプタカードのサポートを追加。
 - Mellanox ConnectX-3 デュアルポート 40 GbE QSFP+ ネットワークアダプタ
 - Mellanox ConnectX-3 デュアルポート 10 GbE DA/SFP+ ネットワークアダプタ
 - Mellanox ConnectX-3 デュアルポート 10 GbE KR ブレードメザニンカード
 - Emulex OCE14102-UX-D デュアルポート 10 Gb SFP+ CNA
 - Emulex OCM14102-U3-D デュアルポート 10 Gb KR ブレードメザニン
 - Emulex OCM14102-U2-D デュアルポート 10 Gb KR ブレード NDC
 - Emulex OCM14104-UX-D クアッドポート 10 Gb DA/SFP+ ラック NDC
- R920 での Dell PERC 9 コントローラ (H730P アダプタ) のサポートを次の機能と共に追加。
 - 不均等スパンでの RAID 10 仮想ディスク。
 - アドバンスド 4K セクタのハードディスクドライブ。
 - データ整合性のための T10 Protection Information (PI)。


 **メモ:** 詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals で『*Server Administrator Storage Management*』ガイドを参照してください。


- JRE バージョンの表示および設定のサポート。「[Omreport Preferences Commands](#)」および「[Omconfig Preferences Webserver](#)」を参照してください。
- システム / サーバーモジュール概要情報におけるノード ID 表示のサポート。「[omreport system summary](#) または [omreport servermodule summary](#)」を参照してください。
- iDRAC 値に合わせたフォームファクタ用の新しい値のサポート。「[omreport system summary](#) または [omreport servermodule summary](#)」を参照してください。
- Windows Server 2012 R2 オペレーティングシステムを実行するシステムにおけるソフトウェア RAID コントローラ (PREC S110) に対するサポートを追加。
- Non-Volatile Memory Express (NVMe) Peripheral Component Interconnect Express (PCIe) ソリッドステートドライブ (SSD) のサポートを追加。dell.com/openmanagemanuals で『*Server Administrator Storage Management*』ガイドを参照してください。

 **メモ:** Dell PowerEdge Express Flash NVMe PCIe SSD デバイスは、デル提供の Windows Server 2012 R2 (64 ビット) ドライバのみをサポートします。

- 対応 12G システムにおける次の LSI Serial Attached SCSI (SAS) ホストバスアダプタ (HBA) のサポートを追加。
 - LSI SAS 9207-8e

- LSI SAS 9300-8e
- LSI SAS 9206-16e
- 次の Dell PowerEdge サーバーのサポートを追加。
 - R920
 - R220
 - M820VRTX
- 次のオペレーティングシステムに対するサポートが廃止されました。
 - SUSE Linux Enterprise Server 10 SP4
 - SUSE Linux Enterprise Server 11 SP2
 - Red Hat Enterprise Linux 6.4 (64 ビット)
 - VMware ESXi 5.1 U1 HDD および Flash
 - VMware ESXi 5.0 U2 HDD および Flash


 **メモ:** サポートされるオペレーティングシステムおよび Dell のサーバーについては、dell.com/openmanagemanuals で必要なバージョンの OpenManage Software のページにある『Dell システムソフトウェアサポートマトリクス』を参照してください。

 **メモ:** VMware ESXi オペレーティングシステムを実行するシステム上では、CLI コマンドはサポートされていません。

CLI コマンドを実行するための Windows コマンドプロンプトへのアクセス

Microsoft Windows オペレーティングシステムを実行している場合は、32 ビットのコマンドプロンプトを使用して Server Administrator CLI コマンドを実行します。次のいずれかの方法で 32 ビットのコマンドプロンプトにアクセスします。

- スタート → すべてのプログラム → アクセサリ → コマンドプロンプト とクリックします。
- スタート → ファイル名を指定して実行 とクリックし、cmd.exe と入力します。

 **メモ:** コマンドラインウィンドウを起動するために **ファイル** を指定して実行 ダイアログボックスに「command」と入力しないでください。この操作は、CLI に軽微な問題を発生させる原因となり得る環境変数制限を持つ MS-DOS のエミュレータ **command.com** をアクティブ化します。

プライマリ CLI コマンド

Server Administrator の機能を実行するコマンドを以下に表示します。


- omconfig
- omhelp
- omreport


omconfig コマンドには、オブジェクトのプロパティに割り当てる値を指定します。コンポーネントの警告しきい値を指定したり、特定の警告イベントまたは障害イベントが発生したときにシステムが実行すべき処置を指定したりできます。**omconfig** コマンドを使用して、システムの購入価格、システムの管理タグ、またはシステムの場所など、システムの資産情報パラメータに特定の値を割り当てることもできます。

omhelp コマンドは、CLI コマンドについての短いテキストのヘルプを表示します。ヘルプを表示したいコマンドの後に ? を付けると、**omhelp** と同じ内容を簡単に取得できます。例えば、**omreport** コマンドのヘルプを表示するには、次のいずれかのコマンドを入力します。

- `omhelp omreport`
- `omreport -?`

omreport コマンドは、システムの管理情報のレポートを表示します。

 **メモ:** CLI コマンドの概要を見るには、**omhelp** と入力します。

 **メモ:** **omupdate** コマンドは、Server Administrator では現在サポートされておらず、代わりに Dell Update Package または Server Update Utility コマンドを使用できます。さまざまなコンポーネントをアップデートするには、Dell Update Package をダウンロードして <パッケージ名> /s [/f コマンドを実行します。対応する CLI 構文の詳細に関しては、dell.com/support/manuals で『オペレーティングシステム向け Dell Update Packages ユーザーズガイド』または『Dell OpenManage Server Update Utility ユーザーズガイド』を参照してください。

関連リンク：[CLI コマンド結果の使用方法](#)

CLI エラーチェックおよびエラーメッセージ

CLI コマンドを入力すると、CLI はコマンドの構文が正しいかどうかをチェックします。コマンドを入力してコマンドが正常に実行されると、コマンドが正常に完了したというメッセージが表示されます。


成功のメッセージ

omconfig コマンドを正しく入力すると、そのコンポーネントのデータが表示されます。

次の **omconfig** コマンド例は、有効な CLI コマンドと、コマンドに成功した場合のメッセージを示します。

表 1. コマンドおよびメッセージ

コマンド	メッセージ
<code>omconfig chassis temps index=0 warnthresh= default</code>	温度プローブの警告しきい値が正常に設定されました。
<code>omconfig chassis biossetup attribute=numlock setting=on</code>	BIOS セットアップが正常に設定されました。変更は次の再起動後に有効になります。
<code>omconfig system assetinfo info=depreciation duration=6</code>	<code>omconfig system assetinfo info=depreciation duration=6</code>

 **メモ:** 制約により、一部のコマンドはコマンドが正常に実行されてもシステム設定が変更されません。これは、期待どおりの動作です。

失敗のメッセージ

CLI の失敗のメッセージは、一部のコマンドが成功しなかった理由を示します。コマンドが失敗する一般的な理由には、構文エラーや存在しないコンポーネントなどがあります。多くのエラーメッセージには、コマンドを正常に実行するために必要な構文情報が示されます。

システム構成に存在しないコンポーネントや機能に対するコマンドを実行すると、コンポーネントが存在しないというエラーメッセージが表示されます。

以下は、一部の失敗メッセージの例です。

コマンド `omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.3000`
メッセージ エラー！ 数字の期待値は小数点以下 3 桁までです。読み取り値：3.3000
コマンドで指定された値は、小数点以下 3 桁を超えています。ボルト数の有効な最小警告しきい値は、小数点以下 3 桁までです。

変更後のコマンド `omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=3.300`

小数点以下を 3 桁にしてもう一度入力すると、別のエラーメッセージが表示されます。

メッセージ エラー！ 電圧プローブの最小警告しきい値は 11.400~12.480 でなければなりません。

変更後のコマンド `omconfig chassis volts index=3 minwarnthresh=11.500`

メッセージ 電圧プローブの警告しきい値は正常に設定されました。

CLI を使用したスクリプト記述と比較

Server Administrator CLI を使用すれば、管理者はオペレーティングシステムのバッチプログラムを作成できます。多くのシステムを持つ企業の場合、管理者は、システムの各主要コンポーネントの警告しきい値を指定し、警告または障害が発生した場合に各システムが取るべき処置を指定する設定スクリプトを作成することができます。ほとんどの重大な場面では、損害を回避するためにシャットダウンするようスクリプトを作成できます。管理者は、多くの管理下システムに対して同時にそのスクリプトを配布して実行できます。このようなシナリオは、会社が導入した任意の数の新しいシステムの設定を容易にし、再設定が必要な多くの既存システムにわたって新しいシステム管理ポリシーを導入しやすくします。

新しく導入した多くのシステムに詳細な資産情報を移植するために、類似のシナリオを使用します。システムの製造元または賃貸人、システムのサポートがアウトソースされているかどうか、システムの保証会社の名前、減価償却の方法など、ほとんどの情報は同じです。全システムに共通の変数がすべてスクリプト記述され、すべての管理下システムに送信され、実行されます。システムに固有の資産情報がグループとしてスクリプト記述され、管理下ノードに送信されて実行されます。例えば、スクリプトには、所有者、プライマリユーザーの電話番号、管理タグなどのすべての固有な変数の値を指定できます。固有値を移植するスクリプトがあれば、システムのコマンドラインから 1 つずつ設定するのではなく、一度にすべての固有変数をすべて設定できます。

多くの場合、CLI により、ユーザーは十分に定義されたタスクを実行して、システムの情報を素早く取得できます。すべてのシステムコンポーネントの包括的な概要を確認して、その概要情報を、後のシステム状態と比較するためにファイルに保存する場合、CLI が適しています。

CLI コマンドを使用して、管理者は特定の時刻に実行するバッチプログラムまたはスクリプトを作成できます。これらのプログラムを実行すると、最高システム使用率のときのファン RPM と最低システム使用率のときの同じ測定値の比較など、目的のコンポーネントのレポートをキャプチャできます。コマンド結果は、後で分析するためにファイルに保存されます。レポートにより、管理者は、使用パターンの調整、新しいシステムリソース購入の正当化、問題のあるコンポーネントの正常性の確認のための情報を入手できます。

コマンド構文の概要

コマンドは、単純なものから複雑なものまでさまざまです。最も単純なコマンドは、コマンドレベル 1 のみで構成されます。**omhelp** は単純なコマンドの例です。**omhelp** とタイプすると、主要な CLI コマンドのリストが表示されます。

これよりも 1 段階複雑なコマンドは、コマンドレベル 1 および 2 で構成されます。**about** コマンドはすべて、コマンドレベル 2 の複雑さを有するコマンドの例です。**omconfig about** や **omreport about** などのコマンドは、非常に簡潔なサマリを表示します。このサマリは、例えば、Server Administrator 1.x のように、システムにインストールされているシステム管理ソフトウェアのバージョン情報を表示します。

いくつかのコマンドは、コマンドレベル 1 とコマンドレベル 2 に加えて、1 組の「名前=値」のペアを持ちます。例えば、次のコマンドは、Server Administrator の環境についてより詳しく表示するように Server Administrator に指示します。

```
omreport about details=true
```

コマンドレベル 1 が **omreport**、コマンドレベル 2 が **about** で、名前=値のペアは **details=true** です。

多くのコマンドは、コマンドレベル 1、コマンドレベル 2、コマンドレベル 3 で構成されますが、パラメータ (名前=値のペア) は必要としません。**omreport** コマンドの大半はこのタイプです。例えば次のコマンドは、システムのコンポーネントに対して設定されているアラートアクションのリストを表示します。

```
omreport system alertaction
```

最も複雑なコマンドは、3 つのコマンドレベルに加えて、複数の名前=値のペアを持つことができます。次の例は、2 つの「名前=値」のペアを持っています。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation duration=3
```

次は、9 個の「名前=値」のペアの例です。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasecost=<n> waybill=<n>
installdate=<mmddy> purchasedate=<mmddy> ponum=<n> signauth=<text>
expensed=<yes>|no> costcenter=<text>
```

本マニュアルの各章で、コマンド構文およびその他のコマンドに関する情報は、次のフィールドの中からそのコマンドに該当するものを使用した形式で提示されます。

コマンドレベル 1 コマンドレベル 2 コマンドレベル 3 名前=値のペア 1 名前=値のペア 2

omhelp コマンドの使用

omhelp コマンドとこれに相当する `<command> -?` は、コマンドラインインタフェース (CLI) の詳細なヘルプテキストインタフェースにアクセスします。数段階の詳細レベルからのヘルプを取得できます。

各完全修飾 CLI コマンドは、さまざまなパーツの変数番号があります。たとえば、コマンド (コマンドレベル 1)、1 つまたは複数のサブコマンド (コマンドレベル 2、存在する場合はコマンドレベル 3) および 1 つまたは複数の「名前=値」のペア。

`-?` (スペース - ダッシュ - 疑問符) をコマンドの後に入力すると、そのコマンドに関するヘルプを表示できます。

ヘルプコマンドの例

`omconfig -?` と入力すると、**omconfig** コマンドの一般的なヘルプが表示されます。このレベルのヘルプには、**omconfig** で使用できる次のサブコマンドが一覧表示されます。

- about
- preferences
- シャーシ
- システム

`omconfig system -?` と入力すると、CLI ヘルプに **omconfig system** で使用できるすべてのサブコマンドが一覧表示されます。

- alertaction
- alertlog
- assetinfo
- cmdlog
- esmlog
- events
- platformevents
- pedestinations
- recovery
- shutdown
- thrmsshutdown
- webserver

次のように **omconfig system assetinfo** コマンドを解析することもできます。

`<コマンドレベル 1 コマンドレベル 2 コマンドレベル 3> <名前=値のペア 1> [名前=値のペア 2]`

コマンドレベル 1、2 および 3 は **omconfig system assetinfo** で、名前=値のペア 1 は **info=depreciation** で、また、名前=値のペア 2 は **method=straightline** で表します。

減価償却方法を直線法に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=straightline
```

CLI から次のメッセージが返されます。

資産情報は正常に設定されました。

omconfig system assetinfo -? と入力すると、表示されるヘルプには、名前フィールドとオプションフィールドへの値の割り当てについての情報が示されます。リクエスト **omconfig system assetinfo -?** の結果の一部を以下に示します。

```
assetinfo Set asset information.
```

1つの情報値につき、オプションのパラメータを1つまたは複数、次のように指定します。

次の表には、**info=acquisition** のオプションパラメータを示します。

表 2. オプションパラメータ

情報値	オプションパラメータ
Info=acquisition	purchasecost=<num> waybill <num>installdate =<mmdyy> purchasedate=<mmdyy> ponum=<num> signauth=<text> expensed=<yes no> costcenter=<text> info=depreciation method=<text> duration= <num> percent=<percent> unit=<months years unknown>

omreport: 計装サービスを使用したシステム状態の表示

omreport コマンドで、システムコンポーネントの詳細情報を表示できます。一度に多くのシステムコンポーネントの概要を、または特定のコンポーネントの詳細を取得することもできます。本章では、目的の詳細レベルでレポートを取得する方法を説明します。

本章に記載されているコマンドは、特定の **omreport** コマンドの結果に表示されるフィールドを定義するかどうかという点で異なります。このフィールドは、特別な使用方法または頻度が低い使用方法の場合のみを定義します。

他のすべてのコンポーネントと同じように、**omreport** を使用してコンポーネントの状態を表示し、**omconfig** を使用してコンポーネントを管理します。コンポーネントを管理用に設定する方法については、「[omconfig : 計装サービスを使ったコンポーネントの管理](#)」を参照してください。

omreport コマンドを使用して、**omconfig** コマンドの実行に必要な情報を入手します。例えば、温度プローブについての警告イベントの最小温度を編集するには、設定するプローブのインデックスを知っている必要があります。プローブとそのインデックスのリストを表示するには、**omreport chassis temps** を使用します。

システムで使用可能な **omreport** コマンドは、システム設定によって異なります。次の表は、**omreport commands** を使用できるシステムを示します。

表 3. **omreport** コマンドに対するシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	対象
omreport	modularenclousure	ブレードシステム
	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	システム	ラック型システムとタワー型システム
	シャーシ	ラック型システムとタワー型システム
	preferences	ブレードまたはラック型、およびタワー型システム


パラメータ表の規則

コマンドに使えるパラメータをリストにする場合、パラメータはコマンドラインインタフェースに表示される順ではなくアルファベット順にリストされます。

記号「|」（通常パイプと呼ばれる）は、*排他的論理和演算子*です。例えば、enable | disable は、コンポーネントまたは機能を有効または無効にできますが、コンポーネントと機能を同時に有効または無効にすることはできないことを意味しています。

omreport コマンドのコマンド概要

システム構成によっては、**omreport** コマンドの結果はシステムごとに異なります。取り付けられているコンポーネントのデータのみが表示されます。

 **メモ:** システムに外部シャーシが含まれる場合、表示される結果はオペレーティングシステムによって異なります。SUSE Linux Enterprise Server および Red Hat Enterprise Linux システムでは、**omreport** コマンドは、メインシャーシ情報の後の別のセクションに外部シャーシ情報を表示します。Microsoft Windows システムでは、外部シャーシについてのデータは **omreport** 出力には示されません。

次の表は、**omreport** コマンドの高レベルな概要を示します。**コマンドレベル 1** 列は、最も汎用的な使用における **omreport** コマンドを示します。**コマンドレベル 2** は、omreport (about、chassis、storage、および system) を使用して表示できる主なオブジェクトまたはコンポーネントを示します。**コマンドレベル 3** は、レポートを表示する特定のオブジェクトとコンポーネントをリストします。**必要なユーザー権限** は、コマンドを実行する必要がある特権のタイプを示します。ここで、U = ユーザー、P = パワーユーザー、A = システム管理者です。**使用** は、**omreport** を使用して実行される処置についての非常に一般的な説明です。

次の表は、about、system、およびメインシステムシャーシに使用できる **omreport** コマンドをリストします。

表 4. omreport コマンドレベル 1、2、3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	使用
omreport	modularen closure		U、P、A	すべてのモジュラシャーシの情報を表示します。
	about		U、P、A	Server Administrator のバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされているすべての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	chassis または mainsystem		U、P、A	すべての主要コンポーネントの一般的な状態を表示します。
		acswitch	U、P、A	システムにおける冗長 AC 電力線がサポートされているフェイルオーバー設定を表示します。
		batteries	U、P、A	バッテリーのプロパティ設定を表示します。
		bios	U、P、A	製造元、バージョン、およびリリース日などの BIOS 情報を表示します。
		biossetup	A	システム起動中に設定された BIOS 設定プロパティを表示します。

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	使用
		fans	U、P、A	システムのファンの状態としきい値を表示します。
		firmware	U、P、A	ファームウェアの名前とバージョンを表示します。
		frontpanel	U、P、A	電源 ボタンまたは Nonmasking Interrupt (NMI) ボタン、あるいはその両方（システムにある場合）が有効か無効かを表示します。フロントパネル暗号化アクセス情報とフロントパネル LCD 情報も表示します。
		fru	U、P、A	フィールド交換可能ユニット（FRU）の情報を表示します。
		hwperformance	U、P、A	システムの性能劣化の状態および原因を表示します。
		info	U、P、A	メインシステムのシャーシコンポーネントの状態の概要を表示します。
		intrusion	U、P、A	システムのイントルージョンセンサーの状態を表示します。
		leds	U、P、A	さまざまな警告状況に従って LED が点滅するように設定したプロパティを表示します。
		メモリ	U、P、A	システムのメモリアレイのプロパティを表示します。
		nic	U、P、A	NIC およびチームインタフェースのプロパティを表示します。
		ports	U、P、A	I/O アドレス、IRQ レベル、コネクタの種類、最大速度など、システムのパラレルポートとシリアルポートのプロパティを表示します。
		processors	U、P、A	速度、製造元、プロセッサシリーズなど、システムのプロセッサのプロパティを表示します。
		pwrmanagement	U、P、A	システムアイドル電力、システム最大潜在電力、および電力バジェット情報などの電源インベントリの詳細を表示します。
		pwrmonitoring	U、P、A	電力消費のプロパティを表示します。
		pwrsupplies	U、P、A	電力装置のプロパティを表示します。
		remoteaccess	U、P、A	リモートアクセスの一般情報を表示します。

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	使用
		スロット	U、P、A	システムの拡張スロットやその他のスロットタイプのプロパティを表示します。
		temps	U、P、A	システムの温度センサーの状態としきい値を表示します。
		volts	U、P、A	システムの電圧センサーの状態としきい値を表示します。
		removableflashmedia	U、P、A	システムの仮想フラッシュ (vFlash) およびセキュアデジタル (SD) カードの詳細を表示します。
	licenses		U、P、A	システムに取り付けられたハードウェアデバイスのデジタルライセンスを表示します。
	ストレージ		U、P、A	「Storage Management サービスの使用」 を参照してください。
	system または servermodule		U、P、A	システムコンポーネントの高レベルな概要を表示します。
		alertaction	U、P、A	警告とエラーのしきい値に加え、必要不可欠なコンポーネントが警告やエラー状況を検出した場合に設定されている処置を表示します。
		alertlog	U、P、A	管理者がアラートログを表示できます。
		assetinfo	U、P、A	システムの所有コスト情報を表示します。
		cmdlog	U、P、A	管理者がコマンドログを表示できます。
		esmllog	U、P、A	管理者がハードウェアログを表示できます。
		events	U、P、A	システムの Simple Network Management Protocol (SNMP) イベント設定を表示します。
		operatingsystem	U、P、A	オペレーティングシステムの名前とバージョンを表示します。
		pedestinations	U、P、A	プラットフォームイベントの設定済みアラートの送信先を表示します。
		platformevents	U、P、A	リストされた各プラットフォームイベントに対するシステムの応答を表示します。
		recovery	P、A	ハング状態にあるオペレーティングシステムにシステムが応答する方法の設定を表示します。
		shutdown	P、A	シャットダウンを実行する方法を表示します。

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	必要なユーザー権限	使用
		summary	U、P、A	メインシステムシャーシ、ソフトウェア、およびストレージを含むすべてのシステムコンポーネントの主要点を表示します。
		thrmshutdow n	P、A	温度の警告またはエラー状況が検知された場合に、シャットダウン処置（ある場合）を実行するための方法を表示します。
		バージョン	U、P、A	システム上のアップデート可能なコンポーネントすべての概要を表示します。
	preferences	webserver	U、P、A	Server Administrator ウェブサーバーの URL 情報を表示します。
		messages.log	A	設定済みの警告メッセージ形式を表示します。

関連リンク：[omreport: 計装サービスを使用したシステム状態の表示](#)

omreport コマンドのヘルプ

omreport で使用できるコマンドのリストを表示するには、**omreport -?** コマンドを使用します。

レベル2の **about**、**chassis**、および **system** コマンドのヘルプを表示するには、**omreport <コマンドレベル2> -?** を使用します。**omreport system -?** についての以下の情報は、**omreport chassis** コマンドのヘルプの表示にも該当します。


omreport system に有効なコマンドのリストを表示するには、次のように入力します。

```
omreport system -? | more
```


omreport modularenclousure

ブレードシステムの詳細を表示するには **omreport modularenclousure** コマンドを使用します。次を入力します。

```
omreport modularenclousure
```

 **メモ:** この CLI コマンドは、Dell OpenManage Server Administrator が Dell ブレードシステムにインストールされている場合に利用可能です。

Server Administrator はモジュラエンクロージャとシャーシ管理コントローラ CMC に関連する情報を表示します（利用可能である場合）：

 **メモ:** 出力内容は、システムの構成によって異なります。

モジュラシャーシの情報

シャーシ情報

属性 : モデル

```

Value          : モジュラーサーバーエンクロージャ
属性          : ロック
Value          : 真
属性          : サービスタグ
Value          : 8RLNB1S
属性          : エクスプレスサービスコード
Value          : 18955029124

CMC 情報
属性          : 製品
Value          : シャーシ管理コントローラ (CMC)
属性          : 説明
Value          : システムコンポーネントは Dell システムに対して完全な
リモート管理機能一式を提供します。
属性          : バージョン
Value          : 3.20
属性          : IP アドレス
Value          : 101.102.103.104
属性          : IP アドレスソース
Value          : 動的ソース
属性          : IP アドレスタイプ
Value          : IPv4
属性          : リモート接続インタフェース
Value          : CMC ウェブインタフェースの起動

```

omreport about

システムにインストールされているシステム管理アプリケーションの製品名およびバージョン番号を確認するには、**omreport about** コマンドを使用します。以下は、**omreport about** コマンドの出力例です。

```

製品名          : Dell OpenManage Server Administrator
バージョン      : x.x.x
著作権          : Copyright (C) Dell Inc. xxxx-xxxx. All rights
reserved.

```


会社 : Dell Inc.

Server Administrator 環境に関する詳細を確認するには、以下のように入力します。

```
omreport about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスがあり、それぞれに独自のバージョン番号があります。内容 フィールドは、サービスのバージョン番号と、その他の有用な詳細情報も示します。以下は、出力例です。システム構成やシステムにインストールされている Server Administrator のバージョン番号によって異なります。

```
内容 : Instrumentation Service 7.x.x Storage Management 4.x.x
      Sun Java Runtime Environment 1.x.x_xx Secure Port Server
      7.x.x Server Administrator Core Files 7.x.x
      Instrumentation Service Integration Layer 7.x.x Server
      Administrator Common Framework 7.x.x Common Storage
      Module 4.x.x Data Engine 7.x.x Instrumentation Service
      7.x.x
```

omreport chassis または omreport mainsystem コマンド

シャーシ全体または特定のコンポーネントの詳細を表示するには、**omreport chassis** または **omreport mainsystem** コマンドを使用します。

```
omreport chassis
```

または

```
omreport mainsystem
```

Server Administrator がメインシステムのシャーシまたはコンポーネントの一般的な状態を表示します。

```
Health
Main System Chassis
SEVERITY : COMPONENT
Ok : Fans
Critical : Intrusion
Ok : Memory
Ok : Power Supplies
Ok : Temperatures
Ok : Voltages
```

omreport chassis acswitch または omreport mainsystem acswitch

フェイルオーバー用に設定された冗長 AC 電源ラインがシステムに含まれる場合は、**omreport chassis acswitch** または **omreport mainsystem acswitch** コマンドを使用します。次のようにタイプします。

```
omreport chassis acswitch
```

または

```
omreport mainsystem acswitch
```

Server Administrator によって次のように出力されます。

AC フェールオーバースイッチ

AC スイッチの冗長性

冗長性状態	: 完全
完全冗長に必要なデバイス数	: 2
冗長性モード	:
冗長性設定	: 入力ソースライン 1、冗長性復元時、ライン 1 に復帰

AC 電源ライン

Status (ステータス)	: Ok
場所	AC 電源ライン 1
AC 有無	: 有
アクティブソース	: アクティブ
Status (ステータス)	: Ok
場所	AC 電源ライン 2
AC 有無	: 有
アクティブソース	: 非アクティブ

Server Administrator は **Redundancy Status** と **Redundancy Mode** フィールドの値を報告します。

omreport chassis batteries または omreport mainsystem batteries

バッテリーのプロパティを表示するには **omreport chassis batteries** または **omreport mainsystem batteries** コマンドを使用します。

```
omreport chassis batteries
```

または

```
omreport mainsystem batteries
```

omreport chassis bios または omreport mainsystem bios

現在の BIOS 情報を表示するには、**omreport chassis bios** または **omreport mainsystem bios** コマンドを使用します。

```
omreport chassis bios
```

または

```
omreport mainsystem bios
```

Server Administrator がシステムの BIOS 情報の概要を表示します。


omreport chassis biossetup または omreport mainsystem biossetup

通常はシステム起動時にのみ使用可能な BIOS セットアップパラメータを表示するには、**omreport chassis biossetup** または **omreport mainsystem biossetup** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup
```

または

```
omreport mainsystem biossetup
```


 **メモ:** コマンド間で統一するために、このコマンドの出力形式は変更されています。これに合わせてユーザースクリプトを変更してください。


短縮形で BIOS セットアップパラメータを表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup display=shortnames
```

利用可能なすべての起動デバイス、エイリアス名、起動順序を表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis biossetup attribute=bootorder
```

 **メモ:** bootorder 属性は、12G より前のシステムでのみ使用可能です。デバイス起動順序をリストするには、omreport chassis biossetup と入力して、BIOS 起動設定に応じて、**BIOS 起動設定** または **UEFI 起動設定** のリストを確認します。

 **メモ:** Linux システムでは、システム管理者またはシステム管理者グループにアップグレードされたユーザーまたはユーザーグループは、起動順序を表示できません。

PowerEdge 12G システムより前のシステムでの BIOS セットアップパラメータ

次の表には、PowerEdge 12G システムより前のシステムで使用可能な、BIOS セットアップパラメータが示されています。



 **メモ:** 表示されていない BIOS セットアップパラメータもあります。システム起動の間に設定される BIOS セットアッププロパティのみが表示されています。

表 5. Dell PowerEdge 12G システムより前のシステムでの BIOS セットアップパラメータ

パラメータ	説明
BootSequence	システムのブートに使用するデバイスを表示します。
Num Lock	キーパッドが数字キーとして使用されているかどうかを表示します。
組み込みビデオコントローラ	内蔵ビデオコントローラ オプションが有効または無効になっているかを表示します。
Boot Mode (起動モード)	ブートモードが BIOS または UEFI (Unified Extensible Firmware Interface) に設定されているかを表示します。
プロセッサ C1-E	プロセッサ C1-E の状態を表示します。
CPU Execute Disable	XD (Execute Disable) オプションが有効または無効になっているかを表示します。
Processor C State Control	プロセッサ C ステートコントロールのオプションが有効または無効になっているかを表示します。

パラメータ	説明
プロセッサ CMP	プロセッサごとに有効になっているコア数を表示します。
ユーザーのアクセスが可能な USB ポート	ユーザーアクセス可能 USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
CPU 仮想化技術	仮想化テクノロジーによって提供された追加のハードウェア機能を表示します。
AC 電源リカバリモード	停電後に入力電力が復元したときのシステム状態を表示します。
組み込み SATA コントローラ	内蔵 SATA コントローラが ATA モード、RAID モード、または無効かを表示します。
SATA Port 0	SATA ポート 0 の状態を表示します。
SATA Port 1	SATA ポート 1 の状態を表示します。
Dual NIC (1/2)	PXE が付いた NIC 1 および NIC 2 が有効または無効になっているかを表示します。
Dual NIC (3/4)	PXE が付いた NIC 3 および NIC 4 が有効または無効になっているかを表示します。
NIC 1	システムの起動中に最初の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 2	システムの起動中に二番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 3	システムの起動中に三番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
NIC 4	システムの起動中に四番目の NIC が有効 (PXE/iSCSI のあるなしにかかわらず) または無効になっているかを表示します。
Trusted Cryptographic Module (TCM)	TCM がオンまたはオフになっているかを表示します。
Trusted Platform Module (TPM) Security	信頼済みプラットフォームモジュールがオフか、起動前の測定付きでオンになっているか、あるいは起動前の測定なしで有効になっているかを表示します。
内蔵 USB ポート (番号)	内蔵 USB が有効または無効かを表示します。  メモ: システムに 1 つの USB ポートしか搭載されていない場合、Server Administrator に USB シーケンス番号が表示されません。
Operating System Watchdog Timer	オペレーティングシステムウォッチドッグタイマーが有効になっているか、無効になっているかを表示します。
HT Assist	プローブフィルタチップセットのオプションの状態を表示します。
内蔵 SD カード	内蔵 SD カードが有効になっているか、無効になっているかを表示します。
Bezel	システムリブート中にベゼルの削除イントルージョンが有効または無効になっているかを表示します。

パラメータ	説明
コンソールリダイレクト	BIOS 画面が特定のシリアルポートにリダイレクト、またはオフになっているかを表示します。
ディスク	ディスクが無効、自動有効、または読み取り専用のいずれかを表示します。
Demand Based Power Management (DBS)	DBS がシステムで有効または無効になっているかを表示します。
組み込みハイパーバイザ	内蔵されたハイパーバイザが有効または無効になっているかを表示します。
IDE	ドライブが有効または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 0	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
IDE Primary Drive 1	デバイスが自動検知され有効になっている、または無効になっているかを表示します。
インテリジェント	システムブート中にインテリジェントチェックが有効または無効になっているかを表示します。
マウス	マウスが有効または無効になっているかを表示します。
光学式ドライブコントローラ	光学ドライブが有効または無効になっているかを表示します。
Parallel port address	アドレスが LPT1、LPT2、LPT3 に存在するか、または無効になっているかを表示します。
Parallel port mode	パラレルポートに関連した設定を表示します。
プライマリ SCSI	デバイスがオンまたはオフになっているかを表示します。
RAID on motherboard	マザーボード RAID が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されている、またはデバイスがシステムブート中に無効になっているかを表示します。
RAID Channel A	マザーボード RAID チャンネル A が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
RAID Channel B	マザーボード RAID チャンネル B が RAID デバイスまたは SCSI デバイスとして検知されているかを表示します。
シリアルポート 1	シリアルポート 1 が COM port、COM port 1、COM port 3、COM1 BMC、BMC Serial、BMC NIC、BMC RAC、にマップされているか、または無効であるかを表示します。
シリアルポート 2	シリアルポート 2 が COM ポート、COM ポート 2、COM ポート 4 にマップされている、または無効になっているかを表示します。
スピーカ	スピーカがオンまたはオフになっているかを表示します。
USB または USBB	USB ポートが有効または無効になっているかを表示します。
セカンダリ SCSI	デバイスが有効または無効になっているかを表示します。

パラメータ	説明
シリアル通信	COM ポート 1 と COM ポート 2 が有効か無効か、またコンソールリダイレクトの有無を表示します。
起動後のコンソールリダイレクト	システム起動後のコンソールリダイレクトが有効か無効かを表示します。
外付けシリアルコネクタ	外部シリアルコネクタがシリアルデバイス 1、シリアルデバイス 2、またはリモートアクセスデバイスのうち、どれにマップされているかを表示します。
Console Redirection Failsafe Baud Rate	コンソールリダイレクトフェイルセーフボーレートの設定を表示します。
シリアルアドレス選択	シリアルデバイスのポートアドレスを表示します。

PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップグループ

以下の表に PowerEdge yx2x システム上の BIOS セットアップパラメータで有効なグループのリストを示します。


 **メモ:** ハードウェア構成により、属性は個々のグループ内で異なる場合があります。

表 6. PowerEdge yx2x システムでの BIOS セットアップグループ

グループ	説明
BIOS Boot Settings (BIOS 起動設定)	bootmode が bios に設定されているとき、システムの起動設定を制御します。
Boot Settings (起動設定)	bootmode が bios に設定されているとき、システムの起動設定を制御します。
組み込みサーバー管理	組み込みサーバー管理のオプションを設定します。
内蔵デバイス	システムボードに統合されたデバイスを制御します。
メモリ設定	システムメモリ設定を制御します。
その他の設定	その他のシステム設定を制御します。
One-Time Boot (1 回限りの起動)	特定のデバイスに対する 1 回限りの起動をサポートします。
プロセッサ設定	システムのプロセッサ設定を制御します。
SATA 設定	組み込みの SATA ポートの設定を制御します。
シリアル通信	シリアル通信オプションを制御します。
Slot Disablement (スロット無効)	システムに存在するシステムスロットを制御します。
システム情報	システムを一意に特定する情報を表示します。
システムプロファイル設定	電力管理設定を制御します。
システムセキュリティ	システムのセキュリティ機能を制御します。

グループ	説明
UEFI 起動設定	起動モードが uefi に設定されているときに、システムの起動設定を制御します。

omreport chassis currents または omreport mainsystem currents

現在、Server Administrator ではこのコマンドは使用できなくなっています。

omreport chassis fans または omreport mainsystem fans

ファンローブの状態および設定を表示するには、**omreport chassis fans** または **omreport mainsystem fans** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=n
```

または

```
omreport mainsystem fans index=n
```

index パラメータはオプションです。**index** を指定しない場合は、Server Administrator はシステムにある任意のファンローブの状態、読み取り値、およびしきい値の概要を表示します。**index** を指定した場合、Server Administrator は特定のファンローブの概要を表示します。

omreport chassis firmware または omreport mainsystem firmware



現在のファームウェアのプロパティを表示するには、**omreport chassis firmware** または **omreport mainsystem firmware** コマンドを使用します。下記のいずれかのコマンド

```
omreport chassis firmware
```

または

```
omreport mainsystem firmware
```

を入力すると、Server Administrator はシステムのファームウェアのプロパティの概要を表示します。

-  **メモ:** コマンド間の一貫性を維持するため、このコマンドの出力フォーマットは変更されました。必要に応じてユーザースクリプト変更してください。
-  **メモ:** iDRAC がインストールされている場合、Server Administrator は Lifecycle Controller のバージョンを表示します。BMC がインストールされている場合は、Server Administrator は Unified Server Configurator (USC) のバージョンを表示します。

omreport chassis frontpanel または omreport mainsystem frontpanel

電源ボタンや **マスク不可能割り込み (NMI)** ボタン (システムに存在する場合) などのフロントパネルボタンの制御設定が有効か無効かを確認するには、**omreport chassis frontpanel** または **omreport mainsystem frontpanel** コマンドを使用します。

システムに **電源** ボタンのオーバーライドが存在する場合は、**電源** ボタンのオーバーライドが有効になっているかどうかを確認してください。電源ボタンは、システムへの電源を **オン** または **オフ** にします。

システムに **NMI** ボタンのオーバーライドが存在する場合は、**NMI** ボタンのオーバーライドが有効になっているかどうかを確認してください。**NMI** ボタンは、ある種のオペレーティングシステムを使用している場合のソフトウェアまたはデバイのトラブルシューティングに使用します

フロントパネル LCD セキュリティアクセスは、フロントパネルの暗号化のアクセス情報が、**表示、変更または無効**のいずれに設定されているかを表示します。

フロントパネル LCD 情報は、サービスタグ、リモートインディケーションステータスなどの情報を表示します。

omreport chassis fru または omreport mainsystem fru

FRU 情報を表示するには、**omreport chassis fru** または **omreport mainsystem fru** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis fru
```

または

```
omreport mainsystem fru
```

Server Administrator がシステムの FRU 情報の概要を表示します。この情報は、Server Administrator GUI、SNMP、および Common Information Model で確認でき、主にトラブルシューティングのために使用されます。

omreport chassis hwperformance または omreport mainsystem hwperformance


システムのパフォーマンス劣化の状態および原因を表示するには、**omreport chassis hwperformance** または **omreport mainsystem hwperformance** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis hwperformance
```

または

```
omreport chassis hwperformance
```

Server Administrator がシステムのハードウェアパフォーマンスの劣化情報の概要を表示します。

 **メモ:** このコマンドは、PMBus をサポートする一部の Dell 10G システムにのみ適用できます。

システムの構成によっては、次が出力される場合があります。

```
Hardware Performance
```

```
Index                : 0
Probe Name           : System Board Power Optimized
Status               : Normal
Cause                : [N/A]
```

omreport chassis info または omreport mainsystem info


omreport chassis info または **omreport mainsystem info** コマンドを使用すると、インストールされているコンポーネントのバージョンの概要が表示されます。次のようにタイプします。

```
omreport chassis info index=n
```

または

```
omreport mainsystem info index=n
```


index パラメータには任意でシャーシ番号を指定します。index を指定しない場合、Server Administrator は各シャーシごとのシャーシ情報の概要を表示します。index を指定すると、Server Administrator はその指定されたシャーシの情報のサマリ情報を表示します。

 **メモ:** iDRAC がインストールされている場合、Server Administrator は Lifecycle Controller のバージョンを表示します。BMC がインストールされている場合は、Server Administrator は USC (Unified Server Configurator) のバージョンを表示します。

システムの構成に応じて、次のような内容が出力される場合があります。

インデックス	: 0
シャーシ名	: メインシステムシャーシ
ホスト名	: WIN-27C02UQFV6L
iDRAC7 バージョン	: 1.00
シャーシモデル	: PowerEdge R720
シャーシロック	: 有
シャーシサービスタグ	: 7654321
エクスプレスサービスコード	: 15608862073
シャーシ資産タグ	: c

omreport chassis intrusion

omreport chassis intrusion コマンドは、システムのカバーが開いているかどうかを調べるのに使用します。Server Administrator はシャーシのイントルージョン (侵入) イベントを追跡します。これはイントルージョンが、システムコンポーネントの盗難や、正当な権限がない者による保守が行われていることを示唆する可能性があるためです。次のようにタイプします。

```
omreport chassis intrusion
```

以下のようなメッセージが表示されます。

イントルージョン情報	
正常性	: Ok
インデックス	: 0
Status (ステータス)	: Ok
プローブ名	: イントルージョン
State (状態)	: シャーシは閉じています

omreport chassis leds または omreport mainsystem leds

ハードドライブフォールトのクリアがサポートされているかどうかと、どの重大度レベルで LED が点滅するかを確認するには、**omreport chassis leds** または **omreport mainsystem leds** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis leds index=n
```

または

```
omreport mainsystem leds index=n
```

index パラメータはオプションです。index を指定しない場合、Server Administrator はシャーシ 0 の LED 情報の概要を表示します。index を指定すると、Server Administrator は特定のシャーシの概要を表示します。

次に出力例を示します。

メインシステムシャーシ

シャーシ識別 LED の点滅状況 : Off

シャーシ識別 LED 点滅のタイムアウト値 : 300

omreport chassis memory または omreport mainsystem memory

システム内の各メモリモジュールの詳細を表示するには、**omreport chassis memory** または **omreport mainsystem memory** を使用します。システムが冗長メモリをサポートする場合、このコマンドはシステムで実装されているメモリ冗長性の状態、状況、およびタイプも表示します。次のように入力します。

```
omreport chassis memory index=n
```

または

```
omreport mainsystem index=n
```

index パラメータはオプションです。index を指定しない場合、Server Administrator は次のようにシステム上のすべてのメモリモジュールの情報を表示します。

次に出力例を示します。

Memory Information (メモリ情報)

正常性 : Ok

メモリアレイの属性

場所 : システム基板またはマザーボード

使用 : システムメモリ

インストールされた容量 : 65536 MB

最大容量 : 786432 MB

使用可能なスロット : 24

使用中のスロット : 8

エラー修正 : マルチビット ECC

メモリアレイの合計

インストールされた容量の合計 : 65536 MB

オペレーティングシステムが使用できるインストールされた容量の合計 : 64386 MB

```

最大容量合計                : 786432 MB

メモリアレイ 1 の詳細
インデックス                : 0
Status (ステータス)        : Ok
Status (ステータス)        : Ok
Status (ステータス)        : Ok
コネクタ名                  : DIMM_A1
タイプ                      : DDR3 - 同期登録済み (バッファ)
サイズ                      : 8192 MB
インデックス                : 1
Status (ステータス)        : Ok
コネクタ名                  : DIMM_A2
タイプ                      : DDR3 - 同期登録済み (バッファ)
サイズ                      : 8192 MB
インデックス                : 2
Status (ステータス)        : Ok
コネクタ名                  : DIMM_A3
タイプ                      : DDR3 - 同期登録済み (バッファ)
サイズ                      : 8192 MB
インデックス                : 3
Status (ステータス)        : Ok
コネクタ名                  : DIMM_A4
タイプ                      : DDR3 - 同期登録済み (バッファ)
サイズ                      : 8192 MB

```


index を指定すると、Server Administrator は、特定のメモリモジュールについて、正常性、状態、デバイス名、タイプ、速度、ランク、および障害を含む概要を表示します。ランクとは、Dual Inline Memory Module (DIMM) あたり 64 ビットのデータからなる一連の DRAM デバイスです。ランクに指定できる値は、single、dual、quad、octal、および hexa です。ランクは DIMM のランクを表示し、これによりサーバー上の DIMM のサービスが容易になります。

以下は、index を指定した場合の出力例です。

メモリデバイス情報


正常性 : Ok

Status (ステータス)	: Ok
デバイス名	: DIMM_A1
サイズ	: 8192 MB
タイプ	: DDR3 - 同期登録済み (バッファ)
速度	: 0.75 ns
ランク	: Dual
障害	: なし

 **メモ:** コマンド間で統一するために、このコマンドの出力形式と以降のコマンドのレベルは変更されています。これに合わせてユーザースクリプトを変更してください。

omreport chassis nics または omreport mainsystem nics

NIC およびチームインタフェースの詳細を表示するには、**omreport chassis nics** または **omreport mainsystem nics** コマンドを使用します。XenServer では、このコマンドは、ドライバのインストールにかかわらず、取り付けられているすべての NIC を表示します。

 **メモ:** デバイスが検出された順序は、デバイスの物理ポート順序と一致するとは限りません。

NIC プロパティを表示するには、次のように入力します。


```
omreport chassis nics index=n
```

または

```
omreport chassis nics index=n
```

index パラメータはオプションです。index を指定しない場合は、Server Administrator はシステム上のすべての NIC のプロパティと **Index** (NIC カード番号)、**Interface Name**、**Vendor**、**Description**、**Connection Status**、および **Slot** フィールドの値を表示します。

index パラメータを指定した場合、Server Administrator は、特定の NIC のプロパティと **Physical Interface**、**Interface name**、**IPv4 Addresses**、**IPv6 Addresses**、**Physical Interface Receive Statistics**、**Physical Interface Transmit Statistics**、**Interface Receive Statistics**、および **Interface Transmit Statistics** の各フィールドの値を表示します。

 **メモ:** 統合型ネットワークアダプタ (CNA) カードの Fibre Channel over Ethernet (FCoE) および iSCSI over Ethernet (iSoE) 機能は、VMware ESX および VMware ESXi システムではサポートされていません。

チームインタフェースのプロパティを表示するには、次のように入力します。

```
omreport chassis nics config=team index=n
```

または

```
omreport mainsystem nics config=team index=n
```

 **メモ:** このコマンドは、チームインタフェースがシステムで設定されている場合にのみ使用できます。チームインタフェースは、Broadcom などの NIC ベンダーツールで設定します。

index パラメータはオプションです。index を指定しない場合は、Server Administrator はシステム上のすべてのチームインタフェースの詳細と **Index** (NIC カード番号)、**Interface Name**、**Vendor**、**Vendor**、および **Redundancy Status** フィールドの値を表示します。

index パラメータを指定した場合、Server Administrator は、特定 NIC のチームインタフェースの詳細と **Team Interface**、**Interface**、**IPv4 Addresses**、**IPv6 Addresses**、**Team Interface Receive Statistics**、**Team Interface Transmit Statistics**、**Interface Receive Statistics**、および **Interface Transmit Statistics** の各フィールドの値を表示します。

omreport chassis ports または omreport mainsystem ports

omreport chassis ports または **omreport mainsystem ports** コマンドを使用すると、システムの平行ポートとシリアルポートのプロパティが表示されます。

 **メモ:** ブレードサーバーに接続されている CMC USB ポートは OMSA によって数えられません。

Server Administrator は、次のフィールドの値を表示します：**ポートタイプ**、**外部名**、**ベース I/O アドレス**、**IRQ レベル**、**コネクタタイプ**、および **最大速度**。次の表でフィールドについて説明します。

表 7. フィールドと説明

フィールド	説明
ポートタイプ	各システムポートタイプの詳細で、シリアル、パラレル、USB などのポートや、ポインティングデバイス、キーボードなどポートに接続されるデバイス種類ごとのポート名が示されます。
外部名	シリアルまたはパラレル、USB、マウス、キーボードなどのポートの名前です。
ベース I/O アドレス	16 進数で表現した開始 I/O アドレス。
IRQ レベル	システムにおけるハードウェア割り込みです。このハードウェア割り込みは、モデムやプリンタなどの周辺機器コンポーネントでイベントが開始された、または終了したことをシステムの CPU に合図します。周辺機器相互接続 (PCI) カードを介して通信を行うとき、IRQ レベルは割り込み要求を送信しているデバイスのタイプを識別するための標準手段です。
コネクタタイプ	プラグのタイプ、または 2 つのデバイスを接続するケーブルとプラグで、この場合は外部デバイスをシステムに接続するコネクタのタイプです。コネクタには多くのタイプがあり、それぞれ異なるデバイスタイプをシステムに接続するよう設計されています。例えば、DB-9 オス、AT、アクセスバス、PS/2 などがあります。
最大速度	ポート速度。ポート速度とは、1 秒あたりのビット数で表す、入出力チャネルのデータ転送率です。シリアルポートは通常、最大速度 115 Kbps で、USB バージョン 1.x ポートは最大速度 12 Kbps です。

omreport chassis processors または omreport mainsystem processors

システムのプロセッサのプロパティを表示するには、**omreport chassis processors** または **omreport mainsystem processors** コマンドを使用します。

Server Administrator は、**インデックス**、**状態**、**コネクタ名**、**プロセッサのブランド**、**プロセッサバージョン**、**現在の速度**、**状況**、および **コア数** の各フィールドの値を表示します。

次の表でフィールドについて説明します。

表 8. フィールドと説明

フィールド	説明
インデックス	プロセッサ数
Status (ステータス)	プロセッサの現在の状態です。
コネクタ名	システムのプロセッサスロットを使用しているデバイスの名前または番号です。
プロセッサのブランド	Intel Itanium、Intel Pentium III、Intel Xeon、または AMD Opteron などの製造元によって製造されたプロセッサのタイプです。
プロセッサバージョン	プロセッサのモデルとステッピング番号です。
現在の速度	システム起動時のプロセッサの実際速度 (MHz) です。
State (状態)	プロセッサスロットが有効か無効かを示します。
コア数	単一チップに集積されたプロセッサ数です。

特定のプロセッサの機能およびキャッシュプロパティ

特定のコネクタ上のプロセッサのキャッシュプロパティを調べるには、次のように入力します。

```
omreport chassis processors index=n
```

または

```
omreport mainsystem processors index=n
```

index パラメータは任意です。index を指定しない場合、Server Administrator はすべてのプロセッサのプロパティを表示します。index を指定すると、Server Administrator はその指定されたプロセッサのプロパティを表示します。

以下の表に、特定のマイクロプロセッサの固有機能のために定義されるフィールドをリストします。


表 9. マイクロプロセッサとフィールド

マイクロプロセッサ	フィールド
Intel プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> • 64 ビットサポート • ハイパースレッディング (HT) • 仮想化テクノロジー (VT) • Demand Based Switching (DBS) • Execute Disable (XD) • ターボモード
AMD プロセッサ	<ul style="list-style-type: none"> • 64 ビットサポート • AMD-V • AMD PowerNow! • No Execute (NX)

以下のフィールドは、特定のマイクロプロセッサに存在するキャッシュのために定義されます。キャッシュがプロセッサに組み込まれている場合、キャッシュレポートにはフィールドは表示されません。

- 速度

- 対応するキャッシュデバイスの種類
- 現在のキャッシュ デバイスの種類
- 外部ソケット名

 **メモ:** ある種のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）での制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

以下の表は、特定のプロセッサの個々のキャッシュ用に表示されるフィールドを示します。

表 10. フィールドと説明

フィールド	説明
Status (ステータス)	そのプロセッサ上の特定のキャッシュが有効か無効かを報告します。
レベル	プライマリキャッシュかセカンダリキャッシュかを表します。プライマリレベルキャッシュは、プロセッサ組み込みのメモリバンクです。セカンダリレベルキャッシュはプライマリキャッシュに送るデータを準備するためのステージングエリアです。セカンダリレベルキャッシュは、プロセッサに組み込みの場合もあれば、プロセッサの外部のメモリチップセットに置かれる場合もあります。プロセッサ内部のキャッシュは レベル 1（または L1）と呼ばれます。L2 キャッシュは、Intel Pentium プロセッサを使用するシステムでは外部キャッシュであり、セカンドレベルキャッシュとしてアクセスされます。L1 や L2 という名前は、そのキャッシュの物理的な場所（プロセッサの内部または外部）を示すものではなく、キャッシュがアクセスされる順番を示します（L1 が最初にアクセスされ、従って内部に置かれる）。
速度	キャッシュがメインメモリからプロセッサへデータを転送できる速度を示します。
最大サイズ	キャッシュが保持できる最大のメモリ容量（KB 単位）
インストールサイズ	キャッシュの実際のサイズ。
タイプ	プライマリキャッシュかセカンダリキャッシュかを示します。
場所	キャッシュの場所がプロセッサ上かプロセッサ外のチップセット上かを示します。
書き込みポリシー	<p>キャッシュが書き込みサイクルを扱う方法を示します。ライトバック ポリシーでは、キャッシュはバッファのように機能します。プロセッサが書き込みサイクルを開始すると、キャッシュはデータを受信してサイクルを停止します。その後キャッシュはシステムバスが使用可能になるとデータをメインメモリにライトバックします。</p> <p>ライトスルーポリシーでは、プロセッサはキャッシュを通過してメインメモリに書き込みます。データがメインメモリに保存されるまで、書き込みサイクルは完了となりません。</p>
結合性	<p>メインメモリの内容がキャッシュに格納される方法を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 完全アソシエティブキャッシュでは、メインメモリのラインはキャッシュのどの場所にも格納できます。 • n ウェイセットアソシエティブキャッシュでは、n 個の固有のメモリラインを同じ n 個のキャッシュラインに直接にマップします。例え

フィールド	説明
	ば、メモリ内の任意のページのライン 0 がキャッシュメモリのライン 0 に格納されます。
対応するキャッシュデバイスの種類	デバイスがサポート可能なスタティックランダムアクセスメモリ (SRAM) の種類。
現在のキャッシュ デバイスの種類	現在インストールされている、キャッシュがサポート可能な SRAM の種類。
外部ソケット名 シルクスクリーン名	システムボード上のソケットの横にプリントされている名前
エラー修正の種類	そのメモリが実行可能なエラーチェックおよび訂正 (ECC) の種類。コレクタブル ECC またはアンコレクタブル ECC。


omreport chassis pwrmanagement または omreport mainsystem pwrmanagement


システムの電源バジェットキャップと電源管理のプロファイルを表示するには、**omreport chassis pwrmanagement** または **omreport mainsystem pwrmanagement** コマンドを使用します。値は、構成に基づいてワットや BTU/Hr 単位で表示されます。

`omreport chassis pwrmanagement`

または

`omreport mainsystem pwrmanagement`

 **メモ:** コマンド間で統一するために、このコマンドと以降のコマンドレベルの出力形式が変わりました。したがって、これに合わせてユーザースクリプトを変えなければならない場合があります。


 **メモ:** **omreport chassis pwrmanagement** または **omreport mainsystem pwrmanagement** コマンドは、PMBus (Power Management Bus) をサポートし、ホットスワップ対応の電源装置を搭載している PowerEdge 11G システムで適用可能であり、固定型の非冗長電源装置が取り付けられているシステムでは適用できません。

omreport chassis pwrmanagement または **omreport mainsystem pwrmanagement** コマンドの出力には、有効なパラメータが一覧表示されます。次の表は、使用可能な設定を示します。

表 11. omreport chassis pwrmanagement または omreport mainsystem pwrmanagement の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
<code>unit=<watt btuphr></code>	ユーザー指定の単位で電力を表示します。
<code>config=budget</code>	電力バジェットの情報を表示します。
<code>config=profile</code>	電力プロファイル情報を表示します。

名前 = 値のペア	説明
-----------	----

 **メモ:** PowerEdge 12G システムでは、profile オプションは SysProfile で、BIOS セットアップグループの **System Profile Settings** にグループ分けされます。詳細に関しては、[「PowerEdge 12G システムでの BIOS セットアップの設定」](#) を参照してください。

システムの電源管理プロファイルごとに、次のフィールドの値が表示されます：**Maximum Performance** (最大パフォーマンス)、**Active Power Controller** (アクティブ電源コントローラ)、**OS Control** (OS コントローラ)、および **Custom** (カスタム)。

カスタム属性は、**CPU Power and Performance Management** (CPU 電源とパフォーマンス管理)、**Memory Power and Performance Management** (メモリ電源とパフォーマンス管理)、**Fan Power and Performance Management** (ファン電源とパフォーマンス管理) です。

次に出力例を示します。

```
Power Inventory and Budget
```

```
Power Inventory
```

```
System Idle Power           : 92 W
```

```
System Maximum Potential Power : 344 W
```


```
Power Budget
```

```
Attribute                   : Enable Power Cap
```

```
Values                      : Enabled
```

```
Attribute                   : Power Cap
```

```
Values                      : 400 W (56%)
```

 **メモ:** 電源バジェットには、詳細をレポートするためのライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、電力バジェットの詳細は表示されません。詳細に関しては、dell.com/support/manuals にある『*Dell License Manager ガイド*』を参照してください。

omreport chassis pwrmonitoring または omreport mainsystem pwrmonitoring

システムの電力消費のプロパティを表示するには、**omreport chassis pwrmonitoring** または **omreport mainsystem pwrmonitoring** コマンドを使用します。値は、構成に基づいてワットや BTU/n 時単位で表示されます。次のように入力します。


```
omreport chassis pwrmonitoring
```


または


```
omreport mainsystem pwrmonitoring
```

システムの各電源監視プロファイルの以下のフィールドの値が表示されます。

- 電力消費量状態
- プローブ名
- 読み取り値
- 警告しきい値
- エラーしきい値
- アンペア数：場所と読み取り値
- 電力トラッキング統計
- エネルギー消費量
- 測定開始時刻
- 測定終了時刻
- 読み取り値
- システムピーク電力
- システムピークアンペア数

 **メモ:** `omreport chassis pwrmonitoring` または `omreport mainsystem pwrmonitoring` コマンドは、PMBus (Power Management Bus) をサポートし、ホットスワップ対応の電源装置を搭載している PowerEdge 10G 以降のシステムで適用可能であり、固定型の非冗長電源装置が取り付けられているシステムでは適用できません。

 **メモ:** 電力監視には、詳細をレポートするためのライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合、システムの電力消費の詳細は表示されません。詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals にある『*Dell License Manager ガイド*』を参照してください。


 **メモ:** コマンド間で統一するために、このコマンドと以降のコマンドレベルの出力形式が変わりました。したがって、これに合わせてユーザースクリプトを変えなければならない場合があります。

電力統計をワット数でレポートする出力例は次のとおりです。

```
Power Consumption Information
Power Consumption
Index                : 1
Status               : Ok
Probe Name           : System Board Pwr Consumption
Reading              : 539W
Warning Threshold    : 994W
Failure Threshold    : 1400 W
Amperage
PS1 Current 1        : 1.2 A
Power Headroom
System Instantaneous Headroom : 300 W
System Peak Headroom   : 340 W
```

Power Tracking Statistics

Statistic	: Energy consumption
Measurement Start Time	: Thu May 28 11:03:20 2011
Measurement Finish Time	: Fri May 28 11:05:46 2011
Reading	: 5.9 KWH
Statistics	: System Peak Power
Measurement Start Time	: Mon May 18 16:03:20 2011
Peak Time	: Wed May 27 00:23:46 2011
Peak Reading	: 630 W
Statistics	: System Peak Amperage
Measured Since	: Mon May 18 16:03:20 2011
Read Time	: Tue May 19 04:06:32 2011
Peak Reading	: 2.5 A

 **メモ:** 電源管理機能は、ホットスワップ可能な電源装置を備えた PowerEdge システムでのみ利用可能で、固定された非冗長電源装置を搭載したシステムでは利用できません。


omreport chassis pwrsupplies または omreport mainsystem pwrsupplies

omreport chassis pwrsupplies または **omreport mainsystem pwrsupplies** コマンドを使用してシステムの電源装置のプロパティを表示できます。次のようにタイプします。

```
omreport chassis pwrsupplies
```

または

```
omreport mainsystem pwrsupplies
```

 **メモ:** コマンド間で統一するために、このコマンドの出力形式は変更されています。これに合わせてユーザースクリプトを変更してください。

システム内の各電源装置プロファイルについて、次のフィールドの値が表示されます。

- 状態
- 場所
- 種類
- 定格入力ワット数
- 最大出力ワット数
- オンライン状態
- 電力監視対応

omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess


DRAC がインストールされている場合、**omreport chassis remoteaccess** または **omreport mainsystem remoteaccess** コマンドを使って、ベースボード管理コントローラまたは Integrated Dell Remote Access

Controller (BMC/iDRAC) および Remote Access Controller の一般情報を表示できます。次のようにタイプします。

```
omreport chassis remoteaccess
```

または

```
omreport mainsystem remoteaccess
```

 **メモ:** コマンド間の一貫性を維持するため、このコマンドの出力フォーマットおよび後続するコマンドレベルが変更されました。必要に応じてユーザースクリプト変更してください。

omreport chassis remoteaccess または **omreport mainsystem remoteaccess** コマンドの出力では、以下の表に示すような有効なパラメータをリストします。

表 12. omreport chassis remoteaccess または omreport mainsystem remoteaccess の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
config=additional	iDRAC 上での IPv4 と IPv6 アドレスの現在の状況を報告します。
config=advsol	シリアルオーバー LAN 接続での高度な BMC/iDRAC またはリモートアクセス情報を報告します。
config=nic	LAN 接続での BMC/iDRAC またはリモートアクセス情報を報告します。
config=serial	BMC またはリモートアクセスに関するシリアルポート情報を報告します。
config=serialoverlan	シリアルオーバー LAN 接続での BMC/iDRAC またはリモートアクセス情報を報告します。
config=terminalmode	シリアルポートのターミナルモード設定を報告します。
config=user	BMC/iDRAC またはリモートアクセスユーザーの情報を報告します。

omreport chassis removableflashmedia または omreport mainsystem removableflashmedia

システム上のリムーバブルフラッシュメディアの詳細とその正常性状態を表示するには、**omreport chassis removableflashmedia** または **omreport mainsystem removableflashmedia** を使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis removableflashmedia
```

または

```
omreport mainsystem removableflashmedia
```

Server Administrator がシステムのリムーバブルフラッシュメディア情報の概要を表示します。

 **メモ:** vFlash または SD カードのサイズが 1 GB 未満の場合、サイズは MB 単位で表示されます。

システムの構成に応じて、次の内容が出力される場合があります。

リムーバブルフラッシュメディア情報

正常性 : 重要

内部デュアル SD モジュールの冗長性 : 重要

属性	: 冗長性
Value	: 損失
内部 SD モジュールの状態	
Status (ステータス)	: OK
コネクタ名	: システム基板 SD ステータス 1
State (状態)	: あり
ストレージサイズ	: 512 MB
Status (ステータス)	: OK
コネクタ名	: システム基板 SD ステータス 2
State (状態)	: あり
ストレージサイズ	: 512 MB
vFlash メディアの詳細	
コネクタ名	: システム基板 SD ステータス 1
タイプ	: vFlash SD カード
State (状態)	: あり
使用可能サイズ	: 472 MB
ストレージサイズ	: 512 MB

omreport chassis slots または omreport mainsystem slots


omreport chassis slots または **omreport mainsystem slots** コマンドを使用してシステムスロットのプロパティを表示できます。次のようにタイプします。

```
omreport chassis slots index=n
```

または

```
omreport mainsystem slots index=n
```

index パラメータは任意です。index を指定しない場合、Server Administrator はシステム内のすべてのスロットのプロパティを表示します。index を指定すると、Server Administrator はその指定されたスロットのプロパティを表示します。

 **メモ:** コマンド間の一貫性を維持するため、このコマンドの出力フォーマットが変更されました。必要に応じてユーザースクリプト変更してください。

システムの各スロットについて、以下の表に示されたフィールドの値が表示されます。

表 13. **omreport chassis slots** または **omreport mainsystem slots** の有効なパラメータ

フィールド	説明
インデックス	システムのスロット番号。
スロット ID	システムのマザーボードのスロットの隣にある印刷されたシルクスクリーンの名前。システムの各スロットを固有に識別する英数字のテキスト。
アダプタ	そのスロットに合うカード名とタイプ。例：ストレージレイコントローラ、SCSI アダプタ、iDRAC Enterprise、HBA など。
データバス幅	システムのコンポーネント間の情報パスのビット幅。値の範囲は 16 ~ 64 ビットです。

omreport chassis temps または omreport mainsystem temps

システムの温度プローブのプロパティを表示するには、**omreport chassis temps** または **omreport mainsystem temps** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport chassis temps index=n
```

または

```
omreport mainsystem temps index=n
```

index パラメータはオプションです。index を指定しない場合は、Server Administrator はシステムにある任意の温度プローブの状態、読み取り値、およびしきい値の概要を表示します。index を指定した場合、Server Administrator は特定の温度プローブの概要を表示します。

omreport chassis volts または omreport mainsystem volts

omreport chassis volts または **omreport mainsystem volts** コマンドを使用してシステムの電圧プローブのプロパティを表示できます。次のように入力します。

```
omreport chassis volts index=n
```

または

```
omreport mainsystem volts index=n
```

index パラメータは任意です。index を指定しない場合、Server Administrator はシステム内のすべての電圧プローブの状態、読み取り状況、およびしきい値のセットの概要を表示します。index を指定すると、Server Administrator はその指定された電圧プローブに関する概要を表示します。

omreport licenses

システムに取り付けられているハードウェアデバイスのデジタルライセンスを表示するには、**omreport licenses** コマンドを使用します。次のように入力します。

```
omreport licenses
```

以下は、**omreport licenses** コマンドの出力例です。

```

デバイスインデックス          : 0
デバイス状態                   : Ok
デバイス                       : iDRAC7
デバイスの説明                 : iDRAC
デバイス ID                   : xxxx
ライセンスインデックス        : 0
説明                           : iDRAC7 エンタープライズ評価ライセンス
Status (ステータス)          : OK
推奨処置                       : N/A
ライセンスの種類              : 評価版
EntitlementID                 : xxxx
有効期限日                    : yyyy-mm-dd hh:mm:ss

```

omreport system コマンドまたは omreport servermodule コマンド

ログ、しきい値、所有コスト情報、およびシャットダウン処置と回復処理の設定方法の情報を表示するには、**omreport system** または **omreport servermodule** コマンドを使用します。

omreport system または omreport servermodule

omreport system または **omreport servermodule** コマンドを使用すると、システムの全般的なステータスを見ることができます。レベル3のコマンド (**omreport system shutdown**、**omreport servermodule shutdown** など) を指定すると、単一のシステムのコンポーネントに関する詳細な情報を取得できます。単に **omreport system** または **omreport servermodule** と指定した場合には、ハイレベルなステータスが表示されません。以下のように入力します。

```
omreport system
```

または

```
omreport servermodule
```

お使いのシステムに、メインシステムシャーシまたはメインシステムがあり、かつ少なくとも1つの直接接続されているストレージデバイスがある場合は、Server Administrator は次の例に示すような概要が表示することがあります。


```

重大度      :   コンポーネント
OK          :   メインシステムシャーシ
重要       :   ストレージ

```

ログ表示のコマンド

警告ログ、コマンドログおよびハードウェアまたは ESM ログを表示するには、**omreport system** または **omreport servermodule** コマンドを使用します。

 **メモ:** 警告ログまたはコマンドログが無効な XML データ（選択項目について生成された XML データが適切な形式でないときなど）を示す場合は、ログをクリアして、問題を解決する必要があります。ログをクリアするには、`omconfig system alertlog action=clear` または `omconfig system cmdlog action=clear` と入力します。今後の参考のためにログ情報を維持する必要がある場合は、クリアする前にログのコピーを保存してください。ログのクリアの詳細に関しては、「[ログをクリアするコマンド](#)」を参照してください。

アラートログの内容を表示するには、次のように入力します。

```
omreport system alertlog
```

または

```
omreport servermodule alertlog
```

コマンドログの内容を表示するには、次のように入力します。

```
omreport system cmdlog
```

または

```
omreport servermodule cmdlog
```

ESM ログの内容を表示するには、次のように入力します。

```
omreport system esmlog
```

または

```
omreport servermodule esmlog
```

ESM ログの全般的な正常性の状態

omreport system esmlog または **omreport servermodule esmlog** コマンドを実行すると、ESM ログが表示されます。レポートの最初の行には、システムハードウェアの全般的な正常性を反映する表示がなされます。例えば、Health: OK は、ESM ログ用に割り当てられた容量のうち、メッセージで占有されている容量が 80 パーセント未満であることを意味します。ESM ログ割り当て容量のうち、メッセージ占有率が 80 パーセント以上になった場合は、以下のような注意が表示されます。

正常性: 非重要



注意が表示されたら、警告と重要な重大度状態をすべて解決してから、ログをクリアしてください。

omreport system alertaction または omreport servermodule alertaction

システムコンポーネント上の警告イベントおよび障害イベントに対して設定されている警告処置の概要を表示するには、**omreport system alertaction** または **omreport servermodule alertaction** コマンドを使用します。警告処置は、コンポーネントで警告イベントまたは障害イベントが発生したときに Server Administrator がどのように応答するかを決定します。

omreport system alertaction コマンドまたは **omreport servermodule alertaction** コマンドは、コンポーネントに対して指定された警告処置を確認するのに役立ちます。コンポーネントに警告処置を設定するには、

omconfig system alertaction コマンドまたは **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使用します。詳細に関しては、「[omconfig : 計装サービスを使ったコンポーネントの管理](#)」を参照してください。


-  **メモ:** コマンド間で統一するために、このコマンドの出力形式は変更されています。これに合わせてユーザースクリプトを変更してください。
-  **メモ:** 特定のオペレーティングシステム (例: VMware ESXi) の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。


警告処置の表示があるコンポーネントおよびイベント

システムにコンポーネントまたはイベントが存在する場合、次のようなコンポーネントやイベントに関して警告処置のプロパティを表示します。

- バッテリ警告
- バッテリ障害
- シャーシイントルージョン
- 電流プローブ警告
- 電流プローブ障害
- ファン警告
- ファン障害
- メモリ事前障害
- メモリの障害
- システム電源プローブ警告
- システム電源プローブが障害を検出
- システムピーク電力
- 電源装置警告
- 電源装置エラー
- 劣化冗長
- 喪失冗長
- 温度警告
- 不適切な温度
- 電圧警告
- 不適切な電圧
- プロセッサ警告
- プロセッサ障害
- ハードウェアログ警告
- ハードウェアログが一杯
- ウォッチドッグ ASR
- ストレージシステム警告
- ストレージシステム障害
- ストレージコントローラ警告
- ストレージコントローラ障害
- 物理ディスク警告
- 物理ディスク障害
- 仮想ディスク警告

- 仮想ディスク障害
- エンクロージャ警告
- エンクロージャ障害
- ストレージコントローラバッテリー警告
- ストレージコントローラバッテリー障害
- リムーバブルフラッシュメディア存在
- リムーバブルフラッシュメディア取り外し
- リムーバブルフラッシュメディア障害

 **メモ:** ストレージコントローラバッテリー警告およびストレージコントローラバッテリー障害イベントはブレードシステムで利用できません。

 **メモ:** システム電源プローブ警告はブレードシステムには適用されません。

omreport system assetinfo または omreport servermodule assetinfo

omreport system assetinfo または **omreport servermodule assetinfo** は、システムのオーナーシップ情報（獲得、減価償却、保証情報など）のコストを見るために使用します。これらフィールドを設定するには、**omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを使用します。詳細については「[Omconfig System または Servermodule Assetinfo によるオーナーシップ値のコストの編集](#)」を参照してください。

omreport system events または omreport servermodule events

omreport system events または **omreport servermodule events** コマンドを使用すると、現在有効または無効の SNMP トラップが表示されます。次のように入力します。

```
omreport system events
```

または

```
omreport servermodule events
```

このコマンドは、イベント生成の対象となるシステム内の各コンポーネントの概要を表示します。各コンポーネントごとについて、どのような重大度がレポート対象として、あるいはレポート対象外として設定されているかを表示します。以下に若干のコンポーネントに関する出力例を示します。

```
現在の SNMP トラップ構成 ----- システム ----- 有効な設定: 情報、警告、重要 無効: なし
----- 電源装置 ----- 有効な設定: 情報、警告、重要 無効: なし
----- ファン ----- 有効な設定: 重要 無効: 情報、警告、重要
----- リムーバブルフラッシュメディア ----- 有効な設定: 情報、警告、重要 無効: なし
```

完全なレポートには、イベントが生成されるシステム内すべてのコンポーネントの設定が一覧されます。

omreport system events type または omreport servermodule events type

特定タイプのコンポーネントのステータスを表示するには **omreport system events type=<コンポーネント名>** または **omreport servermodule event type=<コンポーネント名>** コマンドを使用します。以下のように入力します。

```
omreport system events type=fans
```

または

```
omreport servermodule events type=fans
```

このコマンドは、イベントが生成されるシステム内の各コンポーネントの概要を表示します。

次の表に、各種コンポーネントタイプで表示されるイベントを示します。


 **メモ:** ある種のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）での制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

表 14. omreport system events type または omreport servermodule events type の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
type=accords	AC 電源コードのイベントを報告します。
type=battery	バッテリーのイベントを報告します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントを報告します。
type=fans	ファンのイベントを報告します。
type=intrusion	シャーシイントルージョンのイベントを報告します。
type=log	ログのイベントを報告します。
type=memory	メモリのイベントを報告します。
type=powersupplies	電源装置のイベントを報告します。
type=redundancy	冗長性のイベントを報告します。
type=systempower	システム電源のイベントを報告します。
type=temps	温度のイベントを報告します。
type=removableflashmedia	リムーバブルフラッシュメディアのイベントを報告します。
type=volt	電圧のイベントを報告します。

次に出力例を示します。

```
現在の SNMP トラップ構成 ----- システム ----- 有効な設定: 情報、警告、重要 無効: なし
----- ファングループ ----- 有効な設定: 情報、警告、重要 無効: なし
----- 個々のオブジェクト ----- システムボード ファン1 RPM 設定インデックス:
0 有効: 情報、警告、重要 無効: なし システムボード ファン2 RPM 設定インデックス:1 有効: 情
報、警告、重要 無効: なし
```

omreport system operatingsystem または omreport servermodule operatingsystem

オペレーティングシステムの情報を表示するには、**omreport system operatingsystem** または **omreport servermodule operatingsystem** コマンドを使用します。

omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations


`omreport system pedestinations` または `omreport servermodule pedestinations` コマンドは、プラットフォームイベントに関するアラートの宛先を表示するために使用します。表示される宛先の数によっては、各宛先アドレスごとに異なる IP アドレスをしています。次のようにタイプします。

```
omreport system pedestinations
```

または

```
omreport servermodule pedestinations
```

`omreport system pedestinations` または `omreport servermodule pedestinations` コマンドの出力では、有効なパラメータがリストされます。

 **メモ:** コマンド間の一貫性を維持するため、このコマンドの出力フォーマットは変更されました。必要に応じてユーザースクリプト変更してください。

omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations の送信先設定

`omreport system pedestinations` または `omreport servermodule pedestinations` を使用してシステム上で設定できる送信先の実際の数異なる場合があります。

次の表は、使用可能な設定を示します。


表 15. omreport system pedestinations または omreport servermodule pedestinations の設定

出力	属性	説明
送信先リスト		
	Destination Number: Destination1	宛先 1: 最初の宛先を表示します。 例 : 101.102.103.104: 最初の宛先の IPv4 アドレスです。
	Destination Number: Destination 2	宛先 2: 二番目の宛先を表示します。 例 : 110.120.130.140: 二番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	Destination Number: Destination 3	宛先 3: 三番目の宛先を表示します。 例 : 201:202:203:204: 三番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	Destination Number: Destination 4	宛先 4: 四番目の宛先を表示します。 例 : 210.211.212.213: 四番目の宛先の IPv4 アドレスです。
	Destination Number: Destination 5	宛先 5: 五番目の宛先を表示します。 例 :

出力	属性	説明
		2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 : 五番目の宛先の IPv6 アドレスです。
	Destination Number: Destination 6	宛先 6 : 六番目の宛先を表示します。 例 : 2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334 : 六番目の宛先の IPv6 アドレスです。
	Destination Number: Destination 7	宛先 7 : 七番目の宛先を表示します。 例 : 210.211.212.213 : 七番目の宛先の IP アドレスです。
	Destination Number: Destination 8	宛先 8 : 八番目の宛先を表示します。 例 : 210.211.212.213 : 八番目の宛先の IP アドレスです。


送信先設定

attribute=communitystring **communitystring**: パスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されるテキストを表示します

 **メモ**: iDRAC7 固有のバージョンの 12G システムでは、**ipaddress** に完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用することもできます。

omreport system platformevents または omreport servermodule platformevents

omreport system platformevents または **omreport servermodule platformevents** コマンドを使用すると、各プラットフォームイベントに対して、システムがどのように反応するかの一覧が表示されます。


 **メモ**: コマンド間の一貫性を維持するため、このコマンドの出力フォーマットが変更されました。必要に応じてユーザースクリプトを変更してください。

omreport system recovery または omreport servermodule recovery

omreport system recovery または **omreport servermodule recovery** コマンドを使用すると、大規模なオペレーティングシステム用に構成されたアクションがあるかどうかが表示されます。また、オペレーティングシステムがハングしたと判断するのに必要な経過時間も表示されます。

omreport system shutdown または omreport servermodule shutdown

システムの保留中のシャットダウン処置を表示するには、**omreport system shutdown** または **omreport servermodule shutdown** コマンドを使用します。シャットダウンのプロパティが設定されている場合、このコマンドは次のプロパティを表示します。

 **メモ:** 特定のオペレーティングシステム (例: VMware ESXi) の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

omreport system summary または omreport servermodule summary


omreport system summary または **omreport servermodule summary** コマンドを使用すると、現在システムにインストールされているソフトウェアとハードウェアコンポーネントの包括的な概要が表示されます。次のように入力します。

```
omreport system summary
```

または

```
omreport servermodule summary
```

 **メモ:** vFlash または SD カードのサイズが 1 GB 未満の場合、サイズは MB 単位で表示されます。

 **メモ:** iDRAC がインストールされている場合、Server Administrator は LCC のバージョンを表示します。BMC がインストールされている場合は、Server Administrator は USC のバージョンを表示します。

CLI ウィンドウに表示される出力は、システム管理ソフトウェア、オペレーティングシステム、およびシステムにインストールされているハードウェアコンポーネントとオプションによって異なります。以下の *部分的な* コマンドの結果は固有のものであり、システムのハードウェアとソフトウェアの構成に類似しない場合もあります。

```
System Summary
```

```
-----
```

```
Software Profile
```

```
-----
```

```
Systems Management
```

```
Name                : Dell OpenManage Systems Management Software (64-  
Bit)  
Version             : x.x.x  
Description         : Systems Management Software  
Contains            Apache Tomcat Webserver x.x.x  
                   : Common Storage Module x.x.x  
                   : Data Engine x.x.x  
                   : Hardware Application Programming Interface x.x.x  
                   : Instrumentation Servicex.x.x  
                   : Instrumentation Service Integration Layer x.x.x  
Intel SNMP Agent    x.x.x  
                   : Inventory Collector x.x.x  
                   : OMACS x.x.x  
                   : Operating System Loggingx.x.x
```

: Oracle Java Runtime Environment x.x.x
: Remote Access Controller Managed Node x.x.x
: Server Administrator Common Framework x.x.x
: Server Administrator Core files x.x.x
: Server Administrator Instrumentation files x.x.x
: Server Administrator Core files x.x.x
: Server Instrumentation SNMP Module x.x.x
: Server Instrumentation WMI Module x.x.x
: Storage Management x.x.x

Operating System

Name : Microsoft Windows Server 2008 R2, Enterprise x64 Edition
Version : Version 6.1 (Build 7601 : Service Pack 1) (x64) Server Full Installation
System Time : Fri May 20 18:02:52 2XXX
System Bootup Time : Wed May 18 18:37:58 2XXX

Server Module

Information

Host Name : WIN-GSFCCED6N2D
System Location : Please set the value
Model : PowerEdge FM120
Asset Tag : SST,3,4,S
Service Tag : CB2DX1S
Express Service Code : 26790524560
Slot Number : Slot =8
Slot Name : SLOT-02
Form Factor : 1U Half Width
Node Id : CB2DX1Sc

Remote Access Information

Remote Access Device : iDRAC7 Express
vFlash Media : Absent

Processor 1

Processor Brand : Genuine Intel (R) CPU 4000 @ 2.41GHz
Processor Version : Model 77
Voltage : 1000 mV

Memory

Total Installed Capacity : 4096 MB
Memory Available to the OS : 4096 MB
Total Maximum Capacity : 32768 MB
Memory Array Count : 1

Memory Array 1

Location : System Board or Motherboard
Use : System Memory
Installed Capacity : 4096 MB
Maximum Capacity : 32768 MB
Slots Available : 24
Slots Used : 1
ECC Type : Multibit ECC

BIOS Information

Manufacturer : Dell Inc.
Version : 0.1.10
Release Date : 07/31/2013

Firmware Information

Name : iDRAC7
Version : 1.50.50 (Build 3)

Firmware Information

Name : Lifecycle Controller 2
Version : 1.3.0.518

Remote Access Controller

```
Remote Access Controller
Information

Product                : iDRAC7 Express
IP Address              : 10.94.146.217
IP Subnet               : 255.255.255.0
IP Gateway              : 10.94.146.1
IPv6 Address 1         : ::
IPv6 Address 2         : ::
IPv6 Gateway           : ::
```

Network Data

Network Interface 0

```
IP Address              : xx.xx.xx.xx
Subnet Mask             : xx.xx.xx.xx
Default Gateway        : xx.xx.xx.xx
MAC Address             : : xx-xx-xx-xx-xx-xx
```

Network Interface 1

```
IP Address              : xx.xx.xx.xx
Subnet Mask             : xx.xx.xx.xx
Default Gateway        : xx.xx.xx.xx
MAC Address             : : xx-xx-xx-xx-xx-xx
```

omreport system summary または **omreport servermodule summary** を使ったハードウェア情報

システム概要ハードウェア情報には、システムに存在するインストール済みの次の種類のコンポーネントに関するデータ値が含まれます。

システムの属性

- ホスト名
- システムの場所
- Lifecycle Controller

メインシステムシャーシまたはメインシステム

Chassis

- シャーシモデル

- シャーシサービスタグ
- エクスプレスサービスコード
- シャーシロック
- シャーシ資産タグ

リモートアクセス情報

- リモートアクセスデバイス
- vFlash メディア
- vFlash メディアサイズ

プロセッサ

システムの各プロセッサについて、次の情報がリストされます。

- プロセッサのブランド
- プロセッサシリーズ
- プロセッサバージョン
- 現在の速度
- 最大速度
- 外部クロック速度
- 電圧

メモリ

- インストールされた容量の合計
- オペレーティングシステムで使用可能なメモリ
- 最大容量合計
- メモリアレイカウント

メモリアレイ

次の詳細は、システムの各メモリボードやモジュールに関してリストされています(たとえば、指定のスロット番号のシステム基板やメモリモジュール)。

- 場所
- 使用
- インストールされた容量
- 最大容量
- 使用可能なスロット
- 使用中のスロット
- ECC の種類

BIOS

- 製造元
- BIOS Version
- リリース日

ファームウェア

- Name (名前)
- バージョン

ネットワークデータ

システムでチームインタフェースが設定されている場合、各 NIC およびチームインタフェースの下記の詳細が表示されます。

- IP アドレス
- サブネットマスク
- デフォルトゲートウェイ
- MAC アドレス

ストレージエンクロージャ

次の詳細は、システムに接続されている各ストレージエンクロージャに関してリストされています。

- Name (名前)
- Service Tag

omreport system thrmsshutdown または omreport servermodule thrmsshutdown

サーマルシャットダウン処置に対して設定されているプロパティを表示するには、**omreport system thrmsshutdown** または **omreport servermodule thrmsshutdown** コマンドを使用します。

サーマルシャットダウンに表示される 3 つのプロパティは、**無効**、**警告**、または **エラー** です。CLI に次のメッセージが表示される場合、サーマルシャットダウン機能が無効になっています。

サーマル保護シャットダウン重大度： 無効

温度プローブが警告またはエラーイベントを検出したときにシャットダウンするようにシステムが設定されている場合は、次のどちらかのメッセージが表示されます。

サーマル保護シャットダウン重大度： 警告 サーマル保護シャットダウン重大度： エラー


omreport system version または omreport servermodule version

システムにインストールされている BIOS、ファームウェア、システム管理ソフトウェア、およびオペレーティングシステムのバージョン番号を表示するには、**omreport system version** または **omreport servermodule version** コマンドを使用します。

```
omreport system version
```

または

```
omreport servermodule version
```

 **メモ:** iDRAC がインストールされている場合、Server Administrator は Lifecycle Controller のバージョンを表示します。BMC がインストールされている場合は、Server Administrator は USC のバージョンを表示します。

CLI ウィンドウに表示される出力は、システムにインストールされている BIOS、RAID コントローラ、およびファームウェアのバージョンによって異なります。次の一部のコマンド結果は固有のものであり、システムの構成に対する結果とは異なることがあります。

```
バージョンレポート ----- メインシステムシャーシ -----
名前 : BIOS バージョン : 0.3.5 名前 : iDRAC7 バージョン : 1.00
----- ソフトウェア ----- 名前 : Microsoft Windows
Server 2008 R2、Enterprise x64 edition バージョン : バージョン 6.1 (ビルド 7600) (x64)
Server フルインストール 名前 : Dell Server Administrator バージョン : 7.x.x
```

----- ストレージコントローラファームウェア
----- 名前 : PERC H310 Mini バージョン :
20.10.1-0025

omreport preferences コマンド

omreport preferences コマンドを使用して Server Administrator Web サーバーの URL 詳細、主要なキー署名アルゴリズム、JRE、およびメッセージフォーマットを表示します。

Omreport Preferences Messages

omreport preferences messages を使用して、設定されているアラートメッセージフォーマットを閲覧できます。

以下の表に **omreport preferences messages** で使用可能な属性をリストします。

表 16. Omreport Preferences Messages の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
attribute=format	現在設定されているアラートメッセージのフォーマットをレポートします。

タイプ :

```
omreport preferences messages attribute=format
```

表示される出力は以下のとおりです。

```
Event Message Format      : enhanced
```

omreport preferences webserver

URL 詳細、現在のキー署名アルゴリズム、および JRE 詳細を表示するには、**omreport preferences webserver** コマンドを使用します。

次の表は、**omreport preferences webserver** の使用可能な属性をリストします。

表 17. omreport preferences webserver の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
attribute=geturl	ウェブサーバーの URL 情報を報告します。
attribute=getsignalalgorithm	現在のキー署名アルゴリズムを報告します。
attribute=getjre	現在使用されている JRE を表示します。
attribute=getjrelist	システムにインストールされている Server Administrator 対応 JRE を表示します。

タイプ :

```
omreport preferences webserver attribute=getjrelist
```

表示される出力は以下のとおりです。

```
Version: 1.7.0_05 (Bundled) Path : C:\Program Files <x86>\Dell\SysMgt\jre  
Version:1.7.0_03 Path:C:\Program Files <x86>\Java\jre7
```


omconfig : 計装サービスを使ったコンポーネントの管理

omconfig コマンドを使用すると、警告イベントの定義、警告操作の設定、ログのクリアのほか、システムシャットダウンの設定に使用する値の入力や、その他のシステム管理タスクを実行できます。

omconfig 機能の例には、次が含まれます。

- コマンド、警告、ハードウェアログをクリアする管理者権限
- システムシャットダウンを設定して実行する管理者権限
- ファン、電圧プローブ、温度プローブの警告イベントの値を指定するパワーユーザーおよび管理者権限
- インترلージョン、ファン、電圧プローブおよび温度プローブで警告または障害イベントが発生した場合の警告処置を設定する、パワーユーザーおよび管理者権限

omconfig コマンドを使用した所有コスト情報 (**assetinfo**) の表示と管理の詳細に関しては、「[omconfig system](#) または [servermodule assetinfo : 所有コストの編集](#)」を参照してください。

通常、**omconfig** コマンドの実行に必要な情報を取得するには **omreport** コマンドを使用する必要があります。例えば、温度プローブの警告イベントの最小温度を編集するには、プローブのインデックスを把握しておく必要があります。プローブとインデックスのリストを表示するには、**omreport chassis temps** または **omreport mainsystem temp** コマンドを使用します。**omreport** コマンドの使用の詳細に関しては、「[omreport: 計装サービスを使用したシステム状態の表示](#)」を参照してください。

次の表は、omconfig コマンドのシステム可用性を示します。

表 18. omconfig コマンドのシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	対象
omconfig	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	システム	ラック型システムとタワー型システム
	シャーシ	ラック型システムとタワー型システム


パラメータ表の規則

コマンドに使えるパラメータをリストにする場合、パラメータはコマンドラインインタフェースに表示される順ではなくアルファベット順にリストされます。

記号「|」（通常パイプと呼ばれる）は、*排他的論理和*演算子です。例えば、enable | disable は、コンポーネントまたは機能を有効または無効にできますが、コンポーネントと機能を同時に有効または無効にすることはできないことを意味しています。

omconfig コマンドの概要

以下の表に、**omconfig** コマンドの高レベルの概要を示します。コマンドレベル2およびコマンドレベル3というタイトルの列に、**omconfig** で使用する主要な引数をリストしています。必要なユーザー権限は、そのコマンドを実行するのに必要な権限の種類であり、それぞれ U = ユーザー、P = パワーユーザー、A = 管理者を意味します。Use (使用) は **omconfig** 使って実行されるアクションに関するごく一般的な記述です。

 **メモ:** このテーブルはすべての可能な **omconfig** コマンドをリストしていますが、システムで実際に利用可能なコマンドは、そのシステムの構成によって異なります。システムにインストールされていないコンポーネントに関するヘルプやコマンドを実行しようとすると、Server Administrator は、そのコンポーネントや機能がシステムに存在しない旨のメッセージを表示します。




 **メモ:** CSIOR (再起動時にシステムインベントリを収集、Collect System Inventory on Restart) が無効になっている場合は、**omconfig** で BIOS 設定を構成することはできません。

表 19. omconfig コマンドレベル 1、レベル 2、およびレベル 3

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	必要なユーザー権限	用途
omconfig				
	about		U、P、A	Server Administrator プログラムのバージョン番号とプロパティを表示します。
		details=true	U、P、A	インストールされている全ての Server Administrator プログラムの情報を表示します。
	preferences			
		cdvformat	A	カスタムデリミットフォーマット (cdv) で報告されるデータフィールドの区切り記号 (デリミタ) を指定します。
		dirservice	A	Microsoft Active Directory サービスを設定します。
		messages	A	設定済みのアラートメッセージフォーマットを表示します。
		useraccess	A	システム管理者よりも低いレベルのユーザーに Server Administrator の使用を許可するかどうかを指定します。
		webserver	A	Server Administrator Web サーバー環境において、システム管理者に Web サーバーの暗号化レベルの設定および URL の起動ポイントの設定を許可します。
	system または servermodule			
		alertaction	P、A	イントルージョン、ファン、温度、電圧、電源装置、メモリ、および冗長性に関する警告または障

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	必要なユーザー権限	用途
				害が発生したときに実行される処置をあらかじめ指定します。
		alertlog	P、A	管理者にアラートログの消去を許可します。
		assetinfo	P、A	減価償却値、リース、メンテナンス、サービス、およびサポートを含むシステムの所有コスト情報を入力および編集します。
		cmdlog	P、A	管理者にコマンドログの消去を許可します。
		esmlog	P、A	管理者に ESM ログの消去を許可します。
		events	P、A	SNMP トラップを有効または無効にします。
		pe destinations	P、A	アラート送信先の IP アドレスを設定します。
		platformevents	A	特定のプラットフォームイベントに対して、シャットダウン処置（存在する場合）が行われるように指定します。また、プラットフォームイベントのフィルタアラートの生成を有効または無効にします。
		recovery	P、A	ハング状態にあるオペレーティングシステムに対してシステムがどのように対応するかをあらかじめ指定します。
		shutdown	A	システムをシャットダウンする場合に、管理者がいくつかのオプションから選択できるようにします。
		thrmshutdow n	A	システムシャットダウンをトリガする温度イベントの重大度レベルを設定します。
		webserver	A	Web サーバーを開始または停止します。
	chassis または mainsystem	biossetup	A	BIOS が制御する特定のシステムコンポーネントの動作を設定します。
		fans	P、A	ファンプロベ警告しきい値の値をデフォルトまたは特定の値に設定します。  メモ: 組み込み型サーバー管理 (ESM3) および Dell PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更できません。
		frontpanel	A	システムの電源 ボタン、非マスク割り込み (NMI) ボタン、暗号化アクセス、および LCD 表示を設定します。
		info	P、A	資産タグやシャーシ名の初期値の設定、または値の編集を可能にします。

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	必要なユーザー権限	用途
		leds	P、A	シャーン障害 LED や シャーン識別 LED の点滅タイミングを指定します。またシステムのハードディスクドライブの LED をクリアすることを許可します。
		memorymode	A	スペアバンク、ミラーリング、RAID、および DDDC (Double Device Data Correction) メモリモードを有効化または無効化し、また、どのモードを使用するかも指定します。
		pwrmanagem ent	P、A	システムの電力消費について、最大使用、省電力、またはパフォーマンス最適化のいずれかを選択できます。
		pwrmonitorin g	P、A	電源消費情報としきい値を設定します。
		remoteaccess	A	リモートアクセス情報を設定します。
		temps	P、A	警告しきい値の値をデフォルトまたは特定の値に設定します。  メモ: ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更できません。
		volts	P、A	警告しきい値の値をデフォルトまたは特定の値に設定します。  メモ: ESM3 および PowerEdge x8xx システムでは、しきい値を変更できません。
	storage			詳細については、「 ストレージ管理サービスの使用 」を参照してください。

omconfig コマンドのヘルプ

次の表に、omconfig コマンドの使用方法を示します。

表 20. omconfig コマンドの使用方法

コマンドの使用方法	説明
omconfig -?	omconfig で使用可能なコマンドのリストを表示します。
omconfig <コマンドレベル 2> -?	about 、 chassis 、 preferences 、および system のレベル 2 コマンドのヘルプを表示します。
omconfig chassis -?	omconfig chassis コマンドのヘルプを表示します。
omconfig system -?	omconfig system コマンドのヘルプを表示します。
omconfig preferences -?	カスタム区切りの形式 (cdv) である cdvformat などの omconfig preferences で使用可能なコマンドを表示します。

コマンドの使用方法	説明
omconfig preferences cdvformat -?	cdv の区切り値のリストを表示します。
omconfig system <command level 3> -?	特定の omconfig system コマンドの実行に使用する必要のあるパラメータリストを表示します。
omconfig system alertaction -?	omconfig system alertaction コマンドの有効なパラメータのリストを表示します。
omconfig system shutdown -?	omconfig system shutdown の有効なパラメータのリストを表示します。
omconfig system alertaction -? more	omconfig system alertaction の有効なパラメータのリストを表示し、コマンド出力を 1 画面ずつスクロールします。 more を入力すると、スペースキーを押して CLI ヘルプ出力の次の画面を表示できるようになります。
omconfig system alertaction -? -outa alert.txt	omconfig system alertaction -? コマンドのヘルプをすべて含むファイルを作成します。ここで、 -outa は、 alert.txt というファイルにコマンドの内容を出力します。
more alert.txt	Microsoft Windows、Red Hat Enterprise Linux、または SUSE LINUX Enterprise Server のオペレーティングシステム上で alertaction コマンドについてのヘルプを表示します。

omconfig about

システムにインストールされたシステム管理アプリケーションの製品名とバージョン番号を確認するには、omconfig about コマンドを使用します。以下は、**omconfig about** コマンドの出力例です。

```
製品名       : Dell OpenManage Server Administrator
バージョン   : 7.x.x
著作権      : Copyright (C) Dell Inc. xxxx-xxxx. All rights reserved.
会社        : Dell Inc.
```

Server Administrator 環境に関する詳細については、次のように入力します。

```
omconfig about details=true
```

Server Administrator には多くのサービスがあり、それぞれに独自のバージョン番号があります。内容フィールドは、サービスのバージョン番号と、その他の有用な詳細情報も示します。出力内容は、システムの構成および Server Administrator のバージョンによって異なります。

```
内容 :      Broadcom SNMP Agent 10.xx.xx
         Common Storage Module 3.x.x
         Data Engine 5.x.x
         Hardware Application Programming Interface 5.x.x
         Instrumentation Service 6.x.x
```

```
Instrumentation Service Integration Layer 1.x.x
Intel SNMP Agent 1.xx.x
OpenManage Inventory Collector 6.x.x
OpenManage Tools 6.x.x
Remote Access Controller 4 Data Populator 4.x.x
Remote Access Controller 4 Managed Node 4.6.3
Secure Port Server 1.x.x
Server Administrator Framework 6.x.x
Agent for Remote Access 1.x.x
Storage Management 3.x.x
Sun Java Runtime Environment 1.x.xx
```

omconfig chassis または omconfig mainsystem


omconfig chassis または **omconfig mainsystem** コマンドを使用して、以下のことを行います。


- ファン、電圧、および温度プローブをデフォルトに設定するか、それらに特定の値を割り当てる
- システム起動中の BIOS の動作を設定する
- メモリエラー数をクリアする
- システム構成により可能であれば、電源ボタンコントロール機能を有効または無効にする


すべての **omconfig chassis** または **omconfig mainsystem** コマンドのリストを表示するには、**omconfig chassis -?** または **omconfig mainsystem -?** コマンドを使用します。


omconfig chassis biossetup または omconfig mainsystem biossetup

omconfig chassis biossetup または **omconfig mainsystem biossetup** コマンドを使用して、通常はシステムの BIOS セットアップ起動時間設定のみで実行可能なシステム BIOS 設定を行います。

 **注意:** ある種の BIOS セットアップオプションを変更すると、システムが使用不能になったり、オペレーティングシステムの再インストールが必要になる場合があります。

 **メモ:** BIOS セットアップ オプションの変更を有効にするには、システムを再起動します。

 **メモ:** 一部のシステムでは使用できない BIOS セットアップオプションがあります。

 **メモ:** ある種のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）での制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

 **メモ:** CSIOR（再起動時にシステムインベントリを収集、Collect System Inventory on Restart）が無効になっている場合は、**omconfig** コマンドで BIOS 設定を構成することはできません。

PowerEdge 12G システムより前のシステムでの BIOS セットアップ設定

次の表に、PowerEdge12G システム以前のシステムにおける **omconfig chassis biossetup** または **omconfig mainsystem biossetup** コマンドで使用可能な「名前=値」のペアを示します。

表 21. PowerEdge 12G システムより前のシステムでの BIOS セットアップ設定

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
attribute=acpwrrrecovery	setting=off last on delay=random immediate timedelay time <値>	<ul style="list-style-type: none"> • off : システムはオフになります。 • last: システムは以前の状態に戻ります。 • on : システムはオンになります。 • random : ランダムな遅延時間でシステムをオンにします。 • immediate : システムをただちに前の状態に戻します。 • timedelay <値> : ユーザー指定の遅延時間に基づいてシステムの電源を入れます。
attribute=bezel	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム起動中のベゼル取り外しイントルージョンチェックを有効にします。 • disabled : システム起動中のベゼル取り外しイントルージョンチェックを無効にします。
attribute=bootsequence	setting=diskettefirst hdonly devicelist cdromfirst opticaldrive	<p>システムの起動に使用するデバイスと、起動ルーチンが各デバイスをチェックする順序を BIOS に指示します。</p> <p> メモ: Linux システムの場合、管理者または管理者グループにアップグレードされたユーザーまたはユーザーグループは、この BIOS 設定を設定できません。</p>
attribute=bootmode	setting=uefi bios	<ul style="list-style-type: none"> • uefi : システムが UEFI (統合拡張可能ファームウェアインタフェース、Unified Extensible Firmware Interface) をサポートするオペレーティングシステムで起動できるようにします。 • bios : システムが UEFI をサポートしないオペレーティングシステムで起動できるようにします。
attribute=bootorder	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN	<p>設定されたエイリアス名に基づいて起動順序を設定します。設定されているエイリアス名を表示するには、コマンド <code>omreport chassis biossetup attribute=bootorder</code> を実行します。</p>

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		 メモ: Linux システムの場合、管理者または管理者グループにアップグレードされたユーザーまたはユーザーグループは、この BIOS 設定を設定できません。
attribute=hddorder	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN	<p>設定されたエイリアス名に基づいて、BIOS セットアップのハードディスク順序を設定します。変更はシステムの再起動後に反映されません。設定されているエイリアス名を表示するには、コマンド <code>omreport chassis biossetup attribute=bootorder</code> を実行します。</p>  メモ: Linux システムの場合、管理者または管理者グループにアップグレードされたユーザーまたはユーザーグループは、この BIOS 設定を設定できません。
attribute=cstates	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがデュープスリープ状態になることを有効にします。 • disabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがデュープスリープ状態になることを無効にします。
attribute=conredirect	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : BIOS 画面の出力をシリアルポート 1 にリダイレクトし、テキストの出力をシリアルポート 2 にリダイレクトします。 • disabled : BIOS コンソールのリダイレクトをオフにします。
attribute=crab	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム再起動後に BIOS コンソールリダイレクトを有効にします。 • disabled : BIOS コンソールリダイレクトを無効にします。  メモ: crab 属性は Dell PowerEdge 9G システムのみで有効です。
attribute=cpucle	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム再起動後にプロセッサ C1-E を有効にします。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • disabled : システム再起動後にプロセッサ C1-E を無効にします。
attribute=cpuht	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : 論理プロセッサのハイパースレッディングを有効にします。 • disabled : 論理プロセッサのハイパースレッディングを無効にします。
attribute=cpuvt	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : 仮想化を有効にします。 • disabled : 仮想化を無効にします。
attribute=cpuxdsupport	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム上で XD (実行無効、Execute Disable) サポートを有効にします。 • disabled : システム上で XD サポートを無効にします。
attribute=cpucore	setting=1 2 4 6 8 10 12 all	<ul style="list-style-type: none"> • 1 : プロセッサごとに 1 コアを有効にします。 • 2 : プロセッサごとに 2 コアを有効にします。 • 4 : プロセッサごとに 4 コアを有効にします。 • 6 : プロセッサごとに 6 コアを有効にします。 • 8 : プロセッサごとに 8 コアを有効にします。 • 10 : プロセッサごとに 10 コアを有効にします。 • 12 : プロセッサごとに 12 コアを有効にします。 • all : プロセッサごとに最大コア数を有効にします。
attribute=dbs	setting=enable disable	<ul style="list-style-type: none"> • enable : システム上で DBS (デマンドベーススイッチング、Demand Based Switching) を有効にします。 • disable : システム上で DBS を無効にします。
attribute=diskette	setting=off auto writeprotect	<ul style="list-style-type: none"> • off : ディスケットドライブを無効にします。 • auto : 自動的にディスクドライブを有効にします。 • writeprotect : ディスケットドライブは読み取り専用フォー

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
attribute=dualnic	setting=off on pxebboth nic1pxe nic2pxe isciboth nic1iscsi nic2iscsi nic1pxenic2iscsi nic1iscinic2pxe onpxebboth onpxenone onpxenic1 onpxenic2	<p>マットでのみ利用できます。 ディスクドライブを読み 取り専用にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • off: ネットワークインタフェースコントローラ (NIC) を無効にします。 • on: ネットワークインタフェースを有効にします (PXE と iSCSI はどちらの NIC でも有効になりません)。 • pxebboth: 両方の NIC で PXE を有効にします。 • nic1pxe: 最初の NIC で PXE を有効にし、2 つ目の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にしません。 • nic2pxe: 最初の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にせず、2 つ目の NIC で PXE を有効にします。 • isciboth: 両方の NIC で iSCSI を有効にします。 • nic1iscsi: 最初の NIC で iSCSI を有効にし、2 つ目の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にしません。 • nic2iscsi: 最初の NIC では何も (PXE も iSCSI も) 有効にせず、2 つ目の NIC で iSCSI を有効にします。 • nic1pxenic2iscsi: 最初の NIC で PXE を有効にし、2 つ目の NIC で iSCSI を有効にします。 • nic1iscinic2pxe: 最初の NIC で iSCSI を有効にし、2 つ目の NIC で PXE を有効にします。 <p>次のオプションは廃止されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • onpxebboth: 両方の NIC で PXE を有効にします。 • onpxenone: PXE はいずれの NIC でも有効化されません。 • onpxenic1: NIC 1 で PXE を有効にします。 • onpxenic2: NIC 2 で PXE を有効にします。
attribute=embhpyvisor	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled: 内蔵されたハイパーバイザを有効にします。 • disabled: 内蔵されたハイパーバイザを無効にします。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
attribute=embvideoctrl	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : 内蔵ビデオコントローラをプライマリビデオデバイスとして有効にします。 • disabled : 内蔵ビデオコントローラのプライマリビデオデバイスとしての設定を無効にします。
attribute=esataport	setting=off auto	<ul style="list-style-type: none"> • off : 内蔵 SATA ポート値をオフに設定します。 • auto : 内蔵 SATA ポート値を自動に設定します。
attribute=extserial	setting=com1 com2 rad	<ul style="list-style-type: none"> • com1 : 外部シリアルコネクタを COM 1 にマップします。 • com2 : 外部シリアルコネクタを COM 2 にマップします。 • rad : 外部シリアルコネクタをリモートアクセスドライブにマップします。
attribute=fbr	setting=9600 19200 57600 115200	<ul style="list-style-type: none"> • 9600 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 9600 bps に設定します。 • 19200 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 19200 bps に設定します。 • 57600 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 57600 bps に設定します。 • 115200 : コンソールリダイレクトのフェイルセーフ ボーレートを 115200 bps に設定します。
attribute=htassist	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : プローブフィルタチップセットのオプションを有効にします。 • disabled : プローブフィルタチップセットのオプションを無効にします。 <p> メモ: このオプションを有効または無効にすると、一部のアプリケーションは完全に動作しなくなります。</p>
attribute=ide	setting=on off force=true	<ul style="list-style-type: none"> • on : IDE を有効にします。 • off : IDE を無効にします。 • force=true : 設定変更を確認します。
attribute=ideprdrv	setting=off auto	<ul style="list-style-type: none"> • off : デバイスを無効にします。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • auto : 自動的にデバイスを検出して有効にします。
attribute=intrusion	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム起動中のイントルージョンチェックを有効にします。システムがベゼルイントルージョンのチェックも行う場合は、このオプションによりシステムのベゼル取り外しのチェックを行います。 • disabled : システム起動中のイントルージョンチェックを無効にします。
attribute=intusb[1..2]	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : 内蔵 USB ポートを有効にします。 • disabled : 内蔵 USB ポートを無効にします。
 メモ: attribute=intusb オプションは廃止されました。		
attribute=mouse	setting=on off	<ul style="list-style-type: none"> • on : マウスを有効にします。 • off : マウスを無効にします。
attribute=nic1	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : 最初の NIC をシステム起動中に有効にします。 • enabledwithpxe : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。 • disabled : システム起動中に最初の NIC を無効にします。 • enabledonly : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enablednonepxe : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enabledwithiscsi : システム起動中に最初の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。
attribute=nic2	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします。 • enabledwithpxe : システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。 • disabled : システム起動中に 2 番目の NIC を無効にします。



名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
attribute=nic3	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<ul style="list-style-type: none"> • enabledonly : システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enablednonepxe : システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enabledwithiscsi : システム起動中に 2 番目の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。
attribute=nic4	setting=enabled enabledwithpxe disabled enabledonly enablednonepxe enabledwithiscsi	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム 起動 中に 3 番目の NIC を有効にします。 • enabledwithpxe : システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。 • disabled : システム起動中に 3 番目の NIC を無効にします。 • enabledonly : システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enablednonepxe : システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enabledwithiscsi : システム起動中に 3 番目の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。
		<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム 起動 中に 4 番目の NIC を有効にします。 • enabledwithpxe : システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオンの状態にします)。 • disabled : システム起動中に 4 番目の NIC を無効にします。 • enabledonly : システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • enablednonepxe : システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします (システムに PXE がある場合は PXE をオフの状態にします)。 • enabledwithscsi : システム起動中に 4 番目の NIC を有効にします (システムに iSCSI がある場合は iSCSI をオンの状態にします)。
attribute=numlock	setting=on off	<ul style="list-style-type: none"> • on : テンキーパッドを番号のキーとして使用します。 • off : テンキーパッドを矢印キーとして使用します。
attribute=NodeInterleave	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : ノードインターリーブを有効にし、NUMA (Non-Uniform Memory Access) を無効にします。 • disabled : ノードインターリーブを無効にし、NUMA (Non-Uniform Memory Access) を有効にします。
 メモ : numa は将来のリリースで廃止される予定となっているため、numa ではなく NodeInterleave を使用してください。		
attribute=ppaddress	setting=off lpt1 lpt2 lpt3	<ul style="list-style-type: none"> • off : パラレルポートアドレスを無効にします。 • lpt1 : LPT1 のデバイスを確認します。 • lpt2 : LPT2 のデバイスを確認します。 • lpt3 : LPT3 のデバイスを確認します。
attribute=ppmode	setting=at ps2 ecp epp	<ul style="list-style-type: none"> • at : パラレルポートのモードを AT に設定します。 • ps2 : パラレルポートのモードを PS/2 に設定します。 • ecp : パラレルポートのモードを ECP (拡張機能ポート) に設定します。 • epp : パラレルポートのモードを EPP (強化パラレルポート) に設定します。
attribute=primaryscsi	setting=on off force=true	<p> 注意: primary scsi、romb、romba、または rombb の設定を変更すると、システムはオペレーティングシステムを再インストールするまで操作不能となります。</p>

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • on: このデバイスを有効にします。 • off: このデバイスを無効にします。 • force=true: 設定変更を確認します。
attribute=romb	setting=raid off scsi force=true	<ul style="list-style-type: none"> • raid: マザーボード RAID を RAID デバイスとして検出するように BIOS に指示します。 • off: システム起動中、マザーボード RAID を無効にします。 • scsi: マザーボード RAID デバイスを SCSI デバイスとして検出するよう BIOS に指示します。 • force=true: 設定変更を確認します。
attribute=romba	setting=raid scsi force=true	<ul style="list-style-type: none"> • raid: マザーボード RAID チャンネル A を RAID デバイスとして検出するように BIOS に指示します。 • scsi: マザーボード RAID デバイスを SCSI デバイスとして検出するよう BIOS に指示します。 • force=true: 設定変更を確認します。
attribute=rombb	setting=raid scsi force=true	<ul style="list-style-type: none"> • raid: マザーボード RAID チャンネル B を RAID デバイスとして検出するように BIOS に指示します。 • scsi: マザーボード RAID デバイスを SCSI デバイスとして検出するよう BIOS に指示します。 • force=true: 設定変更を確認します。
attribute=sata	setting=off ata raid	<ul style="list-style-type: none"> • off: SATA コントローラを無効にします。 • ata: オンボード SATA コントローラを ATA モードに設定します。 • raid: オンボード SATA コントローラを RAID モードに設定します。
attribute=sataport (0...7) または (a...h)	setting=off auto	<ul style="list-style-type: none"> • off: SATA ポートを無効にします。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • auto : SATA ポートを自動的に有効にします。
attribute=secondaryscsi	setting=on off	<ul style="list-style-type: none"> • on : セカンダリ SCSI を有効にします。 • off : このデバイスを無効にします。
attribute=serialportaddr	setting=default alternate com1 com2	<ul style="list-style-type: none"> • default : シリアルデバイス 1=COM1、シリアルデバイス 2=COM2 にマップします。 • alternate : シリアルデバイス 1=COM2、シリアルデバイス 2=COM1 にマップします。 • com1 : シリアルポートアドレスを COM1 に設定します。 • com2 : シリアルポートアドレスを COM2 に設定します。
attribute=serialcom	setting=off on com1 com2 onwithconsole	<ul style="list-style-type: none"> • off : シリアル通信設定を無効にします。 • on : コンソールリダイレクトなしのシリアル通信設定を有効にします。 • com1 : COM1 経由のコンソールリダイレクトを伴うシリアル通信設定を有効にします。 • com2 : COM2 経由のコンソールリダイレクトを伴うシリアル通信設定を有効にします。 • onwithconsole : COM1 および COM2 経由のコンソールリダイレクトを伴うシリアル通信設定を有効にします。 <p> メモ: onwithconsole の設定は、Dell のブレードシステムでのみサポートされます。</p>
attribute=serialport1	setting=off auto com1 com3 bmcserial bmcnic rac com1bmc	<ul style="list-style-type: none"> • off : シリアルポート 1 を無効にします。 • auto : シリアルポート 1 を COM ポートにマッピングします。 • com1 : シリアルポート 1 を COM ポート 1 にマッピングします。 • com3 : シリアルポート 1 を COM ポート 3 にマッピングします。 • bmcserial : シリアルポート 1 を BMC シリアルにマッピングします。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
		<ul style="list-style-type: none"> • bmcnic : シリアルポート 1 を BMC (ベースボード管理コントローラ、Baseboard Management Controller) NIC にマッピングします。 • rac : シリアルポート 1 を RAC (リモートアクセスコントローラ、Remote Access Controller) にマッピングします。 • ccom1bmc : シリアルポート 1 を COM ポート 1 bmc にマッピングします。 <p> メモ: このコマンドは特定の x8xx システムでのみ適用可能です。</p>
attribute=serialport2	setting=off auto com2 com4	<ul style="list-style-type: none"> • off : シリアルポート 2 を無効にします。 • auto : シリアルポート 2 を COM ポートにマッピングします。 • com2 : シリアルポート 2 を COM ポート 2 にマッピングします。 • com4 : シリアルポート 2 を COM ポート 4 にマッピングします。
attribute=speaker	setting=on off	<ul style="list-style-type: none"> • on : スピーカーを有効にします。 • off : スピーカーを無効にします。
attribute=cputurbomode	setting=enabled disabled	<p>CPU ターボモードは、システムが許容された温度、電力、または電流範囲内で稼働しているときに CPU の周波数を増やすことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • enabled : CPU ターボモードを有効にします。 • disabled : CPU ターボモードを無効にします。
attribute=uausb	setting=on backonly off	<ul style="list-style-type: none"> • on : ユーザーアクセス可能な USB ポートを有効にします。 • backonly : システムの背面にあるユーザーアクセス可能な USB ポートのみを有効にします。 • off : ユーザーアクセス可能な USB ポートを無効にします。

名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=	説明
attribute=usb	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : USB ポートを有効にします。 • disabled : USB ポートを無効にします。 <p> メモ: お使いのシステムハードウェアにより、usb または usbb のいずれかを設定できます。</p>
attribute=usbb	setting=enabled enabledwithbios disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システム起動中に USB ポートを有効にします (BIOS サポートなし)。 • enabledwithbios : システム起動中に USB ポートを有効にします (BIOS サポートあり)。 • disabled : システム起動中に USB ポートを無効にします。 <p> メモ: お使いのシステムハードウェアにより、usb または usbb のいずれかを設定できます。</p>
attribute=cstates	setting=enabled disabled	<ul style="list-style-type: none"> • enabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがディープスリープ状態になることを有効にします。 • disabled : システムが使用されていない時に、プロセッサがディープスリープ状態になることを無効にします。

PowerEdge 12G システムでの BIOS セットアップの設定

次の表に PowerEdge 12G システムでサポートされる BIOS セットアップ属性の一覧を示します。PowerEdge 12G システムでは、これらの属性がグループ化されています。特定のグループにおいて使用可能な属性は、ハードウェア構成に応じて異なる場合があります。omconfig chassis biossetup コマンドは、読み取り専用の属性を表示しません。


 **メモ:** セットアップパスワードが設定済みである場合、BIOS 設定を行うときは常に同じパスワードを設定してください。

表 22. PowerEdge 12G システムでの BIOS セットアップの設定

グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
BIOS Boot Settings (BIOS 起動設定)	attribute=BootSeq	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN
	attribute=HddSeq	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN
Boot Settings (起動設定)	attribute=BootMode	setting=Bios Uefi



グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
	attribute=BootSeqRetry	setting=Enabled Disabled
組み込みサーバー管理	attribute=FrontLcd	setting=None UserDefined ModelNum Advanced
	attribute=UserLcdStr	setting=<string>
内蔵デバイス	attribute=EmbVideo	setting=Enabled Disabled
	attribute=IntegratedNetwork1	setting=Enabled DisabledOs
	attribute=IntegratedNetwork2	setting=Enabled DisabledOs
	attribute=IntegratedRaid	setting=Enabled Disabled
	attribute=IntegratedSas	setting=Enabled Disabled
	attribute=InternalSdCard	setting=On Off
	attribute=InternalSdCardRedundancy	setting=Mirror Disabled
	attribute=InternalUsb	setting=On Off
	attribute=InternalUsb1	setting=On Off
	attribute=InternalUsb2	setting=On Off
	attribute=IoatEngine	setting=Enabled Disabled
	attribute=OsWatchdogTimer	setting=Enabled Disabled
	attribute=SriovGlobalEnable	setting=Enabled Disabled
	attribute=UsbPorts	setting=AllOn OnlyBackPortsOn AllOff
メモリ設定	attribute=MemOpMode	setting=OptimizerMode SpareMode MirrorMode AdvEccMode SpareWithAdvEccMode
	attribute=MemOpVoltage	setting=AutoVolt Volt15V
		 メモ: Volt15V は 1.5 ボルトを示しています。
	attribute=MemTest	setting=Enabled Disabled
	attribute=NodeInterleave	setting=Enabled Disabled
	attribute=SerialDbgOut	setting=Enabled Disabled
	attribute=SysMemSize	setting=<string>
	attribute=SysMemSpeed	setting=<string>
	attribute=SysMemType	setting=<string>
	attribute=SysMemVolt	setting=<string>
	attribute=VideoMem	setting=<string>
その他の設定	attribute=AssetTag	setting=<string>
	attribute=Characterization	setting=Enabled Disabled

グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
	attribute=ErrPrompt	setting=Enabled Disabled
	attribute=NumLock	setting=On Off
	attribute=ReportKbdErr	setting=Report NoReport
	attribute=SystemUefiShell	setting=Enabled Disabled
One-Time Boot (1 回限りの起動)	attribute=OneTimeBootMode	setting=Disabled OneTimeBootSeq OneTimeHddSeq OneTimeUefiBootSeq OneTimeCustomBootSeqStr OneTimeCustomHddSeqStr OneTimeCustomUefiBootSeqStr
	attribute=OneTimeBootSeqDev	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN
	attribute=OneTimeHddSeqDev	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN
	attribute=OneTimeUefiBootSeq Dev	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN
プロセッサ設定	attribute=DataReuse	setting=Enabled Disabled
	attribute=DculpPrefetcher	setting=Enabled Disabled
	attribute=DcuStreamerPrefetcher	setting=Enabled Disabled
	attribute=LogicalProc	setting=Enabled Disabled
	attribute=Proc1Brand	setting=<string>
	attribute=Proc1Id	setting=<string>
	attribute=Proc1L2Cache	setting=<string>
	attribute=Proc1L3Cache	setting=<string>
	attribute=Proc1NumCores	setting=<integer>
	attribute=Proc2Brand	setting=<string>
	attribute=Proc2Id	setting=<string>
	attribute=Proc2L2Cache	setting=<string>
	attribute=Proc2L3Cache	setting=<string>
	attribute=Proc2NumCores	setting=<integer>
	attribute=Proc3Brand	setting=<string>
	attribute=Proc3Id	setting=<string>
	attribute=Proc3L2Cache	setting=<string>
	attribute=Proc3L3Cache	setting=<string>
	attribute=Proc3NumCores	setting=<integer>
	attribute=Proc4Brand	setting=<string>


グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
	attribute=Proc4Id	setting=<string>
	attribute=Proc4L2Cache	setting=<string>
	attribute=Proc4L3Cache	setting=<string>
	attribute=Proc4NumCores	setting=<integer>
	attribute=Proc64bit	setting=<string>
	attribute=ProcAdjCacheLine	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcBusSpeed	setting=<string>
	attribute=ProcCores	setting=Single All Dual Quad 1 2 4 6 8 10 12 14 16
	attribute=ProcCoreSpeed	setting=<string>
	attribute=ProcExecuteDisable	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcHwPrefetcher	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcVirtualization	setting=Enabled Disabled
	attribute=QpiBandwidthPriority	setting=InputOutput Compute
	attribute=QpiSpeed	setting=MaxDataRate 8GTps 7GTps 6GTps
	attribute=RtidSetting	setting=Enabled Disabled
	attribute=EmbSata	setting=Off AtaMode RaidMode AhciMode
	attribute=eSataPort1	setting=Off Auto
	attribute=eSataPort1Capacity	setting=<string>
	attribute=eSataPort1DriveType	setting=<string>
	attribute=eSataPort1Model	setting=<string>
	attribute=SataPortA	setting=Off Auto
	attribute=SataPortACapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortADriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortAModel	setting=<string>
	attribute=SataPortB	setting=Off Auto
	attribute=SataPortBCapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortBDriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortBModel	setting=<string>
	attribute=SataPortC	setting=Off Auto
	attribute=SataPortCCapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortCDriveType	setting=<string>

グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
	attribute=SataPortCModel	setting=<string>
	attribute=SataPortD	setting=Off Auto
	attribute=SataPortDCapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortDDriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortDModel	setting=<string>
	attribute=SataPortE	setting=Off Auto
	attribute=SataPortECapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortEDriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortEModel	setting=<string>
	attribute=SataPortF	setting=Off Auto
	attribute=SataPortFCapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortFDriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortFModel	setting=<string>
	attribute=SataPortG	setting=Off Auto
	attribute=SataPortGCapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortGDriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortGModel	setting=<string>
	attribute=SataPortH	setting=Off Auto
	attribute=SataPortHCapacity	setting=<string>
	attribute=SataPortHDriveType	setting=<string>
	attribute=SataPortHModel	setting=<string>
シリアル通信	attribute=ConTermType	setting=Vt100Vt220 Ansi
	attribute=ExtSerialConnector	setting=Serial1 Serial2 RemoteAccDevice
	attribute=FailSafeBaud	setting=115200 57600 19200 9600
	attribute=RedirAfterBoot	setting=Enabled Disabled
	attribute=SerialComm	setting=OnNoConRedir OnConRedirCom1 OnConRedirCom2 Off
	attribute=SerialPortAddress	setting=Serial1Com1Serial2Com2 Serial1Com2Serial2Com1 Com1 Com2
Slot Disablement (スロット無効)	attribute=Slot1	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot2	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot3	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled

グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
	attribute=Slot4	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot5	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot6	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
	attribute=Slot7	setting=Enabled Disabled BootDriverDisabled
システム情報	attribute=SysMfrContactInfo	setting=<string>
	attribute=SystemBiosVersion	setting=<string>
	attribute=SystemManufacturer	setting=<string>
	attribute=SystemModelName	setting=<string>
	attribute=SystemServiceTag	setting=<string>
システムプロファイル設定	attribute=MemFrequency	setting=MaxPerf 1600MHz 1333MHz 1067MHz 800MHz MaxReliability
	attribute=MemPatrolScrub	setting=Standard Extended Disabled
	attribute=MemRefreshRate	setting=1x 2x
	attribute=MemVolt	setting=AutoVolt Volt15V Volt135V  メモ: Volt15V は 1.5 ボルトを、Volt135V は 1.35 ボルトを示します
	attribute=ProcC1E	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcCStates	setting=Enabled Disabled
	attribute=ProcPwrPerf	setting=MaxPerf MinPwr SysDbpm OsDbpm
	attribute=ProcTurboMode	setting=Enabled Disabled
	attribute=SysProfile	setting=PerfPerWattOptimizedOs PerfPerWattOptimizedDapc PerfOptimized Custom DenseCfgOptimized
システムセキュリティ	attribute=AcPwrRcvry	setting=On Off Last
	attribute=AcPwrRcvryDelay	setting=Immediate User Random
	attribute=AcPwrRcvryUserDelay	setting=<integer>
	attribute=AesNi	setting=Enabled Disabled
	attribute=BiosUpdateControl	setting=Unlocked Limited Locked
	attribute=IntelTxt	setting=On Off
	attribute=NmiButton	setting=Enabled Disabled
	attribute>PasswordStatus	setting=Locked Unlocked
	attribute=PwrButton	setting=Enabled Disabled
	attribute=SetupPassword	setting=<string>

グループ	名前=値のペア 1 attribute=	名前=値のペア 2 setting=
	attribute=SysPassword	setting=<string>
	attribute=TcmActivation	setting=NoChange Activate Deactivate
	attribute=TcmClear	 注意: TCM をクリアすると TCM 内のすべてのキーが失われます。これは OS の起動に影響を及ぼす可能性があります。
		setting=Yes No
	attribute=TcmSecurity	setting=On Off
	attribute=TpmActivation	setting=NoChange Activate Deactivate
	attribute=TpmClear	 注意: TPM をクリアすると TPM 内のすべてのキーが失われます。これは OS の起動に影響を及ぼす可能性があります。
		setting=Yes No
	attribute=TpmSecurity	setting=Off OnPbm OnNoPbm
UEFI 起動設定	attribute=UefiBootSeq	sequence=aliasname1, aliasname2,..... aliasnameN

omconfig chassis currents または omconfig mainsystem currents

 **メモ:** 現在、Server Administrator ではこのコマンドは使用できなくなっています。

omconfig chassis fans または omconfig mainsystem fans

ファンプローブの警告しきい値を設定するには、**omconfig chassis fans** または **omconfig mainsystem fans** コマンドを使用します。他のコンポーネントと同様に、警告しきい値および障害しきい値の両方を表示できますが、障害しきい値を設定することはできません。システム製造元が障害しきい値の最小値と最大値を設定します。


ファン警告しきい値の有効なパラメータ

次の表は、温度警告しきい値を設定するための有効なパラメータを示します。

表 23. omconfig chassis fans または omconfig chassis fans

名前 = 値のペア	説明
index=<n>	プローブまたはプローブインデックスの数（指定が必要）。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値。

最小および最大警告しきい値のデフォルト

 **メモ:** ESM 3、ESM4、および BMC の機能を持つシステムでは警告しきい値をデフォルト値に設定することはできません。

ファン警告しきい値の上限と下限の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis fans index=0 warnthresh=default
```

または

```
omconfig mainsystem fans index=0 warnthresh=default
```

上限と下限の一方をデフォルトにし、他方を設定することはできません。言いかえると、最小警告しきい値をデフォルトにする場合は、最大警告しきい値についてもデフォルト値を選択することになります。

最小および最大警告しきい値の指定

ファンプローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と、警告しきい値の最大値または最小値（もしくはその両方）を指定する必要があります。次の例では、設定されるプローブはプローブ 0 です。1 番目のコマンドは最小しきい値のみを設定します。2 番目のコマンドは最小と最大の両しきい値を設定します。

```
omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580
```

または

```
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580
```


```
omconfig chassis fans index=0 minwarnthresh=4580 maxwarnthresh=9160
```

または

```
omconfig mainsystem fans index=0 minwarnthresh=4580 maxwarnthresh=9160
```

このコマンドを実行して、システムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

```
Fan probe warning threshold(s) set successfully.
```


 **メモ:** PowerEdge 9G システムでは、ファンプローブの最小および最大警告しきい値を設定することはできません。

omconfig chassis frontpanel または omconfig mainsystem frontpanel

omconfig chassis frontpanel または **omconfig mainsystem frontpanel** コマンドを使用して次の設定を行います。

- 電源ボタンと Nonmasking Interrupt (NMI) ボタンの設定
- LCD での表示内容の設定
 - 何も表示しない
 - カスタマイズされた情報
 - デフォルトのシステム情報
 - サービスタグ、システム名
 - リモートアクセス MAC アドレス
 - システム電源

- リモートアクセス IP アドレス
- システムの環境温度
- リモートアクセス IPv4 アドレス
- リモートアクセス IPv6 アドレス
- LCD ライン番号の指定と設定
- LCD の暗号化状態レポートの表示
- Kernel-based Virtual Machine (KVM) が使用可能な場合にアクティブなリモートセッションを表示するように LCD を設定

 **メモ:** 電源 と NMI ボタンは、システムに存在するときのみ設定できます。

次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示しています。

表 24. omconfig chassis frontpanel または omconfig mainsystem frontpanel の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
lcdindex=<インデックス>	NA	LCD ライン番号を指定します。
config=none default custom	NA	<ul style="list-style-type: none"> • none : LCD テキストをなしに設定します。 • default : LCD テキストをデフォルトに設定します。 • custom : LCD テキストをカスタムに設定します。
text=<カスタムテキスト>	NA	config=custom のときに LCD のカスタムテキストを設定します。
nmibutton=enable disable	NA	<ul style="list-style-type: none"> • enable : システムの NMI ボタンを有効にします。 • disable : システムの NMI ボタンを無効にします。
powerbutton=enable disable	NA	<ul style="list-style-type: none"> • true : システムの 電源 ボタンを有効にします。 • false : システムの 電源 ボタンを無効にします。
config=sysname	NA	システムの名前を設定します。
config=syspower	NA	システム電源情報を設定します。
config=servicetag	NA	システムのサービスタグ情報を設定します。
config=remoteaccessipv4	NA	リモートアクセス IPv4 情報を設定します。
config=remoteaccessipv6	NA	リモートアクセス IPv6 情報を設定します。
config=remoteaccessmac	NA	リモートアクセス MAC アドレスを設定します。
config=ipv4drac		IPv4 DRAC 情報を設定します。
config=ipv6drac		IPv6 DRAC 情報を設定します。
config=macidrac	NA	DRAC の MAC アドレスを設定します。
config=ambienttemp	NA	システム温度を摂氏で設定します。

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
security=modify	NA	LCD テキストを変更できます。
security=view	NA	LCD テキストへの読み取り専用アクセスを提供します。
security=disabled	NA	LCD テキストへの制限付きアクセスを提供します。
remoteindication=true	NA	システムがアクティブなりモートセッションを検出すると、LCD が点滅します。

 **メモ:** ipv4idrac、ipv6idrac、および macidrac のオプションは廃止されました。

omconfig chassis info または omconfig mainsystem info

システムの管理タグ名とシャーシ名を入力するには、**omconfig chassis info** または **omconfig mainsystem info** コマンドを使用します。ブレードシステムの場合、モジュラコンポーネントの管理タグ名も入力します。次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示します。

表 25. omconfig chassis info または omconfig mainsystem info の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
index=<数値>	管理タグまたは名前を設定するシャーシの番号。
tag=<テキスト>	英数字テキストの形式の管理タグ。文字または数字は 10 文字を超えてはなりません。
name=<テキスト>	シャーシ名。

以下の例では、メインシステムシャーシの管理タグを **buildsys** に設定します。

```
omconfig chassis info index=0 tag=buildsys
```

または

```
omconfig mainsystem info index=0 tag=buildsys
```

インデックス 0 はデフォルトでメインシステムシャーシになります。次のコマンドは **index=n** を省略していますが、同じ結果になります。

```
omconfig chassis info tag=buildsys
```

または

```
omconfig mainsystem info tag=buildsys
```

有効なコマンドが実行されると、結果として次のメッセージが表示されます。

シャーシ情報は正常に設定されました。

一部のシャーシでは、異なる名前を割り当てることができます。メインシステムシャーシの名前は変更できません。次の例では、コマンドがシャーシ 2 の名前を **storscsi1** から **storscsia** に変更します。

```
omconfig chassis info index=2 name=storscsia
```

または

```
omconfig mainsystem info index=2 name=storscsia
```

他のコマンドと同様に、シャーシ 2 (main chassis=0) がシステム内に存在しない場合、CLI はエラーメッセージを発行します。CLI は、所有するシステム構成に対してのみコマンドの実行を許可します。

omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds

シャーシ障害 LED またはシャーシ識別 LED をいつ点滅させるかを指定するには、**omconfig chassis leds** または **omconfig mainsystem leds** コマンドを使用します。このコマンドを使用して、システムハードドライブの LED をクリアすることもできます。次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示します。

表 26. omconfig chassis leds または omconfig mainsystem leds の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
index=<n>	NA	LED が存在するシャーシ番号 (デフォルトはメインシステムシャーシであるシャーシ 0)。
led=fault	severity=warning critical	警告イベントまたは重要イベントのいずれかの発生時に、LED を点滅するように選択します。
led=hdfault	action=clear	ハードディスクドライブのフォールト数を 0 に戻します。
led=identify	flash=off on time-out=<n>	シャーシ識別 LED をオフまたはオンに設定します。LED が点滅するタイムアウト値を秒数で設定します。

omconfig chassis memorymode または omconfig mainsystem memorymode

メモリエラーが発生した場合にシステムのメモリで使用する冗長性モードを指定するには、**omconfig chassis memorymode** または **omconfig mainsystem memorymode** コマンドを使用します。


冗長メモリにより、現在使用中のモジュールで受け入れられないエラーが検出された場合に、システムが別の使用可能なメモリモジュールに切り替えられることができます。**omconfig chassis memorymode** または **omconfig mainsystem memorymode** コマンドで、冗長性を無効にすることができます。冗長性を無効にすると、使用中のメモリモジュールでエラーが発生し始めても、システムは他の使用可能なメモリモジュールに切り替えません。冗長性を有効にするには、スペア、ミラー、RAID、および DDDC から選択します。

スペアモードは、訂正可能なメモリエラーが検出されたシステムメモリのバンクの無効化、スペアバンクの有効化、元のバンクからスペアバンクへのすべてのデータのコピーを行います。スペアバンクでは同一メモリの 3 つ以上のバンクが必要です。オペレーティングシステムはスペアバンクを認識しません。

ミラーモードは、訂正不可能なメモリエラーが検出されたときにメモリの冗長コピーに切り替えます。ミラー化されたメモリに切り替えた後、システムは次の再起動まで元のシステムメモリに切り替えません。このモードでは、オペレーティングシステムは、取り付けられたシステムメモリの半分を認識しません。

RAID モードでは、メモリ容量が低下するかわりにメモリチェックとエラー回復のレベルが向上します。

DDDC モードは、Double Device Data Correction を有効にします。これにより、x4 DRAM のハードウェア障害後のデータ可用性が保証されます。

 **メモ:** このコマンドは、PowerEdge 12G システムより前のシステムにのみ適用されます。PowerEdge 12G システムでは、**memorymode** は BIOS セットアップグループの **メモリ設定** の下にあります。詳細に関しては、「[PowerEdge 12G システムでの BIOS セットアップグループ](#)」を参照してください。


PowerEdge 12G 以前のシステムの属性を設定するには、次の表を参照してください。この表は、コマンドの有効なパラメータを示しています。

表 27. `omconfig chassis memorymode` または `omconfig mainsystem memorymode` の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	説明
<code>index=<n></code>	メモリモジュールが常駐するシャーシ番号 (デフォルトはメインシステムシャーシのシャーシ 0 です)。
<code>redundancy=spare mirror disabled raid5 dddc</code>	<p>spare : 訂正可能なメモリエVENTを持つメモリモジュールを無効にし、障害の発生したモジュールのデータをスペアバンクにコピーします。</p> <p>mirror : 障害が発生したモジュールで訂正不可能なメモリエVENTが生じた場合にシステムをメモリのミラー化されたコピーに切り替えます。mirror モードでは、オペレーティングシステムは次のシステム再起動まで元のモジュールに切り替えません。</p> <p>disabled : 訂正不可能なメモリエVENTが検出されたときにシステムでその他のメモリモジュールを使用しないことを示します。</p> <p>raid5 : システムメモリの構成方法です。これはハードディスクドライブストレージシステムで使用される RAID5 モードと論理的に似ています。このメモリモードは高水準のメモリチェックとエラーリカバリを提供しますが、その代わりにメモリ容量が低下します。サポートされる RAID モードは、回転パリティを伴う RAID レベル 5 ストライピングです。</p> <p>dddc : dddc モードは、Double Device Data Correction を有効にします。これにより、x4 DRAM のハードウェア障害後のデータ可用性が保証されます。</p>
<code>opmode=mirror optimizer advecc</code>	<p>mirror : 障害が発生したモジュールで訂正不可能なメモリエVENTが生じた場合にシステムをメモリのミラー化されたコピーに切り替えます。mirror モードでは、オペレーティングシステムは次のシステム再起動まで元のモジュールに切り替えません。</p> <p>optimizer : DRAM コントローラが 64 ビットモードで独立して動作するようにし、最適化されたメモリパフォーマンスを提供します。</p> <p>アドバンス ECC (advecc) : 2 つの DRAM コントローラを 128 ビットモードで結合し、最適化された安定性を提供できます。コントローラによってチーミングされていないメモリは、オペレーティングシステムに報告されません。</p>

`omconfig chassis pwrmanagement` または `omconfig mainsystem pwrmanagement`

`omconfig chassis pwrmanagement` または `omconfig mainsystem pwrmanagement` コマンドを使って、消費電力上限を設定し、電力使用を制御するプロファイルを管理できます。

 **メモ:** このコマンドは PowerEdge 12G システムより前のシステムにのみ有効です。


次の表に、このコマンドに有効なパラメータを示します。

表 28. omconfig chassis pwrmanagement または omconfig mainsystem pwrmanagement の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
config=budget	cap=<値>	電力バジェットのしきい値を設定します。  メモ: PowerEdge 12G 以降のシステムでは、電力バジェットには消費電力制限のライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、ライセンスの有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細については、デルサポートサイト dell.com/support/manuals の『Dell ライセンスマネージャ』を参照してください。
	setting=enable disable	enable : 消費電力上限設定を有効にします。 disable : 消費電力上限設定を無効にします。
	unit=watt btuphr percent	watt : ワット単位で設定します。 btuphr : BTU/時 単位で設定します。 percent : パーセント単位で設定します。
config=profile	profile=maxperformance apc osctrl custom	maxperformance : このプロファイルはサポートされる最大のプロセッサ状態にプロセッサを設定します。これは、最大パフォーマンスモードを提供しますが、省電力性は最低限となります。 apc : Active Power Control (apc) は、BIOS 制御によるデマンドベース電源管理を有効にします。 osctrl : OS Control (osctrl) は、オペレーティングシステム制御のデマンドベース電源管理を有効にします。 custom : このプロファイルは、個別の BIOS 設定を可能にします。基

 **メモ:** このオプションは PowerEdge 12G システムより前のシステムでサポートされています。

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
		<p>本の BIOS 設定を表示した上で、追加の制御を提供します。</p> <p>min : CPU 電力消費量を最小に設定します。</p> <p>max : CPU 電力消費量を最大に設定します。</p> <p>systemdbpm : モードをシステムデマンドベースの電源管理に設定します。</p> <p>osdbpm:モードをオペレーティングシステムデマンドベースの電源管理に設定します。</p> <p> メモ: これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。</p>
	cpupowermode=min max systemdbpm osdbpm	
	memorypowermode=min 800 1067 1333 max	<p>min : モードを最小電力使用に設定します。</p> <p>800 1067 1333: モードを 800、1067、または 1333 MHz に設定します。</p> <p>max : モードを最大パフォーマンスに設定します。</p> <p> メモ: これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。</p>
	fanmode=min max	<p>min : ファンモードを最小電力使用に設定します。</p> <p>max : ファンモードを最大電力使用に設定します。</p> <p> メモ: これらのオプションは、カスタムプロファイルが選択されている場合にのみ適用されます。</p>

 **メモ:** 電源プロファイルのセットアップオプションを有効にするために、システムを再起動してください。


omconfig chassis pwrmonitoring または omconfig mainsystem pwrmonitoring


電力消費情報を設定するには、**omconfig chassis pwrmonitoring** または **omconfig mainsystem pwrmonitoring** コマンドを使用します。

次の表に、このコマンドに有効なパラメータを示します。


表 29. `omconfig chassis pwrmonitoring` または `omconfig mainsystem pwrmonitoring` の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
<code>index=<n></code>	該当なし	プローブまたはプローブインデックスの数 (指定が必要)。
<code>config=probe</code>	<code>warnthresh=settodefult</code> <code>warnthresh=<n></code> <code>unit=watt btuphr</code>	最小および最大の警告しきい値をデフォルトに設定します。 警告しきい値を設定します。 watt : 単位をワットで表示します。 btuphr : 単位を BTU/時で表示します。
<code>config=resetreading</code>	<code>type=energy peakpower</code>	energy : システム電力読み取り値をリセットします。 peakpower : システムピーク電源をリセットします。

 **メモ:** このコマンドは、PMBus をサポートする一部の Dell 10G システムにのみ適用できます。

 **メモ:** 電源監視で電力バジェット情報を設定するには、ライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、ライセンスの有効期限が切れている場合、システムはエラーメッセージを表示します。詳細については、デルサポートサイト dell.com/openmanagemanuals の『Dell ライセンスマネージャ』を参照してください。

デフォルトの警告しきい値

 **メモ:** センサー管理機能はシステムによって異なります。

電力消費プローブ警告しきい値の上限と下限の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=settodefult
```

または

```
omconfig chassis pwrmonitoring index=0 warnthresh=settodefult
```

上限と下限の一方をデフォルトにし、他方を設定することはできません。最小警告しきい値をデフォルトにする場合は、最大警告しきい値についてもデフォルト値を選択することになります。

警告しきい値の指定

電力消費プローブ警告しきい値を指定する場合は、設定するプローブの数と警告しきい値を指定する必要があります。値を BTU/時またはワットで表示するよう設定します。次の例では、設定中のプローブはプローブ 4 です。

```
omconfig chassis pwrmonitoring config=probe index=4 warnthresh=325 unit=watt
```

または


```
omconfig mainsystem pwrmonitoring config=probe index=4 warnthresh=325  
unit=btuphr
```

このコマンドを実行して、システムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。
電力消費プローブ警告しきい値が正常に設定されました。

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess コマンドを使用して、次の各項目を設定します。

- ローカルエリアネットワーク (LAN) 上のリモートアクセス。
- インストールされている BMC または RAC 用のシリアルポート。
- シリアルオーバー LAN 接続の BMC または RAC。
- シリアルポートのターミナル設定。
- シリアルオーバー LAN 接続の詳細設定。
- BMC または RAC ユーザーの情報。
- IPv6 と IPv4 インタフェースの情報。

 **メモ:** ユーザー ID を入力してユーザー情報を設定します。

タイプ :


omconfig chassis remoteaccess

または




omconfig mainsystem remoteaccess

omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess コマンドの出力は、使用可能な各設定をリストします。次の表は、有効なパラメータを示しています。

表 30. omconfig chassis remoteaccess または omconfig mainsystem remoteaccess の有効なパラメータ






名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
config=additional	ipv4=enable disable	<p>enable : iDRAC でロードできるように IPv4 スタックを有効化します。</p> <p>disable : iDRAC でフラッシュできるように IPv4 スタックを無効化します。</p>
	ipv6=enable disable	<p>enable : iDRAC でロードできるように IPv6 スタックを有効化します。</p> <p>disable : iDRAC でアンロードできるように IPv6 スタックを無効化します。</p>
		<p> メモ: このオプションには、IPv6 を有効または無効にするためのライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合は、エラーメッセージが表示されます。詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals にある『Dell License Manager』を参照してください。</p>

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
config=advsol	characcuminterval=number	number : 文字累積間隔を 5 ミリ秒に設定します。
	charsendthreshold=number	number : 文字数を設定します。BMC は、この文字数 (またはそれ以上の数) がベースボードシリアルコントローラから BMC に受け入れられるとすぐに、文字数が含まれたシリアルオーバー LAN データパケットを自動的に送信します。
	enableipmi= true false	true : LAN で IPMI を有効にします。 false : LAN で IPMI を無効にします。
	enablenic=true false	true : DRAC NIC を有効にします。 false : DRAC NIC を無効にします。  メモ: enablenic オプションは DRAC 5 がインストールされている PowerEdge 9G システムでのみサポートされます。
	nicselection=sharedwithfailoveronall nic1 teamednic1nic2 dracnic	sharedwithfailoveronall : 新しい NIC 選択オプションを設定します。 nic1 : NIC 1 を有効にします。 teamednic1nic2 : NIC チーミング機能を有効にします。 dracnic : DRAC 5 がインストールされている場合は、DRAC NIC を有効にします。  メモ: nicselection オプションは、PowerEdge 9G~11G システムでのみサポートされています。PowerEdge 12G 以降のシステムでは、 primarynw と failovernw が nicselection の代わりに使用されます。
	primarynw=dedicated lom1 lom2 lom3 lom4	dedicated : 専用ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。  メモ: このオプションには、 primarynw を dedicated に設定するためのライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合は、エラーメッセージが表示されます。詳細に関しては、 dell.com/openmanagemanuals にある『Dell License Manager』を参照してください。 lom 1 : lom1 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。 lom 2 : lom2 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
		<p>lom 3 : lom3 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p>lom 4 : lom4 ポートをリモートアクセス向けのプライマリネットワークとして設定します。</p> <p> メモ: primarynw オプションは、PowerEdge 12G 以降のシステムでサポートされています。primarynw が dedicated に設定されている場合は、failovernw を none に設定します。</p>
	failovernw=none lom1 lom2 lom3 lom4 all	<p>none : フェールオーバーネットワークをなしに設定します。</p> <p>lom 1 : フェールオーバーネットワークを lom 1 に設定します。</p> <p>lom 2 : フェールオーバーネットワークを lom 2 に設定します。</p> <p>lom 3 : フェールオーバーネットワークを lom 3 に設定します。</p> <p>lom 4 : フェールオーバーネットワークを lom 4 に設定します。</p> <p>all : フェールオーバーネットワークをすべての lom に設定します。</p> <p> メモ: failovernw オプションは、PowerEdge 12G 以降のシステムでサポートされています。primarynw と failovernw の両方で nicselection を設定します。primarynw オプションと failovernw オプションに同じ値を設定することはできません。</p> <p> メモ: Failovernw には、ポートを設定するためのライセンスが必要です。適切なライセンスがインストールされていないか、有効期限が切れている場合は、エラーメッセージが表示されます。詳細に関しては、dell.com/openmanagemanuals にある『Dell License Manager』を参照してください。</p>
	ipaddress=IP	BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合の IP アドレスを設定します。
	subnet=Subnet	BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合のサブネットマスクを設定します。

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
	gateway=Gateway	BMC LAN インタフェースの IP アドレスソースに静的アドレスを選択した場合のゲートウェイアドレスを設定します。
	ipsource=static dhcp systemsoftware	<p>static : BMC LAN インタフェースの IP アドレスが固定で割り当てられた IP アドレスの場合、静的です。</p> <p>dhcp : BMC LAN インタフェースの IP アドレスが動的ホスト設定プロトコルの場合、DHCP です。</p> <p>systemsoftware : BMC LAN インタフェースの IP アドレスのソースがシステムソフトウェアからのものである場合、システムソフトウェアです。</p> <p> メモ: すべてのコマンドがシステムでサポートされているとは限りません。</p>
	ipaddressv6=<IPv6 アドレス> prefixlength= length	IPv6 アドレスの設定を検証します。
	gatewayv6=<値>	IPv6 ゲートウェイを検証します。
	ipsourcev6=static auto	<p>static : IPv6 アドレスソースが 静的 に設定されます。</p> <p>auto : IPv6 アドレスソースが 自動的 に設定されます。</p>
	altdnsserverv6	代替 DNS サーバーアドレスの設定を検証します。
	dnssourcev6=static auto	<p>static : DNS ソースが 静的 に設定されます。</p> <p>auto : DNS ソースが 自動的 に設定されます。</p>
	vlanenable=true false	<p>true : 仮想 LAN 識別を有効にします。</p> <p>false : 仮想 LAN 識別を無効にします。</p>
	vlanid=number	number : 1~4094 範囲の仮想 LAN 識別。
	vlanpriority=number	number : 0~7 範囲の仮想 LAN 識別の優先度。
	privilegelevel=administrator operator user	<p>administrator : LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをシステム管理者に設定します。</p> <p>operator : LAN チャネルで受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。</p>

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
		user : LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。
	encryptkey=text confirmencryptkey=text	text : 暗号化と暗号化の確認に使用されるテキスト。  メモ: text オプションは PowerEdge 9G システムでのみサポートされます。
	prefdnsservv6=<値>	優先 DNS サーバーの設定を検証します。
config=serial	baudrate=9600 19200 38400 57600 115200	9600 : 接続速度を 9600 bps に設定します。 19200 : 接続速度を 19200 bps に設定します。  メモ: 9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。 38400 : 揮発性および不揮発性接続速度を 38400 bps に設定します。 57600 : 揮発性および不揮発性接続速度を 57600 bps に設定します。  メモ: 19200、38400 および 57600 のボーレートは、PowerEdge 9G システムでサポートされています。 115200 : 揮発性および不揮発性接続速度を 115200 bps に設定します。  メモ: 115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。  メモ: 19200、57600 および 115200 のボーレートは、iDRAC がインストールされている 10G システムでサポートされます。
	flowcontrol=none rtscts	none : シリアルポートを介した通信フローの制御がありません。 rtscts : RTS は送信準備完了、CTS は受信準備完了です。
	mode=directbasic directterminal directbasicterminal modembasic modemterminal modembasicterminal	directbasic : シリアル接続で IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。 directterminal : シリアル接続で印刷可能な ASCII 文字を使い、限定された数のテキストコマンド許可するメッセージの種類。 directbasicterminal : シリアル接続上での基本モードとターミナルモードのメッセージ。

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
		<p>modembasic : モデムでの IPMI メッセージに使用するメッセージの種類。</p> <p>modemterminal : モデムで印刷可能な ASCII 文字を使い、限定された数のテキストコマンド許可するメッセージの種類。</p> <p>modembasicterminal : モデムでの基本メッセージとターミナルメッセージ。</p> <p> メモ: すべてのコマンドがシステムでサポートされているとは限りません。</p>
	privilegelevel=administrator operator user	<p>administrator : シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをシステム管理者に設定します。</p> <p>operator : シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。</p> <p>user : シリアル接続で受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。</p>
config=serialoverlan	enable=true false	<p>true : BMC で LAN でシリアルを有効にします。</p> <p>false : BMC で LAN でシリアルを無効にします。</p>
	baudrate=9600 19200 38400 57600 115200	<p>9600 : 揮発性および不揮発性接続速度を 9600 bps に設定します。</p> <p>19200 : 揮発性および不揮発性接続速度を 19200 bps に設定します。</p> <p> メモ: 9600 および 19200 のボーレートは、PowerEdge 1800、1850、2800、および 2850 のシステムでサポートされています。</p> <p>38400 : 揮発性および不揮発性接続速度を 38400 bps に設定します。</p> <p>57600 : 揮発性および不揮発性接続速度を 57600 bps に設定します。</p> <p> メモ: 19200 および 57600 のボーレートは、PowerEdge 9G システムでサポートされています。</p> <p>115200 : 揮発性および不揮発性接続速度を 115200 bps に設定します。</p> <p> メモ: 115200 のボーレートは、DRAC 5 がインストールされている特定のシステムでサポートされています。</p> <p> メモ: 19200、57600 および 115200 のボーレートは、iDRAC がインストールされている 10G システムでサポートされます。</p>

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
	privilegelevel=administrator operator user	<p>administrator : シリアルオーバー LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをシステム管理者に設定します。</p> <p>operator : シリアルオーバー LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをオペレータに設定します。</p> <p>user : シリアルオーバー LAN チャンネルで受け入れられる最大特権レベルをユーザーに設定します。</p>
config=settodefualt		デフォルトの設定を使用します。
config=terminalmode	deletecontrol=outputdel outputbkspspbks	<p>outputdel : BMC は、<bksp> または を受け取ると、 文字を出力します。</p> <p>outputbkspspbks : BMC は、<bksp> または を受け取ると、<bksp><sp><bksp> 文字を出力します。</p>
	handshakingcontrol=enabled disabled	<p>enabled : 入力バッファが別のコマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示します。</p> <p>disabled : 入力バッファが別のコマンドを受け入れる準備ができたときに、文字シーケンスを出力するよう BMC に指示しません。</p>
	inputlinesequene=cr null	<p>cr : コンソールは新しいラインシーケンスに <CR> を使用します。</p> <p>null : コンソールは新しいラインシーケンスに <NULL> を使用します。</p>
	lineediting=enabled disabled	<p>enabled : ラインを入力するに従って、ライン編集を有効にします。</p> <p>disabled : ラインを入力するに従って、ライン編集を無効にします。</p>
	newlinesequene=none crlf null cr lfcr lf	<p>none : BMC は終了シーケンスを使用しません。</p> <p>crlf : BMC は、新しいラインをコンソールに書き込むときに、<CR-LF> を新しいラインシーケンスとして使用します。</p> <p>null : BMC は、新しいラインをコンソールに書き込むときに、<Null> を新しいラインシーケンスとして使用します。</p> <p>cr : BMC は、新しいラインをコンソールに書き込むときに、<CR> を新しいラインシーケンスとして使用します。</p>

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
		<p>lfcr : BMC は、新しいラインをコンソールに書き込むときに、 <LF-CR> を新しいラインシーケンスとして使用します。</p> <p>lf : BMC は、新しいラインをコンソールに書き込むときに、 <LF> を新しいラインシーケンスとして使用します。</p>
config=user	id=number enable=true false	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式)</p> <p>enable=true : ユーザーを有効にします。</p> <p>enable=false : ユーザーを無効にします。</p>
	id=number enableserialoverlan=true false	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式)</p> <p>enableserialoverlan=true : シリアルオーバー LAN を有効にします。</p> <p>enableserialoverlan=false : シリアルオーバー LAN を無効にします。</p> <p> メモ: enableserialoverlan オプションは PowerEdge 9G システムでのみサポートされます。</p>
	id=number name=text	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式)</p> <p>name=text : ユーザー名</p>
	id=number newpw=text confirmnewpw=text	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式)</p> <p>newpw=text : ユーザーの新しいパスワード</p> <p>confirmnewpw=text : 新しいパスワードの確認</p>
	id=number serialaccesslevel=administrator operator user none	<p>id=number : 設定されているユーザーの ID (数字書式)</p> <p>serialaccesslevel=administrator : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルにおけるシステム管理者のアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=operator : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルにおけるオペレータのアクセス特権があります。</p> <p>serialaccesslevel=user : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャネルにおけるユーザーのアクセス特権があります。</p>

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
		serialaccesslevel=none : ID を持つユーザーは、シリアルポートチャンネルにおけるアクセス特権がありません。
	id=number lanaccesslevel=admin operator user none	id=number : 設定されているユーザーの ID 番号。 lanaccesslevel=admin : ID を持つユーザーは、LAN チャンネルにおけるシステム管理者のアクセス特権があります。 lanaccesslevel=operator : ID を持つユーザーは、LAN チャンネルにおけるオペレータのアクセス特権があります。 lanaccesslevel=user : ID を持つユーザーは、LAN チャンネルにおけるユーザーのアクセス特権があります。 lanaccesslevel=none : ID を持つユーザーは、LAN チャンネルにおけるアクセス特権がありません。
	id=user id dracusergroup=admin poweruser guest custom none	id=user id : 設定されているユーザーの ID。 dracusergroup=admin : システム管理者ユーザー特権を有効にします。 dracusergroup=poweruser : パワーユーザー特権を有効にします。 dracusergroup=guest : ゲストユーザー特権を有効にします。 dracusergroup=custom : カスタムユーザー特権を有効にします。  メモ: dracusergroup=custom の詳細に関しては、「 dracusergroup=custom の使用法 」を参照してください。 dracusergroup=none : ユーザー特権を有効にしません。
	id=user id extipmiusergroup=admin operator readonly custom none	id=user id : 設定されているユーザーの ID。 extipmiusergroup=admin : システム管理者ユーザー特権を有効にします。  メモ: extipmiusergroup ユーザーグループは、Dell yx0x ブレードシステムでのみ使用できます。 extipmiusergroup=operator : オペレータ特権を有効にします。 extipmiusergroup=readonly : 読み取り専用特権を有効にします。

名前=値のペア 1 config=	名前=値のペア 2	説明
		<p>extipmiusergroup=custom : カスタムユーザー特権を有効にします。</p> <p> メモ: iDRAC Enterprise を持つシステムでは operator および readonly オプションを使用することをお勧めします。詳細に関しては、「extipmiusergroup=custom の使用法」を参照してください。</p> <p>extipmiusergroup=none : ユーザー特権を有効にしません。</p>

dracusergroup=custom の使用法

次の表に、dracusergroup=custom の使用法を示します。


表 31. omconfig chassis remoteaccess config=user id=<user id> dracusergroup=custom または omconfig mainsystem remoteaccess config=user id=<user id> dracusergroup=custom の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	名前=値のペア 3	説明
config=user	id=user id dracusergroup=custom	logindracs= true false	true または false: DRAC へのログインを有効または無効にします。
		configuredrac= true false	true または false: DRAC の設定を有効または無効にします。
		configure users= true false	true または false: ユーザーの設定を有効または無効にします。
		clearlogs= true false	true または false: ログのクリアランスを有効または無効にします。
		executeservercommands=true false	true または false: サーバーコマンドの実行を有効または無効にします。
		accessconsoleredir=true false	true または false: コンソールリダイレクトへのアクセスを有効または無効にします。
		accessvirtualmedia=true false	true または false: 仮想メディアへのアクセスを有効または無効にします。
		testalerts=true false	true または false: テストアラートを有効または無効にします。

extipmiusergroup=custom の使用法


次の表に、extipmiusergroup=custom の使用法を示します。

表 32. extipmiusergroup=custom の使用法

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	名前=値のペア 3	説明
config=user	id=user id extipmiusergroup=custom	loginidrac=true false	true または false : iDRAC へのログインを有効 / 無効にします。
	 メモ: extipmiusergroup ユーザーグループは、Dell 10G ブレードシステムでのみ使用できます。	configureidrac=true false	true または false : iDRAC の設定を有効 / 無効にします。

omconfig chassis temps または omconfig mainsystem temps

omconfig chassis temps または omconfig mainsystem temps コマンドを使用して、温度プローブの警告しきい値を設定します。他のコンポーネントと同様、警告と障害の両方のしきい値を表示できますが、障害しきい値の設定はできません。障害しきい値の最小値と最大値はシステムの製造者が設定します。

 **メモ:** 設定できるしきい値は、システム構成によって異なります。

温度警告しきい値の有効なパラメータ

次の表に、温度警告しきい値を設定するために有効なパラメータを一覧します。

表 33. Omconfig chassis temps または Omconfig mainsystem temps の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
index=<n>	プローブまたはプローブインデックスの数 (指定が必要)。
warnthresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトの状態に設定します。
minwarnthresh=<n>	最小警告しきい値を設定します (小数第 1 位まで)。
maxwarnthresh=<n>	最大警告しきい値を設定します (小数第 1 位まで)。

最小および最大警告しきい値の設定


上限と下限温度警告しきい値の両方を、推奨されているデフォルト値に設定するには、次のように入力します。

```
omconfig chassis temps index=0 warnthresh=default
```

または

```
omconfig mainsystem temps index=0 warnthresh=default
```

1 つの値をデフォルトにして別の値を設定することはできません。つまり、最小警告しきい値をデフォルト値に設定すると、最大警告しきい値のデフォルト値も選択したことになります。

 **メモ:** センサーを管理する機能はシステムによって異なります。

最小および最大警告しきい値の指定

温度プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と、警告しきい値の最大値または最小値（もしくはその両方）を指定する必要があります。次の例では、設定されるプローブはプローブ 4 です。


```
omconfig chassis temps index=4 minwarntresh=11.2 maxwarntresh=58.7
```

または

```
omconfig mainsystem temps index=4 minwarntresh=11.2 maxwarntresh=58.7
```

このコマンドを実行して、システムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

```
Temperature probe warning threshold(s) set successfully.
```

 **メモ:** PowerEdge 9G システムでは、環境温度に対してのみ温度プローブの警告しきい値を設定できません。

omconfig chassis volts または omconfig mainsystem volts

omconfig chassis volts または **omconfig mainsystem volts** コマンドを使用して、温度プローブの警告しきい値を設定します。他のコンポーネントと同様、警告と障害の両方のしきい値を表示できますが、障害しきい値の設定はできません。障害しきい値の最小値と最大値はシステムの製造者が設定します。

電圧警告しきい値の有効なパラメータ

次の表に、電圧警告しきい値を設定するための有効なパラメータを示します。


 **メモ:** 設定できるしきい値は、システム構成によって異なります。

表 34. **omconfig chassis volts** または **omconfig mainsystem volts** の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
index=<n>	プローブインデックス（指定してください）。
warntresh=default	最小および最大警告しきい値をデフォルトに設定します。
minwarntresh=<n>	最小警告しきい値を設定します（小数第 3 位まで）。
maxwarntresh=<n>	最大警告しきい値を設定します（小数第 3 位まで）。

最小および最大警告しきい値の指定

電圧プローブの警告しきい値を指定する場合、設定するプローブ番号と最小および / または最大警告しきい値を指定する必要があります。

次の例で設定されているのはプローブ 0 です。

```
omconfig chassis volts index=0 minwarntresh=1.900 maxwarntresh=2.250
```

または

```
omconfig mainsystem volts index=0 minwarntresh=1.900 maxwarntresh=2.250
```

このコマンドを実行して、システムが指定値を設定すると、次のメッセージが表示されます。

```
Voltage probe warning threshold(s) set successfully.
```

omconfig preferences

omconfig preferences コマンドを使用して、システムプリファレンスを設定します。Server Administrator にアクセスするユーザーレベルの指定、および Active Directory サービスの設定には、このコマンドラインを使用します。

omconfig cdv 形式のプリファレンス

omconfig preferences cdvformat は、カスタムの区切り形式でレポートされるデータフィールドの区切りとして使用するデリミタ（区切り記号）を指定するのに使用します。デリミタとして指定できる値は、感嘆符 (!)、セミコロン (;)、アット (@)、ハッシュ (#)、ドル (\$)、パーセント (%)、キャレット (^)、アスタリスク (*)、ティルデ (~)、疑問符 (?)、コロン (:)、コンマ (,)、パイプ (|) です。


次の例は、アスタリスクをデリミタとしてデータフィールドを区切る場合の指定方法です。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```

omconfig preferences dirservice

Active Directory サービスを設定するには、**omconfig preferences dirservice** コマンドを使用します。**<productname>oem.ini** ファイルは、この変更を反映するために変更されます。**<productname>oem.ini** ファイル内に "adproductname" がない場合は、**<computername>--<computername>** が Server Administrator を実行しているコンピューター名で、**<productname>** が **omprv32.ini** 内で定義されている製品名です。Server Administrator の場合、製品名は "omsa" です。

したがって、Server Administrator を実行している "myOmsa" という名前のコンピューターの場合、デフォルトの名前は "myOmsa-omsa" です。これは、スナップインツールを使用して Active Directory 内に定義された Server Administrator の名前です。この名前は、ユーザー特権を検出するために、Active Directory 内のアプリケーションオブジェクトの名前と一致している必要があります。

 **メモ:** このコマンドは、Windows オペレーティングシステムが稼動するシステムにのみ適用できます。

次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示しています。

表 35. omconfig preferences dirservice の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
prodname=<テキスト>	Active Directory 設定の変更を適用する製品を指定します。 prodname は、 omprv32.ini で定義された製品の名前を意味します。Server Administrator の場合は、"omsa" になります。
enable=<true false>	true: Active Directory サービスの認証サポートと Active Directory ログイン オプションをログインページで有効にします。 false : Active Directory サービスの認証サポートと Active Directory ログイン オプションをログインページで無効にします。Active Directory ログイン オプションがない場合は、ローカルマシンアカウントにのみログインできます。
adprodname=<テキスト>	Active Directory サービスで定義された製品の名前を指定します。この名前は、製品と、ユーザー認証用の Active Directory 特権データとを関連付けます。

Omconfig Preferences Messages

omconfig preferences messages コマンドを使用すると、アラートメッセージの形式を選択できます。デフォルトの形式は `traditional`、すなわちレガシー形式です。

以下の表に、このコマンドで使用可能なパラメータをリストします。

表 36. Omreport Preferences Messages の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
<code>attribute=format</code>	<code>setting=traditional enhanced</code>	traditional: アラートメッセージを <code>traditional</code> 形式に設定します。 enhanced: アラートメッセージを Enhanced Event Messaging 形式に設定します。これは、iDRAC7 で利用できる形式と同じものです。

例えば、メッセージの形式を `traditional` に設定するには次のコマンドを使用します。

```
omconfig preferences messages format=traditional
```

Omconfig Preferences Useraccess

組織のポリシーに従って、Server Administrator へのアクセスをユーザーレベルに応じて制限したい場合があります。**omconfig preferences useraccess** コマンドを使用すると、Server Administrator に対するユーザーおよびパワーユーザーのアクセス権について、権限の付与および剥奪を行うことができます。

次の表に、このコマンドに有効なパラメータを示します。

表 37. 管理者、パワーユーザーおよびユーザー用のユーザーアクセスを有効にする

コマンド	結果	説明
<code>omconfig preferences useraccess enable=user</code>	Server Administrator へのアクセスをユーザー、パワーユーザーおよび管理者に与えます。	最も制限のないユーザーアクセスです。
<code>omconfig preferences useraccess enable=poweruser</code>	Server Administrator アクセスをパワーユーザーと管理者に与えます。	ユーザーレベルのアクセスのみを除外します。
<code>omconfig preferences useraccess enable=admin</code>	Server Administrator アクセスを管理者 のみに与えます。	最も制限が厳しいユーザーアクセスです。

Omconfig Preferences Webserver

omconfig preferences webserver コマンドを使用して、Server Administrator Web サーバーの暗号化レベルの設定、Server Administrator Web サーバー環境における URL 起動ポイントの設定、および Server Administrator 用の JRE バージョンの設定を行います。

以下の表に、このコマンドで使用可能な名前=値のリストを示します。

表 38. Omreport Preferences Webserver の有効なパラメータ

名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
attribute=sslencryption	setting=autonegotiate 128bitorhigher	<p>autonegotiate : Web ブラウザの設定に基づいて、自動的に暗号化レベルを設定します。</p> <p>128bitorhigher : 暗号化レベルを 128 ビットまたはそれ以上に設定します。</p>
attribute=seturl	host=<string> port=<value>	Server Administrator Web サーバー環境における URL 起動ポイントの設定を可能にします。
attribute=signalgorithm	algorithm=MD5 SHA1 SHA256 SHA512	<p>MD5 : キー署名アルゴリズムを MD5 に設定します。</p> <p>SHA1 : キー署名アルゴリズムを SHA1 に設定します。</p> <p>SHA256 : キー署名アルゴリズムを SHA256 に設定します。</p> <p>SHA512 : キー署名アルゴリズムを SHA512 に設定します。</p>
attribute=setjre	jreversion=bundled value	<p>bundled : OMSA バンドルバージョンをデフォルトに設定します。</p> <p>value : ユーザーが入力を行い、システムで使用可能なバージョンを設定します。</p>

たとえば、URL 起動ポイントを設定するには、次のコマンドを使用します。

```
omconfig preferences webserver attribute=seturl host=<name>, ip, fqdn  
port=<number>
```

ホストの入力値は、有効な IPv4 または IPv6 アドレス、あるいは有効なホスト名を含むものでなければなりません。

署名アルゴリズムの値を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
omconfig preferences webserver attribute=signalgorithm algorithm=MD5
```

JRE バージョンを設定するには、次のコマンドを使用します。


```
omconfig preferences webserver attribute=setjre jreversion=<bundled | value>
```

omconfig system または omconfig servermodule

omconfig system または **omconfig servermodule** コマンドを使って、ログのクリア、さまざまなシャットダウンアクションの実施方法の指定、オーナーシップ情報の初期値設定または編集、ハング状態にあるオペレーティングシステムの対応方法の指定を行うことができます。

omconfig system alertaction または omconfig servermodule alertaction

コンポーネントに警告または障害イベントが発生した場合の対応方法を決定するには、**omconfig system alertaction** または **omconfig servermodule alertaction** コマンドを使用します。

 **メモ:** ある種のオペレーティングシステム（例：VMware ESXi）での制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

アラートアクションの定義

アラートアクションは、所定の条件が満たされた場合にシステムが取るように指定されたアクションです。アラートアクションは、イントルージョン、ファン、温度、電圧、電力消費、メモリ、および冗長性などに関する警告または障害イベントに対して、取るべきアクションをあらかじめ決めておくものです。

例えば、システムのプロンプトがあるファンについて 300 RPM の回転速度を読み取り、かつそのファンプロンプトの最小警告しきい値が 600 RPM である場合、システムはファンプロンプト警告を生成します。このイベントからユーザーがどのような通知を受けるかは、アラートアクションの設定によって決まります。アラートアクションは、温度、電圧、プロンプトの読み取りが、警告または障害値の範囲内に入った場合についても設定できます。

アラートアクションを設定する構文

アラートアクションを設定するには、2組の「名前=値」のペアが必要です。第1の「名前=値」のペアはイベントの種類を指定します。第2の「名前=値」のペアは、そのイベントに対して実行されるアクションを指定します。例えば、以下のようなコマンドになります。

```
omconfig system alertaction event=powersupply broadcast=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=powersupply broadcast=true
```


この場合、イベントは電源装置の障害であり、アクションは全ての Server Administrator ユーザーへのメッセージ送信です。

使用できる警告処置

次の表は、各コンポーネントの設定可能な警告処置を示します。

表 39. 警告および障害イベントの警告処置の有効なパラメータ

警告処置の設定	説明
alert=true false	true : システムのコンソール警告を有効化します。有効化すると、Server Administrator を実行しているシステムに接続されているモニターにビジュアル警告メッセージが表示されます。 false : システムのコンソール警告を無効にします。
broadcast=true false	true : アクティブなターミナル（またはリモートデスクトップ）セッション（Windows）があるすべてのユーザー、またはローカルシステム（Linux）のアクティブなシェルがあるオペレータにブロードキャストされるメッセージまたは警告を有効にします。

警告処置の設定	説明
	false : 警告ブロードキャストを無効にします。
clearall=true	このイベントの処置をすべてクリアします。
execappath=<文字列>	このウィンドウで説明されるコンポーネントのイベントが発生した場合に実行するアプリケーションの完全修飾パスとファイル名を設定します。
	 メモ: Linux システムにおいて、管理者 / システム管理者グループにアップグレードされたユーザー / ユーザーグループには、この警告処置設定を行うことはできません。
execapp=false	実行可能なアプリケーションを無効にします。

アラートアクションを設定できるコンポーネントとイベント

下記の表に、アラートアクションを設定することが可能なコンポーネントとイベントを一覧します。コンポーネントの並び順はアルファベット順です。ただし同一コンポーネントにおける警告イベントは必ずその障害イベントよりも前に来ます。

表 40. アラートアクションを設定できるイベントの有効なパラメータ

イベント名	説明
event=batterywarn	バッテリープローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=batteryfail	バッテリープローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=fanwarn	ファンプローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=fanfail	ファンプローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=hardwarelogwarn	ハードウェアログが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=hardwarelogfull	ハードウェアログが満杯となったときのアクションを設定します。
event=intrusion	シャーシイントルージョンイベントを検出した場合のアクションを設定します。
event=memprefail	メモリプローブが障害直前値を検出した場合のアクションを設定します。
event=memfail	メモリプローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=systempeakpower	電源消費プローブがピーク電力値を検出した場合のアクションを設定します。
event=systempowerwarn	電源消費プローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=systempowerfail	電源消費プローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=powersupply	電源装置プローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=powersupplywarn	電源装置プローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=processorwarn	プロセッサプローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=processorfail	プロセッサプローブが障害直前値を検出した場合のアクションを設定します。
event=redundegrad	冗長コンポーネントが操作不能となった結果、コンポーネントの完全冗長性が失われた場合のアクションを設定します。

イベント名	説明
event=redunlost	1つまたは複数の冗長コンポーネントが操作不能となった結果、冗長コンポーネントが失われたか、「動作している冗長コンポーネントがない」状態になった場合のアクションを設定します。
event=tempwarn	温度プローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=tempfail	温度プローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=voltwarn	電圧プローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=voltfail	電圧プローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=watchdogasr	ハングしたオペレーティングシステムに対してウォッチドッグ自動システム回復 (ASR) が実行された後のシステムスタートアップにおいて Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=removableflashmediapresent	システムがリムーバブルフラッシュメディアを検出した際に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=removableflashmediaremoved	リムーバブルフラッシュメディアが取り外された際に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=removableflashmediadiafail	リムーバブルフラッシュメディアに障害が発生した際に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=storagesyswarn	ストレージシステムが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=storagesysfail	ストレージシステムが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=storagectrlwarn	ストレージコントローラが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=storagectrlfail	ストレージコントローラが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=pdiskwarn	物理ディスクが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=pdiskfail	物理ディスクが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=vdiskwarn	仮想ディスクが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=vdiskfail	仮想ディスクが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=enclosurewarn	エンクロージャが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=enclosurefail	エンクロージャが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=storagectrlbatterywarn	ストレージコントローラバッテリーが警告値を検出した場合のアクションを設定します。  メモ: このイベントは、ブレードシステムでは使用できません。
event=storagectrlbatteryfail	ストレージコントローラバッテリーが障害値を検出した場合のアクションを設定します。  メモ: このイベントは、ブレードシステムでは使用できません。

アラートアクション設定コマンドの例

以下に有効なコマンド例を示します。コマンドが正常に発行されるごとに、次のメッセージが表示されます。アラートアクションは正常に設定されました。

電流プローブアクションの例

電流プローブが警告イベントを検出した場合に発するシステムのコンソールアラートを無効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentwarn alert=false
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=currentwarn alert=false
```

電流プローブが障害イベントを検出した場合のブロードキャストメッセージを有効にするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=currentfail broadcast=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=currentfail broadcast=true
```

ファンプローブアクションの例

ファンプローブが障害値を検出した場合にアラートを発生させるには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=fanfail alert=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=fanfail alert=true
```

シャーシイントルージョンアクションの例

シャーシイントルージョンのすべてのアラートアクションをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertaction event=intrusion clearall=true
```

または

```
omconfig servermodule alertaction event=intrusion clearall=true
```

ログをクリアするコマンド


アラートログ、コマンドログ、およびハードウェアまたは ESM ログの 3 つのログをクリアするには、**omconfig system** または **omconfig servermodule** コマンドを使用します。

アラートログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system alertlog action=clear
```

または

```
omconfig servermodule alertlog action=clear
```

 **メモ:** 無効な RAC ユーザー名を入力するとコマンドログが表示されなくなる場合があります。コマンドログのクリアを行うと、この状態が解消されます。

コマンドログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system cmdlog action=clear
```

または


```
omconfig servermodule cmdlog action=clear
```

ESM ログをクリアするには、次のように入力します。

```
omconfig system esmlog action=clear
```

または


```
omconfig servermodule esmlog action=clear
```

 **メモ:** アラートメッセージに関する詳細情報は、デルサポートサイト support.dell.com/manuals にある『Dell OpenManage Server Administrator メッセージリファレンスガイド』を参照してください。

omconfig system pedestinations または omconfig servermodule pedestinations

アラートの宛先の IP アドレスを設定するには、**omconfig system pedestinations** または **omconfig servermodule pedestinations** コマンドを使用します。

次の表に、このコマンドに有効なパラメータを示します。

 **メモ:** インデックスと IP アドレスをパラメータとして一緒に指定するか、コミュニティ文字列だけをパラメータに設定することができます。




 **メモ:** インデックス 1 から 4 には IPv4 アドレスを使用し、インデックス 5 から 8 には IPv6 アドレスを使用します。iDRAC7 固有のバージョンの 12G システムでは、インデックスに IPv4、IPv6、FQDN を指定できます。

表 41. omconfig system pedestinations または omconfig servermodule pedestinations の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
destenable=true false	true : 有効な IP アドレスが設定された後で、個別のプラットフォームイベントフィルタの宛先を有効にします。 false : 個別のプラットフォームイベントフィルタを無効にします。
index=number	宛先のインデックスを設定します。
ipaddress=<ipv4 address ipv6 address fqdn>	宛先の IP アドレスを設定します。  メモ: iDRAC7 固有のバージョンの 12G システムでは、 ipaddress に完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用することもできます。
communitystr=text	テキストを設定します。このテキストはパスワードとして機能し、BMC と送信先管理ステーションの間で送信される SNMP メッセージを認証するのに使用されます。

omconfig system platformevents または omconfig servermodule platformevents

omconfig system platformevents または omconfig servermodule platformevents は、プラットフォーム固有のイベントに対してシャットダウンを行う必要がある場合、そのシャットダウンアクションを設定します。また、プラットフォームイベントフィルタアラート生成を有効または無効にすることができます。

 **注意:** プラットフォームイベントのシャットダウンアクションを *none* または *power reduction* 以外のものに対して設定すると、その指定されたイベントの発生したときにシステムが強制的にシャットダウンされます。このシャットダウンはファームウェアによって開始され、オペレーティングシステムや実行中のアプリケーションを事前にシャットダウンすることなしに実行されます。

次の表に、このコマンドに有効なパラメータを示します。



 **メモ:** アラート設定同士は互いに排他的であるため、同時に設定できる設定は1つだけです。ただし、アラート設定とアクション設定は互いに排他的ではありません。

表 42. アラートアクションコマンドのパラメータ

処置	説明
action=disable	SNMP アラートを無効にします。
action=enable	SNMP アラートを有効にします。
action=none	システムがハング、またはクラッシュしたときにいかなるアクションも行いません。
action=powercycle	システムの電源をオフにしてから、一時停止し、再度電源をオンにして、システムを再起動します。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powerreduction	プロセッサスピードを減速させ、電力消費の警告しきい値以下になるまで落とします。システムの電力消費が警告しきい値以下である状態が続いたら、プロセッサスピードを増加します。  メモ: このアクションは PowerEdge 11G システムより以前の PowerEdge ラック型およびタワー型システムでのみ適用可能です。
action=reboot	オペレーティングシステムを強制終了し、システム起動を開始して、BIOS チェックを実行してからオペレーティングシステムをロードし直します。

プラットフォームイベントのコンポーネントとイベント

下記の表に、プラットフォームイベントを設定することが可能なコンポーネントとイベントを一覧します。コンポーネントの並び順はアルファベット順です。ただしあるコンポーネントに対する警告イベントは必ずその障害イベントよりも前に来ます。

表 43. omconfig system platformevents の有効なパラメータ


イベント名	説明
alertsenable=true false	true : プラットフォームイベントフィルタアラートの生成を有効にします。 false : プラットフォームイベントフィルタアラートの生成を無効にします。

イベント名	説明
event=batterywarn	<p> メモ: この設定は、個別のプラットフォームイベントフィルタアラートの設定とは別のものです。特定のプラットフォームイベントフィルタがアラートを生成するためには、その個別のアラートと、グローバルなイベントアラートの両方を有効にする必要があります。</p> <p>バッテリーが障害状態を保留していることをバッテリーデバイスが検出した時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=batteryfail	<p>バッテリーで障害が発生していることをバッテリーデバイスで検出した時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=discretevolt	<p>離散電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=fanfail	<p>ファンプローブでファンの動作が遅すぎる、または動いていないことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=hardwarelogfail	<p>ハードウェアログで障害値が検出された時のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=intrusion	<p>シャーシが開かれた時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=powerwarn	<p>電源デバイスプローブで、電源、電圧レギュレータモジュール、またはDC/DCコンバータが障害状態を保留している時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=powerabsent	<p>プロセッサプローブで電源装置がないことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=powerfail	<p>電源デバイスプローブで、電源、電圧レギュレータモジュール、またはDC/DCコンバータで障害が発生していることが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=processorwarn	<p>プロセッサプローブによってプロセッサがピークパフォーマンスまたは速度を下回っていることが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=processorfail	<p>プロセッサプローブでプロセッサが故障したことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>
event=processorabsent	<p>プロセッサプローブでプロセッサが存在しないことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。</p>

イベント名	説明
event=redundegrad	システムのファンや電源装置が操作不能となり、その結果、そのコンポーネントの冗長性が不完全になった時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。
event=redunlost	システムのファンや電源装置が操作不能になり、その結果、そのコンポーネントの冗長性が失われたか、そのコンポーネントで動作している冗長コンポーネントがない状態になった時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。
event=systempowerwarn	電源消費プローブが警告値を検出した場合のアクションを設定します。
event=systempowerfail	電源消費プローブが障害値を検出した場合のアクションを設定します。
event=tempwarn	温度プローブで温度が最高または最低限度に接近していることが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。
event=removableflashmediapresent	システムがリムーバブルフラッシュメディアを検出した際に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=removableflashmediawarn	リムーバブルフラッシュメディア警告が表示された時に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=removableflashmediaifail	リムーバブルフラッシュメディアに障害が発生した際に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=tempfail	温度プローブで、温度が高すぎ、または低すぎて適切な操作ができないことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。
event=voltfail	電圧プローブで電圧が低すぎて適切な操作が行えないことが検出された時のアクションを設定します。またはその場合のアラート生成を有効または無効にします。
event=intdualsdcardcritical	内蔵デュアル SD カードで重要なイベントが発生した時に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=intdualsdcardwarn	内蔵デュアル SD カードで警告が表示された時に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=intdualsdcardabsent	内蔵デュアル SD カードが利用不可である時に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=intdualsdcardredunlost	内蔵デュアル SD カードの冗長性が失われた時に、Server Administrator が実行するアクションを設定します。
event=watchdogasr	システムがハングしたか、または応答していない場合に、ASR によって設定されるアラート生成を有効または無効にします。

omconfig system events または omconfig servermodule events

システム上のコンポーネントに対する SNMP トラップを有効および無効にするには、**omconfig system events** または **omconfig servermodule events** コマンドを使用します。

 **メモ:** イベントタイプには、お使いのシステムに存在しないものもあります。

omconfig system events コマンドの名前=値ペアには 4 つのパラメータがあります。

- ソース
- タイプ
- 重大度
- インデックス

ソース

現時点では、システムコンポーネントに対してサポートされるイベント通知のソースは現在 SNMP のみであるため、**source=snmptraps** は必須の名前=値ペアです。

```
omconfig system events source=snmptraps
```

または

```
omconfig servermodule events source=snmptraps
```

タイプ

タイプとは、そのイベントに関与するコンポーネントの名前です。以下の表に、システムイベントタイプとその有効なパラメータを示します。

表 44. システムイベントタイプパラメータ

名前 = 値のペア	説明
type=accords	AC 電源コードのイベントを設定します。
type=battery	バッテリーのイベントを設定します。
type=all	すべてのデバイスタイプでのイベントを設定します。
type=fanenclosures	ファンエンクロージャのイベントを設定します。
type=fans	ファンのイベントを設定します。
type=intrusion	シャーシイントルージョンのイベントを設定します。
type=log	ログのイベントを設定します。
type=memory	メモリのイベントを設定します。
type=powersupplies	電源装置のイベントを設定します。
type=redundancy	冗長性のイベントを設定します。
type=systempower	システム電源のイベントを設定します。
type=temps	温度のイベントを設定します。
type=volts	電圧のイベントを設定します。
type=systempeakpower	システムピーク電力のイベントを設定します。
type=removableflashmedia	リムーバブルフラッシュメディアのイベントを設定します。

重大度

イベントの設定において、重大度は、そのイベントがそのコンポーネントタイプにとってどれくらい重大であるかを決定します。それに基づいて Server Administrator がそのイベントの発生をユーザーに通知しま

す。同じシステムシャーシ内に同種のコンポーネントが複数存在する場合は、`index=<n>` パラメータを使って、コンポーネントの番号によりイベント重大度の通知の有無を指定できます。

表 45. システムイベント重大度パラメータ

コマンド	結果	説明
<pre>omconfig system events type=<component name> severity=info or omconfig servermodule events type=<component name> severity=info</pre>	<p>情報イベント、警告イベントおよび重要イベントの通知を有効にします。</p>	<p>最も制限の少ないイベント通知です。</p>
<pre>omconfig system events type=<component name> severity=warning or omconfig servermodule events type=<component name> severity=warning</pre>	<p>警告イベントと重要イベントの通知を有効にします。</p>	<p>情報イベント通知、例えばコンポーネントが通常の状態に戻ったときの通知などは省略します。</p>
<pre>omconfig system events type=<component name> severity=critical or omconfig servermodule events type=<component name> severity=critical</pre>	<p>重要イベントのみの通知を有効にします。</p>	<p>制限的な形のイベント通知です。</p>
<pre>omconfig system events type=<component name> severity=none or omconfig servermodule events type=<component name> severity=none</pre>	<p>イベント通知を無効にします。</p>	<p>イベント通知は一切行われなくなります。</p>

インデックス

インデックスとは、特定のコンポーネントに関するイベントの番号です。インデックスパラメータを省略すると、指定された種類のすべてのコンポーネント（すべてのファンなど）に対してイベントが設定されます。例えば、システムに複数のファンが存在する場合、特定のファンに関するイベント通知を有効または無効にすることができます。コマンド例は次のようになります。

```
omconfig system events type=fan index=0 severity=critical
```

または

```
omconfig servermodule events type=fan index=0 severity=critical
```

このコマンド例の結果、Server Administrator はシステムシャーシの最初のファン（インデックス 0）が重大なファン RPM に達した場合にのみ SNMP トラップを送信します。

omconfig system webserver または omconfig servermodule webserver

omconfig system webserver または **omconfig servermodule webserver** コマンドは、Web サーバーの開始と停止を行うのに使用します。次の表に、このコマンドで有効なパラメータを示します。

表 46. Web サーバー設定で有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
action=start	Web サーバー を起動します。
action=stop	Web サーバーを停止します。
action=restart	Web サーバーを再起動します。

omconfig system recovery または omconfig servermodule recovery

omconfig system recovery または **omconfig servermodule recovery** コマンドは、オペレーティングシステムがハングまたはクラッシュしたときのアクションを設定します。また、オペレーティングシステムがハングしたとシステムが判定するための待機時間の秒数を指定することができます。次の表に、このコマンドの有効なパラメータをリストします。


 **メモ:** タイマーの上限と下限はシステムのモデルと構成によって異なります。

表 47. omconfig system recovery または omconfig servermodule recovery の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
action=none	オペレーティングシステムがハングしている場合やクラッシュした場合、処置を講じません。
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウンし、システムのスタートアップを開始して、BIOS チェックを行い、オペレーティングシステムをリロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	電源のシステムをオフにし、一時停止した後、電源をオンにして、システムを再起動します。パワーサイクルは、ハードドライブなどのシステムコンポーネントを再初期化する場合に便利です。
timer=<n>	システムがハングの状態にあると判定するために待機する秒数 (20 秒 ~ 480 秒)

回復コマンドの例

オペレーティングシステムのハング状態の検出時にパワーサイクルに移行させるためのアクションを設定するには、次のように入力します

```
omconfig system recovery action=powercycle
```

または

```
omconfig servermodule recovery action=powercycle
```

回復アクションを開始する前に、120 秒間ハングするようシステムを設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system recovery timer=120
```

または

```
omconfig servermodule recovery timer=120
```

omconfig system shutdown または omconfig servermodule shutdown

システムがシャットダウンする方法を決定するには、**omconfig system shutdown** または **omconfig servermodule shutdown** コマンドを使用します。システムシャットダウンでは、デフォルトで、システムの電源を切る前にオペレーティングシステムをシャットダウンします。オペレーティングシステムを先にシャット

ットダウンすると、システムの電源が切れる前にファイルシステムが終了します。オペレーティングシステムを先にシャットダウンしない場合は、**osfirst=false** パラメータを使用します。次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示します。


 **メモ:** 特定のオペレーティングシステム (例: VMware ESXi) の制限により、本リリースの OpenManage Server Administrator で一部の機能を利用できない場合があります。

表 48. system shutdown の有効なパラメータ

名前 = 値のペア	説明
action=reboot	オペレーティングシステムをシャットダウンし、システムのスタートアップを開始して、BIOS チェックを行い、オペレーティングシステムをリロードします。
action=poweroff	システムの電源をオフにします。
action=powercycle	電源のシステムをオフにしたり、一時停止したり、電源をオンにするほか、システムを再起動します。パワーサイクルは、ハードドライブなどのシステムコンポーネントを再初期化する場合に便利です。
osfirst=true false	<p>true : システムをシャットダウンする前にファイルシステムを終了して、オペレーティングシステムを終了します。</p> <p>false : システムをシャットダウンする前に、オペレーティングシステムをシャットダウンしたりファイルシステムを閉じたりしません。</p>

シャットダウンコマンドの例

シャットダウンアクションの後再起動するように設定するには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot
```

または

```
omconfig servermodule shutdown action=reboot
```

オペレーティングシステムのシャットダウンを行わずにシステムの電源をオフにするには、次のように入力します。

```
omconfig system shutdown action=reboot osfirst=false
```

または

```
omconfig servermodule shutdown action=reboot osfirst=false
```

omconfig system thrmshutdown または omconfig servermodule thrmshutdown

omconfig system thrmshutdown または **omconfig servermodule thrmshutdown** コマンドは、サーマルシャットダウンアクションを設定するのに使用します。温度プローブが温度プローブ警告または障害しきい値を検出したときに、システムがサーマルシャットダウンを行うように設定できます。

次の表に、このコマンドに有効なパラメータを示します。

表 49. サーマルシャットダウンの有効なコマンド

名前 = 値のペア	説明
severity=disabled warning failure	disabled: サーマルシャットダウンを無効にします。管理者の介入が必要となります。

名前 = 値のペア	説明
	<p>warning: 温度警告イベントが検出された時にシャットダウンを実行します。警告イベントは、シャーシ内部の温度プローブの読み取り温度（摂氏）が、最大温度警告しきい値を超えた時に発生します。</p>
	<p>failure: 温度障害イベントが検出された時にシャットダウンを実行します。障害イベントは、シャーシ内部の温度プローブの読み取り温度（摂氏）が、最大温度障害しきい値を超えた時に発生します。</p>

サーマルシャットダウンコマンドの例

温度プローブがエラーイベントを検出した場合にサーマルシャットダウンをトリガするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=failure
```

または

```
omconfig servermodule thrmshutdown severity=failure
```

サーマルシャットダウンを無効にして、システム管理者が **omconfig system shutdown** を手動で開始するようするには、次のように入力します。

```
omconfig system thrmshutdown severity=disabled
```


または

```
omconfig servermodule thrmshutdown severity=disabled
```

omconfig システムまたは servermodule assetinfo : 所有コスト値の編集

omconfig system assetinfo または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドは、システムの総所有コストを構成するパラメータを一括して設定するのに役立ちます。本項では **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドで報告または設定されるパラメータについて説明します。

omconfig system assetinfo または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを使用すると、オブジェクトを構成するための統制値を設定できます。assetinfo の設定機能の例として、システム所有者、購入価格、現在有効なリースの詳細、減価償却の方式とレート、システムの場所、保証および拡張された保証期間、アウトソーシングの詳細、サービスレベル合意などがあります。

 **メモ:** パワーユーザーと管理者は、資産情報の追加および編集を行うことができます。

以下の表に **omconfig** コマンドが適用されるシステムをリストします。

表 50. omconfig コマンドのシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	対象
omconfig	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	システム	ラック型システムとタワー型システム
	シャーシ	ラック型システムとタワー型システム

取得情報の追加

取得とは、ビジネス組織によるシステムの購入またはリースについての状況のことです。システムの購入またはリースについての詳細情報を追加するには、**omconfig system assetinfo info=acquisition** または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition** コマンドを使用します。次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示します。

表 51. omconfig system assetinfo info=acquisition または omconfig servermodule assetinfo info=acquisition の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=acquisition	costcenter=<テキスト>	システムを取得したビジネス組

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	名前=値のペア1	名前=値のペア2	説明
					織の名前またはコード。
				expensed=yes no	システム代金が特定目的、または研究開発部門や販売部門などの部署に請求されるかどうか。
				installdate=<mmdyy>	システムの稼働開始日。
				ponum=<数字>	システム代金支払いを承認した文書の数。
				purchasecost=<数字>	所有者が支払ったシステム代金。
				purchasedate=<mmdyy>	所有者がシステムを購入した日。
				signauth=<テキスト>	システムの購入またはサービスコールを承認した人物の名前。
				waybill=<数字>	受け取った商品の貨物受領書。

保証情報を追加するためのコマンド例

取得パラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=acquisition <<name=value pair 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=acquisition <<name=value pair 2>**。例えば次のようにタイプします。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasedate=122101
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition purchasedate=122101
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア2のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア1に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例えば、**info=acquisition** について複数のパラメータ値を入力する場合は、次の例を構文の参考にしてください。

```
omconfig system assetinfo info=acquisition purchasecost=5000 waybill=123456
installdate=120501 purchasedate=050601 ponum=9999 signauth="John Smith"
expensed=yes costcenter=finance
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=acquisition purchasecost=5000
waybill=123456 installdate=120501 purchasedate=050601 ponum=9999 signauth="John
Smith" expensed=yes costcenter=finance
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

減価償却情報の追加

減価償却とは、時間の経過における資産の価値の低下を計算する一連の方法のことです。例えば、5年間有効に使用されると想定されるシステムの減価は 20 パーセントです。システムの減価の計算方法の詳細を追加するには、**omconfig system assetinfo info=depreciation** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** コマンドを使用します。次の表は、コマンドの有効なパラメータを示します。

表 52. **omconfig system assetinfo info=depreciation** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation** の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=depreciation	duration=<数字>	システムの価値が低下する年数または月数。
				method=<テキスト>	システムの減価償却計算に使用する仮定と手順。
				percent=<数字>	資産の価値切り下げまたは減価償却率（百分率）。
				unit=months years	単位は月または年です。

減価償却情報を追加するためのコマンド例

減価償却パラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=depreciation <name=value pair 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=depreciation <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=depreciation method=straightline
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=depreciation method=straightline
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

延長保証情報の追加

延長保証情報の値を割り当てるには、**omconfig system extwarranty** または **omconfig servermodule extwarranty** コマンドを使用します。保証とは、システムの製造元 / 販売代理店と購入者の間の契約のことです。この保証は、指定された期間または使用において修理または交換の対象となるコンポーネントを明示します。延長保証は、元の保証の期限が切れた後に有効になります。保証の値を編集する方法については、「[保証情報の追加](#)」を参照してください。

次の表は、このコマンドに有効なパラメータを示しています。

表 53. **omconfig system assetinfo info=extwarranty** または **omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty** の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=extwarranty	cost=<コスト>	延長保証サービスにかかるコスト。
				enddate=<終了日>	延長保証契約の終了日。
				provider=<プロバイダ>	延長保証サービスを提供するビジネス組織。
				startdate=<開始日>	延長保証サービスの開始日。

延長保証情報を追加するためのコマンド例

延長保証パラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=extwarranty <name=value pair 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=extwarranty enddate=012503
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

リース情報の追加

リースは、決められた期間のシステムの使用に対して料金を支払う契約です。リース貸主は、システムの所有権を保持します。以下の表にこのコマンドの有効なパラメータを示します。

表 54. `omconfig system assetinfo info=lease` または `omconfig servermodule assetinfo info=lease` の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=lease	buyout=<amount>	賃貸人からシステムを購入する場合に支払う金額。
				lessor=<lessor>	システムのリースを提供するビジネス組織。
				multischedule=true false	システムリースのコストが 2 種類以上の料金表によって計算されるかどうか。
				ratefactor=<factor>	リースの支払い料金計算に使用される要素。
				value=<residual>	リース終了時のシステムの適正市場価格。

リース情報を追加するためのコマンド例

リースパラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 `omconfig system assetinfo info=lease <name=value pair 2>` または `omconfig servermodule assetinfo info=lease <name=value pair 2>`。

```
omconfig system assetinfo info=lease value=4500
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=lease value=4500
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の `omconfig system assetinfo` または `omconfig servermodule assetinfo` コマンドを同時に入力できます。

例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

メンテナンス情報の追加

メンテナンスとは、システムを良好に動作する状態に維持するために必要な作業のことを指します。以下の表に、メンテナンス情報の追加において有効なパラメータを示します。

表 55. **omconfig system assetinfo info=maintenance** または **omconfig servermodule assetinfo info=maintenance** の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=maintenance	enddate=<enddate> provider=<provider> startdate=<startdate> restrictions=<string>	延長保証契約の終了日。 メンテナンスサービスを提供するビジネス組織。 メンテナンスの開始日。 メンテナンス契約の対象とならない作業。

メンテナンス情報を追加するためのコマンド例

メンテナンスパラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=maintenance <name=value pair 2>** または **omconfig system assetinfo info=maintenance <name=value pair 2>**。

たとえば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=maintenance startdate=012504
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=maintenance startdate=012504
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

アウトソーシング情報の追加

アウトソーシングは、システムを良好な作動状態に維持にする作業を他の企業に委託する契約です。以下の表に、アウトソーシング情報の追加において有効なパラメータを示します。

表 56. **omconfig system assetinfo info=outsourcing** または **omconfig servermodule assetinfo info=outsourcing** の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または	assetinfo	info=outsourcing	levels=<n>	プロバイダが提供するサービスのレベル

コマンド レベル1	コマンドレ ベル2	コマンド レベル3	名前=値のペ ア1	名前=値のペア2	説明
	servermodul e			problemcomponent=<comp onent>	メンテナンスを必 要とするシステム コンポーネント。
				providerfee=<providerfee>	メンテナンスに対 して課せられる金 額。
				servicefee=<servicefee>	サービスに対して 課せられる金額。
				signauth=<name>	サービスの契約者、 または承認者。

アウトソース情報を追加するためのコマンド例

アウトソースパラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=outsourse <name=value pair 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=outsourse <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=outsourse providerfee=75
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=outsourse providerfee=75
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア2のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア1に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。

例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

所有者情報の追加

所有者は、そのシステムに対する法的な所有資格を有する当事者です。次の表に所有者情報の追加の際に有効なパラメータを示します。

表 57. omconfig system assetinfo info=owner または omconfig servermodule assetinfo info=owner の有効なパラメータ

コマンド レベル1	コマンドレ ベル2	コマンド レベル3	名前=値の ペア1	名前=値のペア2	説明
omconfig	system また は	assetinfo	info=owne r	insuranceco=<company>	システムを保証する保 険会社名。

コマンド レベル 1	コマンドレ ベル 2	コマンド レベル 3	名前=値の ペア 1	名前=値のペア 2	説明
	servermodul e			ownername=<business>	システムを所有するビ ジネス組織。
				type=owned leased rented	ユーザーがシステムを 所有しているか、リー スか、レンタルかの分 類。

所有者情報を追加するためのコマンド例

所有者パラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=owner <名前=値のペア 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=owner <名前=値のペア 2>**。例えば、次のように入力します。

```
omconfig system assetinfo info=owner type=rented
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=owner type=rented
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例えば、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

サービス契約情報の追加

サービス契約は、システムの予防的メンテナンスおよび修理に対する支払金額を定める合意です。以下に、サービス契約情報の追加において有効なパラメータをリストします。

表 58. omconfig system assetinfo info=service または omconfig servermodule assetinfo info=service の有効なパラメータ

コマンド レベル 1	コマンドレ ベル 2	コマンド レベル 3	名前=値のペ ア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system また は servermodul e	assetinfo	info=service	renewed=true false	サービス契約が更新されたかど うか。
				type=<string>	契約の対象となるサービスのタ イプ
				vendor=<business >	システムのサービスを提供する ビジネス組織。

サービス情報を追加するためのコマンド例

サービスパラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=service <name=value pair 2>** または **omconfig system assetinfo info=service <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=service vendor=fixsystemco
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=service vendor=fixsystemco
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

サポート情報の追加

サポートとは、ユーザーがタスクを実行するための正しい使用法を求めて参照できる技術援助を指します。次の表は、サポート情報の追加での有効なパラメータを示しています。

表 59. omconfig system assetinfo info=support または omconfig servermodule assetinfo info=support の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=support	automaticfix=<programname>	問題を自動的に解決するのに使用するアプリケーション名。
				helpdesk=<text>	ヘルプデスクの名前、または電話番号、E-メールアドレス、またはウェブサイトアドレスなどの連絡先情報。
				outsourced=true false	外部のビジネス組織がテクニカルサポートを提供するか、またはシステム所有者の社員がテクニカルサポートを提供するか。
				type=network storage	サポートがネットワークに接続されたデバイス、またはストレージデバイスに対するものであるかどうか。

をクリックします。

サポート情報を追加するためのコマンド例

サポートパラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=support <name=value pair 2>** または **omconfig system assetinfo info=support <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=support outsourced=true
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=support outsourced=true
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

システム情報の追加

システム情報には、システムのプライマリユーザー（主たる使用者）、プライマリユーザーの電話番号、システムの所在地などが含まれます。以下の表に、システム情報を追加する際に有効なパラメータを示します。

表 60. **omconfig system assetinfo info=system** または **omconfig servermodule assetinfo info=system** の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=system	location=<text>	システムの所在地。
				primaryphone=<n>	システムのプライマリユーザー電話番号。
				primaryuser=<user>	システムのプライマリユーザー。

システム情報を追加するためのコマンド例

システムパラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。 **omconfig system assetinfo info=system <name=value pair 2>** または **omconfig system assetinfo info=system <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=system location=firstfloor
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=system location=firstfloor
```

次のメッセージが表示されます。

資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については、「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

保証情報の追加

保証情報の値を割り当てるには、**omconfig system warranty** または **omconfig servermodule warranty** コマンドを使用します。保証とは、システムの製造元 / 販売代理店と購入者の間の契約のことです。この保証は、指定された期間または使用において修理または交換の対象となるコンポーネントを明示します。延長保証値の編集については、「[延長保証情報の追加](#)」を参照してください。次の表は、保証情報を追加するための有効なパラメータを示します。

表 61. omconfig system assetinfo info=warranty または omconfig servermodule assetinfo info=warranty の有効なパラメータ

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	名前=値のペア 1	名前=値のペア 2	説明
omconfig	system または servermodule	assetinfo	info=warranty	cost=<コスト>	保証サービスにかかるコスト。
				duration=<期間>	保証が有効な日数または月数。
				enddate=<終了日>	保証契約の終了日。
				unit=days months	期間の単位が日数か月数かの選択。

保証情報を追加するためのコマンド例

保証パラメータの値を提供するには、次の形式のコマンドを入力します。**omconfig system assetinfo info=warranty <name=value pair 2>** または **omconfig servermodule assetinfo info=warranty <name=value pair 2>**。

```
omconfig system assetinfo info=warranty unit=days
```

または

```
omconfig servermodule assetinfo info=warranty unit=days
```

次のメッセージが表示されます。


資産情報は正常に設定されました。

名前=値のペア 2 のすべてのパラメータが同じ名前=値のペア 1 に属する限り、複数の **omconfig system assetinfo** または **omconfig servermodule assetinfo** コマンドを同時に入力できます。例については「[取得情報を追加するためのコマンド例](#)」を参照してください。

Storage Management サービスの使用

Storage Management の CLI により、オペレーティングシステムのコマンドシェルから Storage Management の報告、設定、および管理を行うことができます。Storage Management CLI では、コマンドシーケンスをスクリプト記述することもできます。

Storage Management CLI では、Dell OpenManage Server Administrator の **omreport** コマンドと **omconfig** コマンドのための拡張オプションを用意しています。

 **メモ:** 詳細に関しては、『Dell OpenManage Server Administrator インストールガイド』と『Dell OpenManage Management Station ソフトウェアインストールガイド』を参照してください。Storage Management の詳細に関しては、Storage Management オンラインヘルプまたは『Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド』を参照してください。

CLI コマンド構文

Server Administrator のすべてのコマンドと同じように、**omreport** および **omconfig** コマンド構文は、コマンドレベルの指定で構成されます。最初のコマンドレベルはコマンド名：**omreport** または **omconfig** です。その後のコマンドレベルは、コマンドが操作するオブジェクトのタイプ、またはコマンドが表示する情報についての詳細を指定します。

例えば、次の **omconfig** コマンド構文には3つのレベルがあります。

```
omconfig storage pdisk
```

次の表は、これらのコマンドレベルについて説明します。

表 62. コマンドレベルの例

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	使用
omconfig			コマンドを指定
	ストレージ		コマンドを実行する Server Administrator のサービス（この場合は Storage Management）を提示
		pdisk	コマンドが処理するオブジェクトのタイプを指定

コマンドレベルに続いて、**omreport** および **omconfig** コマンド構文には1つ、または複数の名前=値のペアが必要な場合があります。名前=値のペアは、コマンドに実装するオブジェクト（特定の物理ディスクなど）またはオプション（点滅または点滅解除）を指定します。

たとえば、物理ディスクを点滅させる次の **omconfig** コマンド構文には、3つのレベルと3つの名前=値のペアがあります。

```
omconfig storage pdisk action=blink controller=id pdisk=<PDISKID>
```

ここで、PDISKID=<コネクタ:エンクロージャ ID:ターゲット ID | コネクタ:ターゲット ID>

この例では、controller=id の id はコントローラ番号で、コントローラ 1 は controller=1 と指定されます。

コマンド要素の構文

omreport および **omconfig** コマンドは、複数の「名前=値」のペアを持ちます。これらの「名前=値」のペアには、必須パラメータ、任意（オプション）パラメータ、および変数パラメータが含まれます。以下の表は、これら3つのパラメータを示すのに使用される構文を示します。

表 63. 名前=値 ペアの構文

構文	説明
controller=id	<p>omreport storage controller コマンドでレポートされるコントローラ ID を示します。これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p> <p>例えば、controller=id パラメータは controller=1 と指定されます。</p>
connector=id	<p>omreport コマンドでレポートされるコネクタ ID を示します。この値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage connector controller=ID と入力し、コントローラに接続されているコネクタの ID を表示します。</p> <p>例えば、connector=id パラメータは connector=2 と指定されます。</p>
vdisk=id	<p>omreport コマンドでレポートされる仮想ディスク ID を示します。この値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage vdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。</p> <p>例えば、vdisk=id パラメータは vdisk=3 と指定されます。</p>
enclosure=<ENCLOSUREID>	<p>enclosure=connector または enclosure=connector:enclosureID のどちらかを指定することで、特定のエンクロージャを示します。</p> <p>これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage enclosure controller=id と入力し、コントローラに接続されているエンクロージャの ID を表示します。</p>

構文	説明
pdisk=<PDISKID>	<p>connector:targetID または connector:enclosureID:portID のどちらかで指定することによって、特定の物理ディスクを示します。</p> <p>コネクタ、エンクロージャ、および物理ディスクの値（ターゲット ID）を取得するには、<code>omreport storage controller</code> を入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage pdisk controller=id</code> と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
battery=id	<p><code>omreport</code> コマンドでレポートされるバッテリー ID を示します。この値を取得するには、<code>omreport storage controller</code> と入力してコントローラ ID を表示してから、<code>omreport storage battery controller=ID</code> と入力し、コントローラに接続されているバッテリーの ID を表示します。</p>
< >	<p>キャレット記号 (< >) は、指定する必要がある変数要素を囲みます。</p> <p>例えば、name=<string> パラメータは name=VirtualDisk1 のように指定します。</p>
[]	<p>ブラケット記号 ([]) は指定するかしないかを選択できるオプション（任意）の要素を示します。</p> <p>例えば、仮想ディスクの作成において、[name=<string>] パラメータは仮想ディスクの名前を指定するかどうかを選択できることを示します。この構文でパラメータを指定しない場合は、デフォルトの仮想ディスク名が自動的に選定されます。</p>
	<p>パイプ記号 () は、複数のオプションから 1 つだけを選択する場合に、選択肢を区切ります。</p> <p>例えば、仮想ディスクを作成する場合、cachepolicy=d c はキャッシュポリシーを cachepolicy=d または cachepolicy=c のいずれかに指定することを示します。</p>

omreport storage と omconfig storage のユーザー特権

Storage Management では、**omconfig storage** コマンドを使用するのに管理者権限が必要です。**omreport storage** コマンドの使用については、ユーザーおよびパワーユーザー権限があれば十分です。

omreport storage コマンド

omreport コマンドで、ストレージシステムを構成するディスク、コントローラ、エンクロージャ、バッテリー、グローバルストレージプロパティ、コネクタ、および CacheCade の、ストレージコンポーネント情報を表示することができます。**omreport** コマンドのヘルプは必要な詳細レベルでのレポートを取得するのに役立ちます。

各コマンドは、それが特定の **omreport** コマンドの結果に表示されるフィールドを定義するかどうかによって変わります。フィールドが定義されるのは、そのコマンドが特殊な、あるいは一般的でない用法を持つ場合に限りです。

以下の項では、さまざまなストレージコンポーネントの情報を表示するために必要な **omreport** コマンドの構文について説明します。

omreport storage の有効なコマンドのリストを表示するには、次のように入力します。

```
omreport storage -?
```

次の表に **omreport storage** コマンドの構文を示します。

表 64. **omreport storage** ヘルプ


コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	コマンドレベル 3	使用
omreport	ストレージ		omreport コマンドを使用できるストレージコンポーネントのリストを表示します。
		pdisk	物理ディスク情報を表示するための omreport storage pdisk パラメータのリストを表示します。
		vdisk	仮想ディスク情報を表示するための omreport storage vdisk パラメータのリストを表示します。
		コントローラ	コントローラ情報を表示するための omreport storage controller パラメータのリストを表示します。
		エンクロージャ	エンクロージャ情報を表示するための omreport storage enclosure パラメータのリストを表示します。
		バッテリー	バッテリー情報を表示するための omreport storage battery パラメータのリストを表示します。
		globalinfo	グローバルストレージ情報を表示するための omreport storage globalinfo パラメータのリストを表示します。
		コネクタ	コネクタ情報を表示するための omreport storage connector パラメータのリストを表示します。

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	使用
		cachecade	cachecade プロパティを表示するための omreport storage cachecade パラメータのリストを表示します。
		pciessed	PCIe SSD サブシステムのプロパティを表示します。
		fluidcache	Fluid Cache のプロパティと、関連する Fluid Cache ディスクを表示します。
		fluidcachepool	Fluid Cache プールプロパティを表示します。
		パーティション	指定された仮想ディスクのパーティションの詳細を表示します。
		fluidcachedisk	Fluid Cache ディスクのプロパティを表示します。

omreport 物理ディスクステータス

次の表に、omreport 物理ディスクコマンドの構文を示します。

表 65. omreport 物理ディスクコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値のペア	オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage pdisk	controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。	指定したコントローラに接続している物理ディスクをすべて表示します。  メモ: メンバー交換操作の一環として1台の物理ディスクが別の物理ディスクと交換された場合、その物理ディスクの状態は Replacing として表示されます。
	vdisk=id id は仮想ディスク番号です。例えば vdisk=1 のように指定します。	コントローラ上の指定した仮想ディスクに含まれている物理ディスクをすべて表示します。
	cachecade=id id は cachecade 番号です。例えば cachecade=1 のように指定します。	コントローラ上の指定された cachecade に含まれている物理ディスクをすべて表示します。
	connector=id id はコネクタ番号です。例えば connector=1 のように指定します。	コントローラ上の指定したコネクタに接続している物理ディスクをすべて表示します。
	pdisk=connectorID : targetID connectorID : enclosureID : slotID connectorID:targetID はコネクタ番号と物理ディスク番号を、connectorID:enclosureID:slotID はコネクタ番号、エンクロージャ	コントローラ上の指定したコネクタの指定した物理ディスクを表示します。

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値のペア	オプションの名前=値のペア	使用
		番号、およびスロット番号を示します。例えば pdisk=0:2 または pdisk=0:1:2 のように指定します。

omreport 仮想ディスクステータス

次の表に、omreport 仮想ディスクコマンドの構文を示します。


表 66. omreport 仮想ディスクコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage vdisk		コントローラ上のすべての仮想ディスクのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。	指定したコントローラ上のすべての仮想ディスクを表示します。
	controller=id vdisk=id id はコントローラ番号および仮想ディスク番号を示します。例えば、controller=0 vdisk=1 のように指定します。	コントローラ上の指定した仮想ディスクを表示します。

omreport コントローラステータス

次の表に、omreport コントローラコマンドの構文を示します。

表 67. omreport コントローラコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア	使用
omreport storage controller		システムに接続されたすべてのコントローラのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。	指定したコントローラと、それに接続しているエンクロージャ、仮想ディスク、物理ディスクなどのコンポーネントすべてを表示します。
	controller=id info=foreignkeyids	インポートまたはクリア操作ができないようにロックされた外部設定情報を表示します。
	controller=id info=pdslotreport	コントローラ内のエンクロージャの空きスロットおよび占有スロットの詳細を表示します。
		 メモ: このコマンドは、バックプレーン、SCSI、および SWRAID コントローラ上ではサポートされていません。

omreport エンクロージャステータス

以下の項では、エンクロージャコマンドを実行するのに必要な omreport storage enclosure コマンドの構文を解説します。次の表に **omreport エンクロージャ** コマンドの構文を示します。

表 68. omreport エンクロージャコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。	コントローラに接続されたすべてのエンクロージャを表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> id はコントローラ番号、<ENCLOSUREID> はエンクロージャ番号です。例えば、SCSI コントローラの場合は controller=0 enclosure=2、SAS コントローラの場合は controller=0 enclosure=1:2 のように指定します。	指定したエンクロージャとそのコンポーネントを表示します。

omreport 温度プローブステータス

次の表に、omreport プローブコマンドの構文を示します。

表 69. omreport 温度プローブのコマンド


必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名前=値のペアと名前=値のペア	使用
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=temps id はコントローラ番号、<ENCLOSUREID> はエンクロージャ ID です。例えば、SCSI コントローラの場合は controller=0 enclosure=2 info=temps、SAS コントローラの場合は controller=0 enclosure=1:2 info=temps のように指定します。	指定したエンクロージャの温度プローブを表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=pwrsupplies index=n id はコントローラ番号、<ENCLOSUREID>	指定したエンクロージャの温度プローブを表示します。

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名前=値のペアと名前=値のペア	使用
	はエンクロージャ番号、 n は温度プローブの番号を示します。例えば、 controller=0 enclosure=2 info=temps index=1 のように指定します。

omreport ファン状態

次の表は、omreport ファンコマンドの構文を示します。

表 70. omreport ファン状態

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名=値のペアと「名前=値」のペア	使用
omreport storage enclosure	システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=fans - ここで、id はコントローラ番号で、ENCLOSUREID はエンクロージャ番号です。例： controller=0 enclosure=2	指定したエンクロージャのファンを表示します。
 メモ: SCSI コントローラでは enclosure=<ENCLOSUREID> で指定された ID がコネクタ番号で、Serial Attached SCSI (SAS) コントローラでは ID は connectorNumber:EnclosureIndex です。	
controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=fans index=n - ここで、id はコントローラ番号、ENCLOSUREID はエンクロージャ番号、 n はファンの番号です。例 : controller=0 enclosure=2 info=fans index=1	指定したファンを表示します。

omreport 電源装置ステータス

次の表に、omreport 電源装置コマンドの構文を示します。

表 71. omreport 電源装置コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値のペア	オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=pwrsupplies id はコントローラ番号、ENCLOSUREID はエンクロージャ番号です。例えば、 controller=0 enclosure=2 のように指定します。	指定したエンクロージャの電源装置を表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=pwrsupplies index=n id はコントローラ番号、ENCLOSUREID はエンクロージャ番号、n は電源装置の番号を示します。例えば、 controller=0 enclosure=2 info=pwrsupplies index=1 のように指定します。	指定した電源装置を表示します。

omreport EMM ステータス

次の表に、omreport EMM コマンドの構文を示します。


 **メモ:** EMM ファームウェア間に不一致があると、EMM のステータスは劣化したように表示されます。

表 72. omreport EMM コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値のペア	オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage enclosure		システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=emms id はコントローラ番号、ENCLOSUREID はエンクロージャ番号です。例えば、 controller=0 enclosure=2 のように指定します。	指定したエンクロージャのエンクロージャ管理モジュール (EMM) を表示します。
	controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> info=emms index=n id はコントローラ番号、ENCLOSUREID はエ	指定した EMM を表示します。

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名前=値のペアと名前=値のペア	使用
--	----

エンクロージャ番号、**n** は EMM の番号を示します。例えば、
 controller=0 enclosure=2
 index=1 のように指定します。

omreport エンクロージャのロット占有レポート

次の表に、omreport エンクロージャのロット占有レポートコマンドの構文を示します。

表 73. omreport エンクロージャのロット占有レポートコマンド


必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名前=値のペアと名前=値のペア	使用
--	----

omreport storage enclosure

システムに接続されたすべてのエンクロージャのプロパティ情報を表示します。

controller=id
 enclosure=<ENCLOSUREID>
 info=pdsreport id はコントローラ番号、ENCLOSUREID はエンクロージャ番号です。例えば、
 controller=0 enclosure=2 のように指定します。

指定したエンクロージャの空きロットおよび占有ロットの詳細を表示します。

 **メモ:** このコマンドは、バックプレーン、SCSI、および SWRAID コントローラ上ではサポートされていません。

omreport バッテリステータス

次の表に、omreport バッテリコマンドの構文を示します。

表 74. omreport バッテリコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名前=値のペア	使用
----------------------------------	----

omreport storage battery

システム上の全コントローラに存在するすべてのバッテリーを表示します (一部のコントローラにはバッテリーがありません)。

controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。

指定したコントローラのバッテリーを表示します。

controller=id battery=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。

指定したバッテリーを表示します。

omreport グローバル情報

次の表に、omreport グローバル情報コマンドの構文を示します。



表 75. omreport グローバル情報コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage globalinfo	<p>スマートサーマルシャットダウンが有効か無効かを示します。詳細については、「Omconfig Global のスマートサーマルシャットダウンの有効化」を参照してください。</p> <p>設定済みのホットスペア保護ポリシーを表示します。ホットスペア保護ポリシーの設定の詳細については、デルサポートサイト dell.com/support/manuals の『<i>Dell OpenManage Server Administrator Storage Management ユーザーズガイド</i>』を参照してください。</p>

omreport コネクタステータス

次の表に、omreport コネクタコマンドの構文を示します。

表 76. omreport コネクタコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) オプションの名=値のペア	使用
omreport storage connector	<p>システム上のすべてのコントローラに存在するすべてのコネクタを表示します。</p> <p> メモ: このコマンドはコントローラ ID が指定されている場合のみ正しく動作します。</p>
controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。	<p>指定したコントローラのコネクタを表示します。</p>
controller=id connector=id id はコネクタ番号です。例えば connector=0 のように指定します。	<p>指定したコネクタを表示します。</p> <p> メモ: 冗長パスモードでコネクタをエンクロージャに接続すると、コネクタの Name が Logical Connector として表示されます。</p>

omreport Cachecade ステータス

次の表に、omreport cachecade コマンドの構文を示します。

表 77. omreport Cachecade コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア	使用
omreport storage cachecade		全コントローラ上のすべての cachecade のプロパティ情報を表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。	指定されたコントローラのすべての cachecade を表示します。
	controller=id cachecade=id id はコントローラ番号および cachecade 番号を示します。例えば、controller=0 cachecade=1 のように指定します。	コントローラ上の指定された cachecade を表示します。

omreport PCIe SSD のステータス

次の表に、omreport pciessd コマンドの構文を示します。

表 78. omreport PCIe SSD コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペアと名前=値のペア	使用
omreport storage pciessd		PCIe SSD サブシステムのプロパティを表示します。
	subsystem=id	指定された PCIe サブシステムのプロパティを表示します。

omreport Fluid Cache のステータス

次の表に、omreport fluidcache コマンドの構文を示します。

表 79. omreport Fluid Cache コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	と名前=値のペア	使用
omreport storage fluidcache		Fluid Cache のプロパティと、関連する Fluid Cache ディスクを表示します。

omreport Fluid Cache プールのステータス

次の表に、omreport fluidcachepool コマンドの構文を示します。

表 80. omreport Fluid Cache プールコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	と名前=値のペア	使用
omreport storage fluidcachepool		Fluid Cache プールのプロパティを表示します。

omreport パーティションのステータス

次の表に、`omreport partition` (omreport パーティション)コマンドの構文を示します。

表 81. omreport パーティションコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値のペア	オプションの名=値のペア	使用
omreport storage partition		指定された仮想ディスクの詳細を表示します。
	controller=id vdisk=id id はコントローラ番号および仮想ディスク番号を示します。例えば、controller=0 vdisk=1 のように指定します。	コントローラ上の指定された仮想ディスクにある、すべてのパーティションを表示します。

omreport Fluid Cache ディスクのステータス

次の表に、`omreport fluidcachedisk` コマンドの構文を示します。

表 82. omreport Fluid Cache ディスクコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3) と名前=値のペア	使用
omreport storage fluidcachedisk	Fluid Cache ディスクのプロパティを表示します。

omreport storage tape

次の表に、`omreport storage tape` コマンドの構文を示します。

表 83. omreport storage tape コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名前=値のペア	使用
omreport storage tape		テープドライブのプロパティを表示します。
	controller=id id はコントローラ番号です。例えば controller=0 のように指定します。	すべてのテープドライブを表示します。
	connector=id	指定されたコネクタ上のすべてのテープドライブを表示します。
	tape=<tape id> tapeid=id=<connector:targetID>	指定したテープドライブを表示します。

omconfig storage コマンド

omconfig コマンドを使用すると、物理ディスク、仮想ディスク、コントローラ、エンクロージャ、バッテリー、グローバル情報、コネクタおよび、cachecade を設定できます。

omconfig storage の有効なコマンドのリストを表示するには、次のように入力します。

```
omconfig storage -?
```

次の表に omreport storage コマンドの構文を示します。

表 84. omconfig storage ヘルプ

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	使用
omconfig			
	ストレージ		omconfig コマンドを使用できるストレージコンポーネントのプロパティを設定します。
		pdisk	物理ディスク設定のための omconfig storage pdisk パラメータのリストを表示します。
		vdisk	仮想ディスク設定のための omconfig storage vdisk パラメータのリストを表示します。
		コントローラ	コントローラ設定のための omconfig storage controller パラメータのリストを表示します。
		エンクロージャ	コントローラ設定のための omconfig storage controller パラメータのリストを表示します。
		バッテリー	バッテリー設定のための omconfig storage battery パラメータのリストを表示します。
		globalinfo	グローバルストレージプロパティ設定のための omconfig storage globalinfo パラメータのリストを表示します。
		コネクタ	コネクタ設定のための omreport storage connector パラメータのリストを表示します。
		cachecade	cachecade 設定のための omconfig storage cachecade パラメータのリストを表示します。
		fluidcache	Fluid Cache のプロパティと、関連する Fluid Cache ディスクを表示します。
		fluidcachepool	Fluid Cache プールのプロパティを表示します。

コマンドレベル1	コマンドレベル2	コマンドレベル3	使用
		パーティション	指定されたコントローラと仮想ディスクのパーティションの詳細を表示します。
		fluidcachedisk	Fluid Cache ディスクのプロパティを表示します。

omconfig 物理ディスクのコマンド

以下の項では、物理ディスクのタスクを実行するために必要な omconfig コマンドを示します。

表 85. omconfig 物理ディスクのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage pdisk	action=blink controller=id pdisk=<PDISKID> action=unblink controller=id pdisk=<PDISKID> action=remove controller=id pdisk=<PDISKID> action=instantsecureerase controller=id pdisk=<PDISKID> action=cryptographicerase controller=id pdisk=<PDISKID> action=initialize controller=id pdisk=<PDISKID> action=offline controller=id pdisk=<PDISKID> action=online controller=id pdisk=<PDISKID> action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<PDISKID> assign=<yes no> action=rebuild controller=id pdisk=<PDISKID> action=cancelrebuild controller=id pdisk=<PDISKID> action=cancelreplacemember controller=id pdisk=<PDISKID> action=clear controller=id pdisk=<PDISKID> action=cancelclear controller=id pdisk=<PDISKID> action=enabledevicewritecache controller=id pdisk=<PDISKID> action=disabledevicewritecache controller=id pdisk=<PDISKID> action=exportreliabilitylog controller=id pdisk=<PDISKID> action=convertraidtononraid controller=id pdisk=<PDISKID> action=convertnonraidtoraid controller=id pdisk=<PDISKID>

omconfig 物理ディスクの点滅

説明

コントローラに接続している1つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわちLEDディスプレイ）を点滅させます。

構文

```
omconfig storage pdisk action=blink  
controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id  
はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理  
ディスクを指定します。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例として、

コントローラ1のコネクタ0で物理ディスク0を点滅させます。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ2にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=blink  
controller=1 pdisk=0:0
```

次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=blink  
controller=1 pdisk=0:2:0
```

omconfig 物理ディスクの点滅解除

説明

コントローラに接続している1つまたは複数の物理ディスクのライト（発光ダイオード、すなわちLEDディスプレイ）を点滅解除します。

構文

```
omconfig storage pdisk action=unblink  
controller=id pdisk=<PDISKID> id はコント  
ローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定し  
ます。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例えば

コントローラ1、コネクタ0の物理ディスク0の点滅を解除します。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ2に収納されているものとします。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk action=unblink  
controller=1 pdisk=0:0
```

SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk action=unblink  
controller=1 pdisk=0:2:0
```

omconfig 物理ディスクの削除の準備

表 86. omconfig 物理ディスクの削除の準備

説明

物理ディスクを削除するための準備をします。

構文

```
omconfig storage pdisk action=remove  
controller=id pdisk=<PDISKID> id はコント  
ローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定し  
ます。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例えば

コントローラ 1、コネクタ 0 の物理ディスク 3 を削除します。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ 2 に収納されているものとします。

SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk action=remove  
controller=1 pdisk=0:3
```


SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk action=remove  
controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig セキュアな物理ディスクのインスタント削除

説明

指定された暗号化ディスクを削除します。

 **メモ:** このコマンドは Micron デバイスのみに適用されます。

構文

```
omconfig storage pdisk  
action=instantsecureerase controller=id  
pdisk=<PDISKID> - ここで、id はコントローラ ID  
です。<PDISKID> 変数には物理ディスクを指定しま  
す。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例として、

コントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 を削除します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk
action=instantsecureerase controller=1
pdisk=0:3
```


次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk
action=instantsecureerase controller=1
pdisk=0:2:3
```

Omconfig Cryptographic Erase Secured Physical Disk

説明

指定された暗号化ディスクを削除します。

 **メモ:** このコマンドは Non-Volatile Memory Express (NVMe) デバイスのみに適用されます。

構文

```
omconfig storage pdisk
action=cryptographicerase controller=id
pdisk=<PDISKID>。ここで、id はコントローラ ID
です。<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定しま
す。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例として、

コントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 を削除します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk
action=cryptographicerase controller=1
pdisk=0:3
```

次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk
action=cryptographicerase controller=1
pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスクの初期化

説明

物理ディスクを初期化します。


構文

```
omconfig storage pdisk
action=initialize controller=id
pdisk=id id はコントローラ ID および物理ディス
ク ID を示します。これらは omreport コマンドで
報告されます。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例えば	コントローラ 1 の物理ディスク 4 を初期化するには、次のように入力します。
例	<pre>omconfig storage pdisk action=initialize controller=1 pdisk=4</pre>

omconfig 物理ディスクのオフライン化

説明	物理ディスクをオフラインにします。
構文	<pre>omconfig storage pdisk action=offline controller=id pdisk=<PDISKID></pre> <p>- ここで、id はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理ディスクを指定します。</p> <p> メモ: これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 をオフラインにします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。
次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。	<pre>omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:3</pre>
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage pdisk action=offline controller=1 pdisk=0:2:3</pre>

omconfig 物理ディスクのオンライン化

説明	オフラインの物理ディスクをオンラインに戻します。
構文	<pre>omconfig storage pdisk action=online controller=id pdisk=<PDISKID></pre> <p>id はコントローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定します。</p> <p> メモ: これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
例えば	コントローラ 1、コネクタ 0 の物理ディスク 3 をオンラインに戻します。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ 2 に収納されているものとします。

SCSI、SATA、およびATA コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1 pdisk=0:3
```

SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk action=online controller=1 pdisk=0:2:30
```

omconfig グローバルホットスペアの割り当て

説明 物理ディスクをグローバルホットスペアとして割り当てます。

構文

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=id pdisk=<PDISKID> assign=yes
```

- ここで、id はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理ディスクを指定します。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例として、

コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディスク 3 をグローバルホットスペアとして割り当てます。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:3 assign=yes
```

次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=assignglobalhotspare controller=1 pdisk=0:2:3 assign=yes
```

omconfig 物理ディスクの再構築

説明 障害が発生した物理ディスクを再構築します。ディスクの再構築には数時間かかる場合があります。再構築をキャンセルする必要がある場合は、**再構築のキャンセル** タスクを使用します。物理ディスクの再構築の詳細に関しては、『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。

構文

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=id pdisk=<PDISKID>
```

- ここで、id はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理ディスクを指定します。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例として、

コントローラ 1 のコネクタ 3 で物理ディスク 3 を再構築します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1 pdisk=0:3
```

次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=rebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 物理ディスク再構成のキャンセル

説明

進行中の再構成をキャンセルします。再構成をキャンセルすると、仮想ディスクは劣化状態のままになります。物理ディスク再構成のキャンセルの詳細については、『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。

構文

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理ディスクを指定します。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例として、

コントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 の再構成をキャンセルします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:3
```

次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk action=cancelrebuild controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig メンバー交換のキャンセル

説明	メンバー交換操作をキャンセルします。
構文	<pre>omconfig storage pdisk action=cancelreplacemember controller=id pdisk=<PDISKID> id はコントローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定します。</pre> <p> メモ: これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
例えば	コントローラ 0 に接続されているディスク 0:0:1 上でのメンバー交換操作をキャンセルするには、次のように入力します。
例	<pre>omconfig storage pdisk action=cancelreplacemember controller=0 pdisk=0:0:1</pre>


omconfig 物理ディスクのクリア

説明	物理ディスクからデータまたは設定をクリアします。
構文	<pre>omconfig storage pdisk action=clear controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理ディスクを指定します。</pre> <p> メモ: これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 をクリアします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage pdisk action=clear controller=1 pdisk=0:2:3</pre>

omconfig 物理ディスククリアのキャンセル

説明	物理ディスクで進行中のクリア操作をキャンセルします。
構文	<pre>omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id はコントローラ ID です。 <PDISKID> 変数には物理ディスクを指定し ます。</pre> <p> メモ: これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 のクリアをキャンセルします。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。
次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。	<pre>omconfig storage pdisk action=cancelclear controller=1 pdisk=0:2:3</pre>

omconfig デバイスの書き込みキャッシュの有効化

説明	PCIe SSD コントローラに対して物理ディスクの書き込みキャッシュを無効にします。
構文	<pre>omconfig storage pdisk action=enabledevicewritecache controller=id pdisk=<PDISKID> id はコント ローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定し ます。</pre> <p> メモ: これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示してから、omreport storage pdisk controller=ID と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。</p>
例えば	コントローラ 1、コネクタ 0 の物理ディスク 3 上の書き込みキャッシュを有効にします。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ 2 に収納されているものとします。
SAS コントローラの場合、次のように指定します。	<pre>omconfig storage pdisk action=enabledevicewritecache controller=1 pdisk=0:2:3</pre>

omconfig デバイスの書き込みキャッシュの無効化

説明

PCIe SSD コントローラに対して物理ディスクの書き込みキャッシュを無効にします。

構文

```
omconfig storage pdisk  
action=disabledevicewritecache  
controller=id pdisk=<PDISKID> id はコント  
ローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定し  
ます。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例えば

コントローラ 1、コネクタ 0 の物理ディスク 3 上の書き込みキャッシュを無効にします。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ 2 に収納されているものとします。

SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk  
action=disabledevicewritecache  
controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig 信頼性ログのエクスポート

説明

物理ディスクまたは PCIe SSD コントローラにログをエクスポートします。

構文

```
omconfig storage pdisk  
action=exportreliabilitylog  
controller=id pdisk=<PDISKID> id はコント  
ローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定し  
ます。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

例えば

コントローラ 1、コネクタ 0 の物理ディスク 3 上にログをエクスポートします。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ 2 に収納されているものとします。

SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk  
action=exportreliabilitylog  
controller=1 pdisk=0:2:3
```

omconfig RAID を非 RAID に変換


説明

物理ディスク上で RAID を非 RAID に変換します。

構文

```
omconfig storage pdisk  
action=convertraidtononraid  
controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id  
はコントローラ ID です。<PDISKID> 変数には物理  
ディスクを指定します。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

 **メモ:** 指定のコントローラで複数の RAID を非 RAID に変換するには、コマンド **omconfig storage controller action=convertraidtononraid** を使用します。詳細に関しては、「[omconfig 複数の RAID を非 RAID に変換](#)」を参照してください。

例として、

コントローラ 1 のコネクタ 3 の物理ディスク 3 で RAID を非 RAID に変換します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SAS コントローラの例です。

```
omconfig storage pdisk  
action=raidtononraid controller=1  
pdisk=0:2:3
```

omconfig 非 RAID を RAID に変換

説明

物理ディスク上の非 RAID を RAID に変換します。

構文

```
omconfig storage pdisk  
action=convertnonraidtoraid  
controller=id pdisk=<PDISKID> id はコント  
ローラ ID、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定し  
ます。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage pdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。

 **メモ:** 与えられたコントローラ上の複数の非 RAID を RAID に変換するには **omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid** コマンドを使用します。詳細については「[omconfig 複数の非 RAID の RAID への変換](#)」を参照してください。

例えば

コントローラ 1、コネクタ 0 の物理ディスク 3 上の非 RAID を RAID に変換します。SAS コントローラ上で、物理ディスクはエンクロージャ 2 に収納されているものとして扱います。

SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage pdisk  
action=nonraidtoraid controller=1  
pdisk=0:2:3
```

omconfig 仮想ディスクのコマンド

以下の項では、仮想ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドについて説明します。


 **注意:** **omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id vdisk=id** コマンドは仮想ディスクを削除します。仮想ディスクを削除すると、その仮想ディスクに常駐するファイルシステムおよびボリュームを含むすべての情報が破壊されます。

表 87. omconfig 仮想ディスク管理コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage vdisk	action=checkconsistency controller=id vdisk=id
	action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=pausecheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=resumecheckconsistency controller=id vdisk=id
	action=checkconsistency controller=id vdisk=id
	action=blink controller=id vdisk=id
	action=unblink controller=id vdisk=id
	action=initialize controller=id vdisk=id
	action=fastinit controller=id vdisk=id [force=yes]
	action=slowinit controller=id vdisk=id [force=yes]
	action=cancelinitialize controller=id vdisk=id
	action=cancelbginitialize controller=id vdisk=id
	action=assigndedicatedhotspare controller=id vdisk=id pdisk=<PDISKID> assign=<yes no>
	action=deletevdisk controller=id vdisk=id [force=yes]
	action=format controller=id vdisk=id
	action=reconfigure controller=id vdisk=id raid=<c r0 r1 r1c r5 r10> pdisk=<PDISKID> [size=<size> vdcapacityexpansion=yes sizeinpercent=<1 ~ 100>]
	action=securevd controller=id vdisk=id

必要なコマンドレベル
(1、2、3)

action=clearvdbadblocks controller=id vdisk=id

action=change policy controller=id vdisk=id [readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc> | writepolicy=<wb | wt | wc | nwc | fwb> | cachepolicy=<d | c> diskcachepolicy=<enabled | disabled>]

action=replacememberdisk controller=id vdisk=id source=<PDISKID> destination=<PDISKID>

action=rename controller=id vdisk=id

action=enablefluidcache controller=id vdisk=id devicename=<string> cachepolicy=<wb | wt>

action=disablefluidcache controller=id vdisk=id devicename=<string>

action=reactivate controller=id vdisk=id devicename=<string>

omconfig 整合性チェック

説明 仮想ディスクの整合性チェックを開始します。整合性チェックタスクは仮想ディスクの冗長データを検証します。

構文 `omconfig storage vdisk action=checkconsistency controller=id vdisk=id` id はコントローラ ID および仮想ディスクを示します。これらは `omreport` コマンドで報告されます。

 **メモ:** これらの値を取得するには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage vdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。


例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを実行するには、次のように入力します。

例 `omconfig storage vdisk action=checkconsistency controller=1 vdisk=4`

omconfig 整合性チェックのキャンセル

説明 実行中の整合性チェックをキャンセルします。

構文 `omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency controller=id vdisk=id` id はコントローラ ID および仮想ディスクを示します。これらは `omreport` コマンドで報告されます。

 **メモ:** これらの値を取得するには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage vdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。


例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックをキャンセルするには、次のように入力します。

例 `omconfig storage vdisk action=cancelcheckconsistency
controller=1 vdisk=4`

omconfig 整合性チェックの一時停止

説明 実行中の整合性チェックを一時停止します。詳細については『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。

構文 `omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency
controller=id vdisk=id` id はコントローラ ID および仮想ディスク ID を示します。これらは `omreport` コマンドで報告されます。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを一時停止するには、次のように入力します。

例 `omconfig storage vdisk action=pausecheckconsistency
controller=1 vdisk=4`

omconfig 整合性チェックの再開

説明 整合性チェックを一時停止した後で、それを再開します。

構文 `omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency
controller=id vdisk=id` id はコントローラ ID および仮想ディスク ID を示します。これらは `omreport` コマンドで報告されます。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の整合性チェックを再開するには、次のように入力します。

例 `omconfig storage vdisk action=resumecheckconsistency
controller=1 vdisk=4`

omconfig 仮想ディスクの点滅

説明 仮想ディスクに含まれている物理ディスクを点滅させます。

構文 `omconfig storage vdisk action=blink controller=id vdisk=id` に
おいて、id はコントローラ ID および仮想ディスクを示します。これらは
`omreport` コマンドで報告されます。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。


例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の物理ディスクを点滅させるには、次のように入力します。

例 omconfig storage vdisk action=blink controller=1 vdisk=4

omconfig 仮想ディスクの点滅解除

説明 仮想ディスクに含まれる物理ディスクの点滅を解除します。

構文 omconfig storage vdisk action=unblink controller=id vdisk=id
- ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID および仮想ディスク ID です。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている物理ディスクの ID を表示します。


例として、 たとえば、コントローラ 1 の仮想ディスク 4 にある物理ディスクの点滅を解除します。

例 omconfig storage vdisk action=unblink controller=1 vdisk=4

omconfig 仮想ディスクの初期化

説明 仮想ディスクを初期化します。

構文 omconfig storage vdisk action=initialize controller=id
vdisk=id id はコントローラ ID および仮想ディスク ID を示します。これらは omreport コマンドで報告されます。


 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 を初期化するには、次のように入力します。

例 omconfig storage vdisk action=initialize controller=1 vdisk=4

omconfig 仮想ディスクの高速初期化

説明 仮想ディスクの高速初期化を行います。

 **注意:** システムパーティションまたはブートパーティションを削除しようとする、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージは必ずしも生成されるとは限りません。このコマンドを使用するときは、システムパーティション、ブートパーティション、またはその他の仮想データを削除しないようにしてください。


構文 omconfig storage vdisk action=fastinit controller=id vdisk=id
- ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID および仮想ディスク ID です。

次は SAS コントローラ の例です。

```
omconfig storage vdisk action=assigndedicatedhotspare
controller=1 vdisk=4 pdisk=0:2:3 assign=yes
```

omconfig 仮想ディスクの削除

説明 仮想ディスクを削除します。


 **注意:** 仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上にあるファイルシステムおよびボリュームなどのすべての情報が破棄されます。システムパーティションまたはブートパーティションを削除しようとする、警告メッセージが表示されることがあります。ただし、この警告メッセージは必ずしも生成されるとは限りません。このコマンドを使用するときは、システムパーティション、ブートパーティション、またはその他の仮想データを削除しないようにしてください。

構文

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id
vdisk=id
```

 - ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID および仮想ディスク ID です。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

 **メモ:** 状況によっては、このコマンドでシステムパーティションまたはブートパーティションを削除しようとする、警告メッセージが表示されることがあります。この警告は、**force=yes** パラメータを使用してオーバーライドできます。この場合、構文は次のとおりです。

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=id
vdisk=id force=yes
```

例として、 コントローラ 1 で仮想ディスク 4 を削除します。

例

```
omconfig storage vdisk action=deletevdisk controller=1
vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクのフォーマット

説明 仮想ディスクをフォーマットします。

構文

```
omconfig storage vdisk action=format controller=id vdisk=id
```

 - ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID および仮想ディスク ID です。

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例として、 コントローラ 1 で仮想ディスク 4 をフォーマットします。


例

```
omconfig storage vdisk action=format controller=1 vdisk=4
```

omconfig 仮想ディスクの再設定

説明

仮想ディスクを再設定して、仮想ディスクの RAID レベルを変更するか、物理ディスクの追加または使用可能な空き容量の使用によりサイズを増やします。一部のコントローラでは、物理ディスクを削除することもできます。

 **メモ:** 追加の物理ディスクで再設定する場合、物理ディスクは、サポートされるバスプロトコル、メディアタイプ、セクタサイズ、T10 Protection Information 機能、および暗号化機能を備えたものである必要があります。

構文

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=id
vdisk=id raid=<c| r0| r1| r1c| r5| r6| r10> pdisk=<PDISK>
[size=<size> vdcapacityexpansion=yes sizeinpercent=<1 to
100>] - ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID
および仮想ディスク ID です。
```

 **メモ:** これらの値を取得するには、**omreport storage controller** と入力してコントローラ ID を表示してから、**omreport storage vdisk controller=ID** と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例として、

仮想ディスク 4 を 800 MB のサイズに再設定して、コントローラ 1 のコネクタ 0 で RAID-5 および物理ディスク 0~3 を使用します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1
vdisk=4 raid=r5 size=800m pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
```

次は SAS コントローラの例です。


```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1
vdisk=4 raid=r5 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
```

例として、

使用可能な空き容量を使用して、仮想ディスクのサイズを 20 パーセント増やし、コントローラ 1 のコネクタ 0 で RAID 5 と物理ディスク 0~3 を使用します。SAS コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。

例

```
omconfig storage vdisk action=reconfigure controller=1
vdisk=4 raid=r5 pdisk=0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3
vdcapacityexpansion=yes sizeinpercent=20
```

 **メモ:** **vdcapacityexpansion** パラメータは PERC H700 コントローラおよび PERC H800 コントローラでのみサポートされます。
vdcapacityexpansion=yes を設定する場合は、**sizeinpercent** を指定します。
vdcapacityexpansion を設定しない場合は、サイズを指定します。

omconfig 仮想ディスクのセキュア化

説明

仮想ディスクを暗号化します。

構文


```
omconfig storage vdisk action=securevd controller=id vdisk=id
id はコントローラ ID および仮想ディスク ID を示します。これらは omreport コマンドで報告されます。
```


例 `omconfig storage vdisk action=changepolicy controller=1
vdisk=4 readpolicy=nra`

omconfig 仮想ディスクメンバーの交換

説明 指定された仮想ディスクのメンバーを宛先ディスクに交換します。

構文 `omconfig storage vdisk action=replacememberdisk controller=id
vdisk=id source=<PDISKID> destination=<PDISKID>` - ここで、`id` は、`omreport` コマンドによって報告されるコントローラ ID と仮想ディスク ID です。`<PDISKID>` 変数には物理ディスクを指定します。

 **メモ:** これらの値を取得するには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage vdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例として、 仮想ディスク 4 のコントローラ 1 のコネクタ 0 で物理ディスク 3 を物理ディスク 5 に交換します。Serial Attached SCSI (SAS) コントローラでは、物理ディスクはエンクロージャ 2 にあります。


次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。 `omconfig storage vdisk action=replacememberdisk controller=1
vdisk=4 source=0:3 destination=0:5`

次は SAS コントローラの例です。 `omconfig storage vdisk action=replacememberdisk controller=1
vdisk=4 source=0:2:3 destination=0:2:5`

omconfig 仮想ディスクの名前の変更

説明 仮想ディスクの名前を変更します。

構文 `omconfig storage vdisk action=rename controller=id vdisk=id
name=<string>` `id` はコントローラ ID および仮想ディスク ID を示します。これらは `omreport` コマンドで報告されます。また `<string>` にはこの仮想ディスクの新しい名前を指定します。

 **メモ:** これらの値を取得するには、`omreport storage controller` と入力してコントローラ ID を表示してから、`omreport storage vdisk controller=ID` と入力し、コントローラに接続されている仮想ディスクの ID を表示します。

例えば コントローラ 1 の仮想ディスク 4 の名前を `vd4` に変更するには、次のように入力します。

例 `omconfig storage vdisk action=rename controller=1 vdisk=4
name=vd4`

omconfig 仮想ディスクでの Fluid Cache の有効化

説明 指定された仮想ディスクの Fluid Cache を有効にします。



メモ: Fluid Cache を有効にすると、新しい Fluid Cache ディスクが作成されます。それ以降のすべてのデータへのアクセスには、この新しい Fluid Cache ディスクのみを使用してください。これに対応する仮想ディスクへのデータアクセスや、そのパーティションのキャッシュを行うと、データの破損につながる恐れがあります。

構文

```
omconfig storage vdisk action=enablefluidcache controller=id
vdisk=id devicename=<string> cachepolicy=<wb|wt>、ただし、id は
omreport コマンドで出力されたコントローラの ID および仮想ディスクの ID で
あり、<string> は仮想ディスクのデバイス名、wb はライトバック、wt はライトス
ルーです。コントローラ ID と 仮想ディスク ID の値を得るには、omreport
storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、次に omreport
storage vdisk controller=ID と入力してそのコントローラに接続されてい
る仮想ディスクの ID を表示します。
```

例として、

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 で Fluid Cache を有効にします。

例

```
omconfig storage vdisk action=enablefluidcache controller=1
vdisk=4 devicename=/dev/sdb cacachepolicy=wb
```

omconfig 仮想ディスクでの Fluid Cache の無効化

説明

指定された仮想ディスクの Fluid Cache を無効にします。

構文

```
omconfig storage vdisk action=disablefluidcache controller=id
vdisk=id devicename=<string>、ただし、id は omreport コマンドで出力
されたコントローラの ID および仮想ディスクの ID であり、<string> は仮想ディ
スクのデバイス名です。コントローラ ID と 仮想ディスク ID の値を得るには、
omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、次に
omreport storage vdisk controller=ID と入力してそのコントローラに
接続されている仮想ディスクの ID を表示します。
```

例として、

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 で Fluid Cache を無効にします。

例

```
omconfig storage vdisk action=disablefluidcache controller=1
vdisk=4 devicename=/dev/sdb
```

omconfig 仮想ディスクでの Fluid Cache の再アクティブ化

説明

指定された仮想ディスクの Fluid Cache を再アクティブ化します。

構文

```
omconfig storage vdisk action=reactivate controller=id
vdisk=id devicename=<string>、ただし、id は omreport コマンドで出力
されたコントローラの ID および仮想ディスクの ID であり、<string> は仮想ディ
スクのデバイス名です。コントローラ ID と 仮想ディスク ID の値を得るには、
omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、次に
omreport storage vdisk controller=ID と入力してそのコントローラに
接続されている仮想ディスクの ID を表示します。
```

例として、

コントローラ 1 の仮想ディスク 4 で Fluid Cache を再アクティブ化します。

例

```
omconfig storage vdisk action=reactivate controller= 1
vdisk=4 devicename=/dev/sdb
```

omconfig コントローラコマンド


以下の項では、コントローラタスクを実行するために必要な omconfig コマンドについて説明します。

△ 注意: **omconfig storage controller action=resetconfig controller=id** はコントローラ設定をリセットします。コントローラ設定をリセットすると、そのコントローラに接続されたすべての仮想ディスク上のすべてのデータが永続的に破壊されます。これらの仮想ディスクに常駐するシステムやブートパーティションも破壊されます。


表 88. omconfig コントローラコマンド

必要なコマンドレベル (1、 オプションの名=値のペア
2、 3)

omconfig storage controller	action=rescan controller=id
	action=enablealarm controller=id
	action=disablealarm controller=id
	action=quietalarm controller=id
	action=testalarm controller=id
	action=resetconfig controller=id [force=yes]
	action=createvdisk controller=id raid=<c r0 r1 r1c r5 r6 r10 r50 r60> size=<number b m g max min> pdisk=<PDISKID> [stripesize=<2kb 4kb 8kb 16kb 32kb 64kb 128kb 256kb 512kb 1mb >] [cachepolicy=<d c>] [readpolicy=<ra nra ara rc nrc>] [writepolicy=<wb wt wc nwc fw>] [diskcachepolicy=<disabled enabled>] [name=<string>] [spanlength=<n>] [secureflag=yes] [vdpienabled=yes]
	 メモ: ファームウェアバージョン 6.1 以降を持つ SAS コントローラ上の RAID 10 では、spanlength は任意選択パラメータです (デフォルト=2)。
	action=setrebuildrate controller=id rate=<0 ~ 100>
	action=setchangecontrollerproperties controller=<id> [bgirate=<rate>] [reconstructrate=<rate>][checkconsistencyrate=<rate>] [rebuildrate=<rate>][clearredundantpath=clear] [abortcheckconsistencyonerror=<enabled/disabled>][loadbalance=<auto/disabled>][allowrevertiblehotspareandreplacemember=enabled/disabled] [autoreplacememberonpredictivefailure=<enabled/disabled>] [persistenthotspare=enabled/disabled]rate=<0 ~ 100>
	action=discardpreservedcache controller=id force=<enabled/disabled>
	action=createsecuritykey controller=id keyid=<keyid> passphrase=<passphrase string> [escrow=yes] [filepath=<Absolute path to the escrow file>]

 **メモ: escrow=yes** と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

```
action=changesecuritykey controller=id keyid=<keyid>
passphrase=<passphrase string> oldpassphrase=<oldpassphrase string>
[escrow=yes] [filepath=<Absolute path to the escrow file>]
```

 **メモ: escrow=yes** と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

```
action=deletesecuritykey controller=id
```

```
action=setbgirate controller=id rate=<0 ~ 100 >
```

```
action=setreconstructrate controller=id rate=<0 ~ 100>
```

```
action=setcheckconsistencyrate controller=id rate=<0 ~ 100>
```

```
action=exportlog controller=id
```

```
action=importsecureforeignconfig controller=id passphrase=<passphrase
for imported foreign configuration>
```

```
action=importforeignconfig controller=id
```

```
action=importrecoverforeignconfig controller=id
```

```
action=clearforeignconfig controller=id
```

```
action=setdiskpwrmanagement controller=id
spindownunconfigureddrives=<enabled/disabled>
spindownhotspares=<enabled/disabled>
spindownconfigureddrives=<enabled/disabled> idlec=<enabled/disabled>
spindowntimeinterval=<30 to 1440>(minutes)
spinupstarttime=<HH:MM:AM/PM> spinuptimeinterval=<1 to 24>(hours)
```

 **メモ: spindownconfigureddrives=enabled** と設定する場合にのみ、**spinupstarttime** および **spinuptimeinterval** を指定します。


```
action=setpatrolreadmode controller=id mode=<manual | auto | disable>
```

```
action=startpatrolread controller=id
```


```
action=stoppatrolread controller=id
```

```
action=createcachecade controller=id pdisk=<PDISKID> [name=<string>]
```

```
action=enablelkm controller=id keyid=<keyid> passphrase=<passphrase
string> [escrow=yes] [filepath=<Absolute path to the escrow file>]
```

 **メモ: escrow=yes** と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

```
action=switchtolkm controller=id keyid=<keyid> passphrase=<passphrase
string> [escrow=yes] [filepath=<Absolute path to the escrow file>]
```

 **メモ: escrow=yes** と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

必要なコマンドレベル (1、 オプションの名=値のペア
2、 3)

action=rekeylkm controller=id

action=convertraidtononraid controller=id pdisk=<PDISKID>

action=convertnonraidtoraid controller=id pdisk=<PDISKID>


omconfig コントローラの再スキャン

説明 コントローラを再スキャンします。詳細に関しては、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。

構文 omconfig storage controller action=rescan controller=id - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

例として、 コントローラ 1 を再スキャンします。

例 omconfig storage controller action=rescan controller=1

 **メモ:** コントローラの再スキャンは、非 RAID SCSI コントローラおよび SAS コントローラではサポートされていません。システムを再起動して、非 RAID SCSI コントローラでの設定変更を反映させます。

omconfig コントローラ警告を有効にする

説明 コントローラ警告を有効にします。詳細に関しては、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。

構文 omconfig storage controller action=enablealarm controller=id - ここで、id は **omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

例として、 コントローラ 1 で警告を有効にします。

例 omconfig storage controller action=enablealarm controller=1

omconfig コントローラアラームを無効にする

説明 コントローラアラームを無効にします。詳細については、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。

構文 omconfig storage controller action=enablealarm controller=id id は **omreport storage controller** コマンドで報告される コントローラ ID です。

例えば コントローラ 1 のアラームを無効にする場合、次のように入力します。

例 omconfig storage controller action=disablealarm controller=1

omconfig コントローラアラームの静止

表 89. omconfig コントローラアラームの静止


説明	アクティブになっているコントローラアラームを静止します。詳細については、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。
構文	omconfig storage controller action=quietalarm controller=id id は omreport storage controller コマンドで報告される コントローラ ID です。
例えば	コントローラ 1 のアラームを静止する場合、次のように入力します。
例	omconfig storage controller action=quietalarm controller=1



omconfig コントローラアラームのテスト

表 90. omconfig コントローラアラームのテスト

説明	コントローラアラームの機能をテストします。アラーム音は約 2 秒間です。詳細については『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。
構文	omconfig storage controller action=testalarm controller=id id は omreport storage controller コマンドで報告される コントローラ ID です。
例えば	コントローラ 1 のアラームをテストする場合、次のように入力します。
例	omconfig storage controller action=testalarm controller=1

omconfig コントローラ設定のリセット

説明	<p>コントローラの設定をリセットします。</p> <p> 注意: コントローラの設定を永続的にリセットすると、そのコントローラに接続されたすべての仮想ディスク上のデータが破壊されます。これらの仮想ディスクのシステムや起動パーティションも破壊されます。このコマンドを実行することによりシステムや起動パーティションが破壊される結果となる場合には、警告メッセージが表示されることがあります。ただしこの警告メッセージは必ず生成されるとは限りません。このコマンドを使用する際には、システムや起動パーティションその他の重要データを破壊することがないか確認してください。</p>
構文	<pre>omconfig storage controller action=resetconfig controller=id id</pre> は omreport storage controller コマンドで報告される コントローラ ID です。 <p>このコマンドの実行によりシステムや起動パーティションが削除されることになる場合には、状況により警告メッセージが表示されます。</p>

- 
メモ: `vdpienabled` はオプションの引数で、PERC9 コントローラのみで有効です。yes に設定すると、T10 Protection Information (PI) が有効化された仮想ディスクが作成されます。
- 
メモ: RAID 10 の作成では、スパン内のディスク数が偶数のままであるにもかかわらず、PERC9 ファームウェアが不均等スパン (不均衡な数のアレイディスクを持つスパン) でのレイアウト (アレイディスクの数) を提案します。例えば、32 台のディスクがある場合はすべてのディスクが 1 つのスパンにある RAID 10 が作成され、34 台のディスクがある場合は、1 つのスパンに 16 台、もう一方のスパンに 18 台のディスクがある RAID 10 が作成されます。

構文例 :

PERC 3/QC コントローラ上に、ストライプサイズが 16 KB の 500 MB の RAID 5 仮想ディスクを作成します。仮想ディスクの名前は **vd1** とし、コントローラ 1 のコネクタ 0 上に置きます。この仮想ディスクは RAID 5 であるため、少なくとも 3 台の物理ディスクを必要とします。この例では 4 台の物理ディスクを指定します。これらの物理ディスクの番号は 0 ~ 3 とします。この仮想ディスクは、先行読み込み、ライトスルーのディスクキャッシュ、およびキャッシュ I/O ポリシーを持ちます。

仮想ディスクを作成するには次のように入力します。

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=1 raid=r5 size=500m
pdisk= 0:0,0:1,0:2,0:3 stripesize=16kb cachepolicy=c readpolicy=ra
writepolicy=wt
```

必ず指定する必要があるパラメータは、コントローラ、RAID レベル、仮想ディスクのサイズ、および物理ディスクの選択に関するものです。その他のすべてのパラメータについては、指定されない場合は Storage Management がデフォルト値を設定します。コントローラでサポートされる読み取り、書き込み、およびキャッシュポリシーの詳細については、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。

仮想ディスクの作成と再設定のためのパラメータ指定

以下の表では、`omconfig storage controller action=createvdisk` のパラメータを指定する方法について説明します。

表 91. パラメータおよびタイプ

パラメータ	タイプ
<code>controller=id</code>	必須
<code>raid=<c r0 r1 r1c r5 r6 r10 r50 r60></code>	必須
<code>size=<number max min></code>	必須
<code>pdisk=<connector:targetID,connector:targetID,.....></code>	必須
<code>[stripesize=<2k b 4kb 8kb 16kb 32kb 64kb 128kb>]</code>	オプション
<code>[cachepolicy=<d c>]</code>	オプション
<code>[readpolicy=<ra nra ara rc nrc>]</code>	オプション
<code>[writepolicy=<wb wt wc nwc fw>]</code>	オプション
<code>[name=<string>]</code>	オプション

パラメータ	タイプ
[spanlength=<n>] パラメータ	オプション

controller=id parameter

omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を指定します。例、
controller=2

raid=<c | r0 | r1 | r1c | r5 | r6 | r10 | r50 | r60>

raid=<c | r0 | r1 | r1c | r5 | r6 | r10 | r50 | r60> パラメータを使用して、仮想ディスクの連結または RAID レベルを指定します。『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。以下の表で、各 RAID レベルと連結に対する raid=n パラメータの指定方法を示します。

表 92. RAID レベルと連結

RAID レベルまたは連結	raid=n パラメータの指定
RAID-0	raid=r0
RAID-1	raid=r1
RAID-5	raid=r5
RAID-6	raid=r6
RAID-10	raid=r10
RAID-50	raid=r50
RAID-60	raid=r60
RAID-1-連結	raid=r1c
連結	raid=c

size=<number | max | min>

以下の表では、size=<number | max | min>のパラメータを指定する方法について説明します。

表 93. Size パラメータ

size=<number max min> パラメータ仕様	説明
size=<n>	これを使用して仮想ディスクの特定のサイズを指定します。仮想ディスクのサイズは、b (バイト)、m (メガバイト)、または g (ギガバイト) 単位で指定します。例えば、 size=500m は 500 MB の仮想ディスクを指定します。
size=max	可能な最大サイズの仮想ディスクを作成するには、 size=max を指定します。RAID 50 の仮想ディスクを作成する場合、このパラメータは size=max に指定されます。
size=min	可能な最小サイズの仮想ディスクを作成するには、 size=min と指定します。

PDISKID=<connector:enclosureID:targetID | connector:targetID>

仮想ディスクに含める物理ディスクを指定するには、このパラメータを使用します。

仮想ディスクを再設定するには、その仮想ディスクに含めるすべての物理ディスクを指定する必要があります。この物理ディスクの指定は、元の仮想ディスクにあったすべての物理ディスクに適用され、再設定される仮想ディスクでも継続されるだけでなく、再設定後に新たに追加される物理ディスクにも適用されます。コントローラによっては、仮想ディスクから物理ディスクを削除することが可能なものがあります。その場合は、その物理ディスクの削除を指定しないでください。

pdisk=<PDISKID> パラメーターは、**connector:enclosureID:targetID** または **connector:targetID** のいずれかを指定することによって物理ディスクを示します。

stripesize=<2kb | 4kb | 8kb | 16kb | 32kb | 64kb | 128kb>

コントローラによってサポートするストライプのサイズが異なります。コントローラがサポートするストライプのサイズについての詳細は、『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。ストライプサイズはすべてキロバイト単位で指定します。例えばストライプサイズとして 128 KB を指定するには、**stripesize=128kb** とタイプします。

cachepolicy=<d | c> パラメータ

コントローラによってサポートするキャッシュポリシーが異なります。以下の表に各キャッシュポリシーごとの **[cachepolicy=<d | c>]** パラメータの指定方法を示します。

表 94. キャッシュポリシーのパラメータ

キャッシュポリシー	cachepolicy=d c パラメータ仕様
ダイレクト I/O	cachepolicy=d
キャッシュ I/O	cachepolicy=c

diskcachepolicy=<disabled | enabled>

コントローラによってサポートするキャッシュポリシーが異なります。以下の表に各キャッシュポリシーごとの **[diskcachepolicy=<disabled | enabled>]** パラメータの指定方法を示します。

表 95. ディスクキャッシュポリシーのパラメータ

ディスクキャッシュポリシー	diskcachepolicy=disabled enabled パラメータ指定
無効	diskcachepolicy=disabled
有効	diskcachepolicy=enabled

readpolicy=ra | nra | ara | rc | nrc>

コントローラによってサポートする読み取りポリシーが異なります。以下の表に各読み取りポリシーごとの **readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc>** パラメータの指定方法を示します。

表 96. 読み取りポリシーのパラメータ

読み取りポリシー	readpolicy=ra ara nra rc nrc パラメータ仕様
先読み	readpolicy=ra
適応先読み	readpolicy=ara

読み取りポリシー	readpolicy=ra ara nra rc nrc パラメータ仕様
先読みなし	readpolicy=nra
読み取りキャッシュ	readpolicy=rc
読み取りキャッシュなし	readpolicy=nrc

writepolicy=<wb | wt | wc | nwc>

コントローラによってサポートする書き込みポリシーが異なります。以下の表に各書き込みポリシーごとの writepolicy=<wb | wt | wc | nwc | fwb> パラメータの指定方法を示します。

表 97. 書き込みポリシーのパラメータ

書き込みポリシー	writepolicy=wb wt wc fwb nwc パラメータ仕様
ライトバックキャッシュ	writepolicy=wb
ライトスルーキャッシュ	writepolicy=wt
書き込みキャッシュ	writepolicy=wc
ライトバックの強制	writepolicy=fwb
書き込みキャッシュなし	writepolicy=nwc

controller=id

omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID を指定します。例:

```
controller=2
```

Raid=<c | r0 | r1 | r1c | r5 | r6 | r10 | r50 | r60>

raid=<c | r0 | r1 | r1c | r5 | r6 | r10 | r50 | r60> パラメータを使用して、仮想ディスクに対して連結または RAID レベルを指定します。コントローラによって、サポートされる RAID レベルが異なります。コントローラがサポートする RAID レベルの詳細、および RAID レベルと連結の一般情報については、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。次の表は、各 RAID レベルと連結で raid=n パラメータを指定する方法を示します。

表 98. RAID レベルと連結

RAID レベルまたは連結	raid=n パラメータの仕様
RAID-0	raid=r0
RAID-1	raid=r1
RAID-5	raid=r5
RAID-6	raid=r6
RAID-10	raid=r10
RAID-50	raid=r50
RAID-60	raid=r60
RAID-1-concatenated	raid=r1c

RAID レベルまたは連結	raid=n パラメータの仕様
連結	raid=c

size=<number | max | min> パラメータ

次の表は、size=<number | max | min> を指定する方法を示します。

表 99. Size パラメータ

size=<number max min> パラメータ仕様	説明
size=<n>	この指定で仮想ディスクの特定のサイズを示します。仮想ディスクのサイズは b (バイト)、m (メガバイト)、または g (ギガバイト) 単位で指定します。例えば、size=500m は仮想ディスクが 500 MB であることを示します。
size=max	可能な限りの最大サイズの仮想ディスクを作成するには、size=max と指定します。RAID 50 仮想ディスクを作成する場合は、このパラメータを size=max として指定します。
size=min	可能な限りの最小サイズの仮想ディスクを作成するには、size=min と指定します。

stripesize=< 2kb | 4kb | 8kb | 16kb | 32kb | 64kb | 128kb >

stripesize=<2kb | 4kb | 8kb | 16kb | 32kb | 64kb | 128kb>

コントローラによって、サポートされるストライプサイズは異なります。コントローラでサポートされるストライプサイズの詳細に関しては、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。すべてのストライプサイズはキロバイト単位で指定します。例えば、ストライプサイズを 128 KB と指定する場合は、stripesize=128kb と入力します。

PDISKID=<コネクタ:エンクローチャ ID:ターゲット ID | コネクタ:ターゲット ID>

PDISKID=<コネクタ:エンクローチャ ID:ターゲット ID | コネクタ:ターゲット ID>

仮想ディスクに含める物理ディスクを指定するには、このパラメータを使用します。

仮想ディスクを再設定する場合は、再設定された仮想ディスクに含めるすべての物理ディスクを指定する必要があります。物理ディスク指定は、元の仮想ディスク内の物理ディスクに適用され、再設定された仮想ディスク内で引き続き残り、再設定された仮想ディスクに追加される新しい物理ディスクにも適用されます。一部のコントローラでは、仮想ディスクから物理ディスクを削除できます。この場合は、物理ディスクの削除を指定しないでください。

pdisk=<PDISKID> パラメータは、コネクタ:エンクローチャ ID:ターゲット ID または コネクタ:ターゲット ID のどちらかを指定することによって物理ディスクを示します。

Cachepolicy=<d | c>

[cachepolicy=<d | c>] パラメータ

コントローラによって、サポートされるキャッシュポリシーが異なります。次の表は、各キャッシュポリシーで [cachepolicy=<d | c>] パラメータを指定する方法を示します。

表 100. キャッシュポリシーのパラメータ

キャッシュポリシー	cachepolicy=d c パラメータ仕様
ダイレクト I/O	cachepolicy=d
キャッシュ I/O	cachepolicy=c

diskcachepolicy=<disabled | enabled>

コントローラによってサポートするキャッシュポリシーが異なります。以下の表に各キャッシュポリシーごとの [diskcachepolicy=<disabled | enabled>] パラメータの指定方法を示します。

表 101. ディスクキャッシュポリシーのパラメータ

ディスクキャッシュポリシー	diskcachepolicy=disabled enabled パラメータの仕様
無効	diskcachepolicy=disabled
有効	diskcachepolicy=enabled

Readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc>

コントローラによってサポートする読み取りポリシーが異なります。以下の表に各読み取りポリシーごとの readpolicy=<ra | nra | ara | rc | nrc> パラメータの指定方法を示します。

表 102. 読み取りポリシーのパラメータ

読み取りポリシー	readpolicy=ra ara nra rc nrc パラメータ仕様
先読み	readpolicy=ra
適応先読み	readpolicy=ara
先読みなし	readpolicy=nra
読み取りキャッシュ	readpolicy=rc
読み取りキャッシュなし	readpolicy=nrc

Writepolicy=<wb | wt | wc | nwc>

コントローラによってサポートする書き込みポリシーが異なります。以下の表に各書き込みポリシーごとの writepolicy=<wb | wt | wc | nwc | fwb> パラメータの指定方法を示します。

表 103. 書き込みポリシーのパラメータ

書き込みポリシー	writepolicy=wb wt wc fwb nwc パラメーター指定
ライトバックキャッシュ	writepolicy=wb
ライトスルーキャッシュ	writepolicy=wt
書き込みキャッシュ	writepolicy=wc
ライトバックの強制	writepolicy=fwb

書き込みキャッシュなし

writepolicy=nwc

name=<string>

仮想ディスクの名前を指定するには、このパラメータを使用します。例：name=VirtualDisk1

spanlength=<n> (RAID 50 と RAID 60 では必須、RAID 10 ではオプション)

このパラメータを使用して各ストライプの物理ディスクの数を指定します。このパラメータは RAID 50 仮想ディスクにのみ適用されます。RAID 50 仮想ディスクを作成しない場合は、このパラメータを使用しないでください。例：

```
spanlength=3
```

ファームウェア 6.1 以上の SAS コントローラの RAID 10 では、spanlength はオプションです。また、spanlength をそれぞれ 32 台の物理ディスクと最大 8 つのスパンで偶数で指定できます。例：

```
omconfig storage controller action=createvdisk controller=1 raid=r10 size=min  
pdisk= 1:1:0,1:1:1,1:1:3,1:1:4,1:1:6,1:1:7,1:1:8,1:1:9 spanlength=4
```

omconfig コントローラ再構築率の設定

説明 コントローラ再構築率を設定します。

構文 omconfig storage controller action=setrebuildrate controller=id
rate=<0~100> - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告される
コントローラ ID です。

例として、 コントローラ 1 で再構成率を 50 に設定します。

例 omconfig storage controller action=setrebuildrate controller=1
rate=50

omconfig コントローラプロパティの変更

表 104. omconfig コントローラプロパティの変更

説明 一部またはすべてのコントローラプロパティを変更
します。

構文 omconfig storage controller action=
setchangecontrollerproperties
controller=<id> bgirate=<rate>
reconstructrate=<rate>
checkconsistencyrate=<rate>
rebuildrate=<rate>
clearredundantpath=clear
abortcheckconsistencyonerror=<enabled |
disabled> loadbalance=<auto | disabled>
allowrevertiblehotspareandreplacemember
=<enabled | disabled>
autoreplacememberonpredictivefailure=
<enabled | disabled>
persistenthotspare=<enabled | disabled>


omconfig 暗号化キーの変更

説明 パスフレーズが指定された場合に、コントローラの暗号化キーを変更します。

構文 `omconfig storage controller action= changesecuritykey controller=id
keyid=<keyid string> passphrase=passphrase string> oldpassphrase=<old
passphrase string>[escrow=yes] [filepath=<Absolute path to the escrow
file>]>`

例として、コントローラの暗号化キーを変更します。

例 `omconfig storage controller action= changesecuritykey controller=1
keyid=Dell_123 passphrase=Dell_123 oldpassphrase=Dell_321 escrow= yes
filepath=C:/escrow.xml`

 **メモ:** escrow=yes と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

omconfig 暗号化キーの削除

説明 コントローラの暗号化キーを削除します。

構文 `omconfig storage controller action= deletesecuritykey controller=id -
ここで、id は、omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID で
す。`

例として、コントローラの暗号化キーを削除します。

例 `omconfig storage controller action= deletesecuritykey controller=1`

omconfig バックグラウンドの初期化率の設定

説明 バックグラウンドの初期化率を設定します。

構文 `omconfig storage controller action=setbgirate controller=id rate=<0~
100> - ここで、id は、omreport storage controller コマンドによって報告されるコントロー
ラ ID です。`

例として、コントローラ 1 でバックグラウンド初期化率を 50 に設定します。

例 `omconfig storage controller action=setbgirate controller=1 rate=50`

omconfig 再構築率の設定

説明 再構築率を設定します。

構文 `omconfig storage controller action= setreconstructrate controller=id rate=<0~100>` - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

例として、 コントローラ 1 で再構築率を 50 に設定します。

例 `omconfig storage controller action= setreconstructrate controller=1 rate=50`

omconfig 整合性チェック率の設定

説明 整合性チェック率を設定します。

構文 `omconfig storage controller action= setcheckconsistencyrate controller=id rate=<0 ~ 100>` id は **omreport storage controller** コマンドで報告されるコントローラ ID です。

例えば コントローラ 1 の整合性チェック率を 50 に設定します。

例 `omconfig storage controller action=setcheckconsistencyrate controller=1 rate=50`

omconfig コントローラログのエクスポート

説明 コントローラログをテキストファイルにエクスポートします。エクスポートされたログファイルの詳細に関しては、『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。


構文 `omconfig storage controller action=exportlog controller=id` - ここで、id は **omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。

例として、 コントローラ 1 でログをエクスポートします。

例 `omconfig storage controller action=exportlog controller=1`

デフォルトでは、ログファイルは、Microsoft Windows システム（使用されている Windows バージョンに基づく）の場合には **C:\WINNT** または **C:\Windows** へ、またすべての Linux システムでは **/var/log** へエクスポートされます。

コントローラに応じて、ログファイル名は **afa_<mmdd>.log** または **lsi_<mmdd>.log** になります。ここで、<mmdd> は月と日です。コントローラログファイルの詳細に関しては、『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。

 **メモ:** ログファイルのエクスポートコマンドは、4/IM、CERC ATA、および 100/4ch コントローラではサポートされていません。


omconfig セキュアな外部設定のインポート

- 説明** 暗号化されたローカルキー管理 (LKM) 外部設定ドライブをロック解除します。
- 構文** `omconfig storage controller action= importsecureforeignconfig controller=id passphrase=<外部設定のパスフレーズ文字列>` - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。
- 例として、** コントローラ 1 で暗号化された LKM 設定ドライブをロック解除します。
- 例** `omconfig storage controller action= importsecureforeignconfig controller=1 passphrase= Dell_123`

omconfig 外部設定のインポート

- 説明** コントローラに新たに接続された物理ディスクにあるすべての仮想ディスクをインポートします。
- 構文** `omconfig storage controller action= importforeignconfig controller=id` - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコマンド ID です。
-  **メモ:** このコマンドはファームウェアバージョン 5.0.x のみにサポートされています。
- 例として、** コントローラ 1 で外部設定をインポートします。
- 例** `omconfig storage controller action= importforeignconfig controller=1`



omconfig 外部設定のインポートと回復

- 説明** コントローラに新たに接続された物理ディスク上に常駐するすべての仮想ディスクをインポートおよび回復します。
- 構文** `omconfig storage controller action= importrecoverforeignconfig controller=id` id は **omreport storage controller** コマンドで報告される コントローラ ID です。
-  **メモ:** このコマンドはファームウェアバージョン 5.1.1.でのみサポートされています。
- 例えば** Import foreign configurations on controller 1.
- 例** `omconfig storage controller action= importrecoverforeignconfig controller=1`

omconfig 外部設定のクリア

- 説明** コントローラに新たに接続された物理ディスクにあるすべての仮想ディスクをクリアまたは削除します。
- 構文** `omconfig storage controller action= clearforeignconfig controller=id` - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。
-  **メモ:** このコマンドはファームウェアバージョン 5.0.x のみにサポートされています。
- 例として、** コントローラ 1 で外部設定をクリアします。
- 例** `omconfig storage controller action= clearforeignconfig controller=1`

omconfig 物理ディスク電源管理

- 説明** ホットスペア、構成済みドライブ、構成されていないドライブをスピンドアウンすることにより、コントローラ内の物理ディスクの電源を管理します。
- 構文** `omconfig storage controller action= setpdiskpwrmanagement`
`spindownunconfigureddrives=<enabled | disabled>`
`spindownhotspares=<enabled | disabled>`
`spindownconfigureddrives=<enabled | disabled> idlec=<enabled | disabled>`
`spindowntimeinterval=<30 ~ 1440> (分)`
`spinupstarttime=<HH:MM:AM/PM> spinuptimeinterval= <1~24> (時間)` - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。
-  **メモ:** PERC 7 コントローラでは、`spindownunconfigureddrives`、`spindownhotspares`、および `spindowntimeinterval` パラメータのみがサポートされます。
-  **メモ:** `spindownconfigureddrives=enabled` と設定する場合にのみ、`spinupstarttime` および `spinuptimeinterval` を指定できます。
- 例として、** 構成されていないドライブ、または 30 分間も使用されていないホットスペアをスピンドアウンします。
- 例** `omconfig storage controller action= setpdiskpwrmanagement`
`spindownunconfigureddrives= enabled spindownhotspares=enabled`
`spindowntimeinterval=30 controller=1`

omconfig 巡回読み取りモードの設定

- 説明** コントローラの巡回読み取りモードを設定します。
- 構文** `omconfig storage controller action= setpatrolreadmode controller=id`
`mode= manual|auto|disable` - ここで、id は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID です。
- 例として、** コントローラ 1 で巡回読み取りを手動モードに設定します。

例 `omconfig storage controller action= setpatrolreadmode controller=1 mode>manual`


omconfig 巡回読み取りの開始

説明 コントローラで巡回読み取りタスクを開始します。

構文 `omconfig storage controller action=startpatrolread controller=id` `id`は **omreport storage controller** コマンドで報告される コントローラ ID です。

例えば コントローラ 1 で巡回読み取りタスクを開始するには、次のように入力します。

例 `omconfig storage controller action=startpatrolread controller=1`

 **メモ:** 巡回読み取りを開始するには、現在の巡回読み取りモードは手動に設定されます。


omconfig 巡回読み取りの停止

説明 コントローラの巡回読み取りタスクを停止します。

構文 `omconfig storage controller action=stoppatrolread controller=id` `id`は **omreport storage controller** コマンドで報告される コントローラ ID です。

例えば コントローラ 1 の巡回読み取りタスクを停止するには、次のように入力します。

例 `omconfig storage controller action=stoppatrolread controller=1`

 **メモ:** 巡回読み取りを停止するには、現在の巡回読み取りモードは手動に設定されます。

omconfig Cachecade の作成

説明 指定されたコントローラで Cachecade を作成します。

構文 `omconfig storage controller action=createcachecade controller=id pdisk=<PDISKID> [name=<文字列>]` - ここで、`id` は、**omreport storage controller** コマンドによって報告されるコントローラ ID で、`PDISKID` は次のように指定します。
`pdisk=コネクタ:エンクロージャ ID:ターゲット ID | コネクタ:ターゲット ID`

例として、コントローラ 0 で Cachecade を作成します。

例 `omconfig storage controller action=createcachecade controller=0 pdisk=0:2:3 name=Cachecade1`


omconfig LKM コントローラを有効にする

説明 LKM モードを有効にして、コントローラの暗号化キーを作成します。

構文 `omconfig storage controller action=enablelkm controller=id
keyid=<keyid string> passphrase= <passphrase string> [escrow=yes]
[filepath= <Absolute path to the escrow file> - ここで、id は omreport
storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID です。`

例として、 コントローラの暗号化キーを作成します。

例 `omconfig storage controller action=enablelkm controller=1
keyid=Dell_123 passphrase=Dell_123 escrow= yes filepath=C:/escrow.xml`

 **メモ:** `escrow=yes` と設定する場合、エスクローファイルへのパスを指定します。

omconfig LKM コントローラの再キー

説明 コントローラに対して LKM モードで暗号化キーの再キーを行います。

構文 `omconfig storage controller action=rekeylkm controller=id
keyid=<keyid> passphrase=<passphrase string> escrow=yes
filepath=<Absolute path to the escrow file> - ここで、id は omreport storage
controller コマンドによって報告されるコントローラ ID です。`

例として、 コントローラの暗号化キーの再キーを行います。

例 `omconfig storage controller action=rekeylkm controller=1`

omconfig 複数の RAID を非 RAID に変換

説明 指定されたコントローラで複数の RAID を非 RAID に変換します。

構文 `omconfig storage controller action=convertraidtononraid
controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id は、 omreport storage
controller コマンドによって報告されるコントローラ ID で、PDISKID は
pdisk=connector:enclosureID:targetID | connector:targetID とい
う形式で指定します。`

例として、 コントローラ 0 で複数の非 RAID を RAID に変換します。

例 `omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid
controller=0 pdisk=0:2:3`

omconfig 複数の非 RAID を RAID に変換

説明	指定されたコントローラで複数の非 RAID を RAID に変換します。
構文	<pre>omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid controller=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id は、omreport storage controller コマンドによって報告されるコントローラ ID で、PDISKID は pdisk= コネクタ:エンクロージャ ID:ターゲット ID コネクタ:ターゲット ID と指 定します。</pre>
例として、	コントローラ 0 で複数の非 RAID を RAID に変換します。
例	<pre>omconfig storage controller action=convertnonraidtoraid controller=0 pdisk=0:2:3</pre>

omconfig エンクロージャコマンド

以下の表では、エンクロージャのタスクを実行するために必要な omconfig コマンドを示します。

表 105. omconfig エンクロージャコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名前=値のペア
omconfig storage enclosure	<pre>action=enablealarm controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> action=disablealarm controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> action=setassettag controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> assettag=<string> action=setassetname controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> assetname=<string> action=settempprobes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> index=id minwarn=n maxwarn=n action=resettempprobes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> index=id action=setalltempprobes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> minwarn=n maxwarn=n action=resetalltempprobes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> minwarn=n maxwarn=n action=blink controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> minwarn=n maxwarn=n</pre>

omconfig エンクロージャアラームを有効にする

説明	エンクロージャアラームを有効にします。
例えば	コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャのアラームを有効にするには、次のように入力します。
SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合、次のように指定します。	<pre>omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=2</pre>
SAS コントローラの場合、次のように指定します。	<pre>omconfig storage enclosure action=enablealarm controller=1 enclosure=1:2</pre>

omconfig エンクロージャ警告を無効にする

表 106. omconfig エンクロージャ警告を無効にする

説明	エンクロージャ警告を無効にします。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=id enclosure=<ENCLOSUREID></pre> - ここで、id はコントローラ ID です。 <ENCLOSUREID> 変数にはエンクロージャを指定します。
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 1 に接続されているエンクロージャ 2 のアラームを無効にします。
次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=1 enclosure=2</pre>
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=disablealarm controller=1 enclosure=1:2</pre>

omconfig エンクロージャ資産タグの設定

表 107. omconfig エンクロージャ資産タグの設定

説明	エンクロージャ資産タグを設定します。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=setassettag controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> assettag=<string></pre> id はコントローラ ID、<ENCLOSUREID> 変数はエンクロージャを指定します。 この構文では、<string> はユーザー指定の英数字の文字列です。
例えば	コントローラ のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャのアセットタグを encl20 に指定するには、次のように入力します。

SCSI、SATA、および
ATA コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=1 enclosure=2 assettag=encl20
```

SAS コントローラの場合、次のように指定します。

```
omconfig storage enclosure action=setassettag controller=1 enclosure=1:2 assettag=encl20
```


omconfig エンクロージャ資産名の設定


表 108. omconfig エンクロージャ資産名の設定

説明	エンクロージャの資産名を指定します。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=setassetname controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> assetname=<文字列></pre> - ここで、id はコントローラ ID です。<ENCLOSUREID> 変数にはエンクロージャを指定します。 この構文では、<文字列> はユーザー指定の英数字の文字列です。
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャの資産名を encl43 に指定します。
次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=setassetname controller=1 enclosure=2 assetname=encl43</pre>
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=setassetname controller=1 enclosure=1:2 assetname=encl43</pre>

omconfig 温度プローブのしきい値の設定



表 109. omconfig 温度プローブのしきい値の設定

説明	指定された温度プローブの最小および最大警告温度しきい値を設定します。  メモ: このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=settempprobes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> index=id minwarn=n maxwarn=n</pre> - ここで、id は、コントローラ ID および温度プローブ ID です。<ENCLOSUREID> 変数にはエンクロージャを指定します。 この構文では、n はユーザー指定の英数字の文字列です。
例として、	温度プローブのしきい値を摂氏 10 度および 40 度に設定します。
次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=settempprobes controller=1 enclosure=2 index=3 minwarn=10 maxwarn=40</pre>

 **メモ:** ここで、温度プローブ 3 は、コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャにあります。


omconfig 温度プローブしきい値のリセット

表 110. omconfig 温度プローブしきい値のリセット

説明	温度の最小および最大警告しきい値を デフォルト値に戻します。  メモ: このコマンドは SAS コントローラではサポートされていません。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=resettemp probes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> index=id</pre> <p>id はコントローラ ID および温度プローブ ID です。<ENCLOSUREID> 変数によりエンクロージャを指定します。</p> <p>この構文において、<i>n</i> はユーザー指定の英数字の文字列です。</p>
例えば	コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャにある温度プローブ 3 で、温度しきい値をデフォルト値にリセットするには、次のように入力します。
SCSI、SATA、および ATA コントローラの場合、次のように指定します。	<pre>omconfig storage enclosure action=resettemp probes controller=1 enclosure=2 index=3</pre>  メモ: ここで、温度プローブ 3 は、コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャにあります。


omconfig すべての温度プローブのしきい値の設定

表 111. omconfig すべての温度プローブのしきい値の設定

説明	エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大警告温度しきい値を設定します。  メモ: このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=setalltemp probes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID> minwarn=n maxwarn=n</pre> <p>ここで、id はコントローラ ID です。<ENCLOSUREID> 変数にはエンクロージャを指定します。</p> <p>この構文では、<i>n</i> はユーザー指定の英数字の文字列です。</p>
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されたエンクロージャ 3 にあるすべての温度プローブのしきい値を、摂氏 10 度および 40 度に設定します。
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=setalltemp probes controller=1 enclosure=2:3 minwarn=10 maxwarn=40</pre>

omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット

表 112. omconfig すべての温度プローブしきい値のリセット

説明	エンクロージャ内のすべての温度プローブの最小および最大温度しきい値をデフォルト値にリセットします。  メモ: このコマンドは SCSI RAID コントローラではサポートされていません。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=resetalltemp probes controller=id enclosure=<ENCLOSUREID></pre> - ここで、id はコントローラ ID です。 <ENCLOSUREID> 変数にはエンクロージャを指定します。 この構文では、n はユーザー指定の英数字の文字列です。
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャ 3 のすべての温度プローブのしきい値をリセットします。
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action= resetalltemp probes controller=1 enclosure=2:3</pre>

omconfig 点滅

表 113. omconfig 点滅

説明	エンクロージャで LED を点滅させます。
構文	<pre>omconfig storage enclosure action=blink controller=id enclosure=<ENCLOSUREID></pre> - ここで、id はコントローラ ID です。 <ENCLOSUREID> 変数にはエンクロージャを指定します。
例として、	コントローラ 1 のコネクタ 2 に接続されているエンクロージャ 3 の LED を点滅させます。
次は SAS コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=blink controller=1 enclosure=2:3</pre>
次は SCSI、SATA、および ATA コントローラの例です。	<pre>omconfig storage enclosure action=blink controller=1 enclosure=2</pre>

omconfig バッテリーのコマンド

次の表では、バッテリーのタスクを実行するために必要な omconfig コマンド構文について示します。

表 114. omconfig バッテリーのコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage battery	action=startlearn controller=id battery=id
	action=delaylearn controller=id battery=id days=d hours=h

omconfig バッテリー学習サイクルの開始

表 115. omconfig バッテリー学習サイクルの開始

説明	バッテリー学習サイクルを開始します。
構文	omconfig storage battery action=startlearn controller=id battery=id - ここで、id は、 omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID とバッテリー ID です。この値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、omreport storage battery controller=ID と入力してコントローラバッテリーの ID を表示します。
例として、	コントローラ 1 で学習サイクルを開始します。
例	omconfig storage battery action=startlearn controller=1 battery=0

omconfig バッテリー学習サイクルの遅延

表 116. omconfig バッテリー学習サイクルの遅延

説明	バッテリーの学習サイクルを、指定された期間だけ遅延させます。バッテリー学習サイクルは、最大で 7 日間 (168 時間) 遅延させることができます
構文	omconfig storage battery action=delaylearn controller=id battery=id days=d hours=h id は、コントローラの ID およびバッテリーの ID です。これらは omreport コマンドで報告されます。これらの値を取得するには、まず omreport storage controller とタイプしてコントローラ ID を取得し、次に omreport storage battery controller=ID とタイプしてそのコントローラのバッテリー ID を表示します。
例えば	コントローラ 1 で学習サイクルを 3 日と 12 時間遅延させるには、次のように入力します。
例	omconfig storage battery action=delaylearn controller=1 battery=0 days=3 hours=12

omconfig グローバルコマンド

次の表は、グローバルコマンドの実行に必要な **omconfig** コマンド構文を示します。これらのコマンドの実行は、すべてのコントローラに適用されます。また、これらのグローバルコマンドは、ストレージ ツリービューオブジェクトの **情報 / 設定** サブタブに示されるグローバルタスクに対応しています。

表 117. omconfig グローバルコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage globalinfo	action=enablests action=disablests action=globalrescan action=setprotectionpolicies type=ghs または dhs

omconfig スマートサーマルシャットダウンのグローバルでの有効化

デフォルトでは、PV220S / PV221S エンクロージャが危険温度である 0 °C または 50 °C に達すると、オペレーティングシステムおよびサーバーがシャットダウンします。しかし PV220S / PV221S エンクロージャにコネクタ冗長性を実装している場合には、エンクロージャが危険温度である 0 °C または 50 °C に達しても、エンクロージャのみをシャットダウンし、オペレーティングシステムとサーバーはシャットダウンしないように設定することができます。制限温度超過の場合にエンクロージャのみをシャットダウンする方式は、スマートサーマルシャットダウンと呼ばれています。スマートサーマルシャットダウンの詳細については、『Dell OpenManage オンラインヘルプ』を参照してください。

説明	スマートサーマルシャットダウンを有効にします。
構文	omconfig storage globalinfo action=enablests
例えば	サーマルシャットダウンを有効にします。そのための omconfig コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。  メモ: スマートサーマルシャットダウンが現在有効であるかどうかは、 omreport storage globalinfo コマンドを使って判別できます。スマートサーマルシャットダウンのステータスも、Server Administrator のグラフィカルユーザーインターフェース (GUI) に表示されます。このステータスを確認するには、 ストレージ オブジェクトおよび 情報/構成 タブを選択します。
例	omconfig storage globalinfo action=enablests

omconfig Smart サーマルシャットダウンのグローバルでの無効化

omconfig コマンドによる Smart サーマルシャットダウンを以前に有効にした場合は、Smart サーマルシャットダウンを無効にしてシステムをデフォルト設定に戻すことができます。Smart サーマルシャットダウンが無効になっているときは、PV220S および PV221S エンクロージャが摂氏 0 度または 50 度の重要温度に達するとオペレーティングシステムとサーバーがシャットダウンします。

説明	すべてのコントローラで Smart サーマルシャットダウンを無効にします。
構文	omconfig storage globalinfo action=disablests

例として、
サーマルシャットダウンを無効にします。サーマルシャットダウンを無効にする **omconfig** コマンド構文では、コントローラやエンクロージャの ID を指定する必要はありません。

 **メモ:** **omreport storage globalinfo** コマンドを使用して、Smart サーマルシャットダウンが現在有効か無効かを判別できます。Smart サーマルシャットダウンの状態は Server Administrator の GUI にも表示されます。この状態を確認するには、ストレージ オブジェクトを選択して、**情報 / 設定** タブを選択します。


例 `omconfig storage globalinfo action=disablests`

omconfig コントローラのグローバル再スキャン

説明 システム上のすべてのコントローラを再スキャンします。コントローラのグローバル再スキャンの詳細に関しては、『*Dell OpenManage オンラインヘルプ*』を参照してください。

構文 `omconfig storage globalinfo action=globalrescan`

例として、
すべてのコントローラのグローバル再スキャンを行います。システム上のすべてのコントローラを再スキャンするための **omconfig** コマンド構文では、コントローラ ID またはエンクロージャ ID を指定する必要はありません。

 **メモ:** グローバル再スキャンは、非 RAID SCSI コントローラおよび SAS コントローラではサポートされていません。システムを再起動して、非 RAID SCSI コントローラでの設定変更を反映させます。

例 `omconfig storage globalinfo action=globalrescan`

omconfig ホットスペアプロテクションポリシーの設定

表 118. omconfig ホットスペアプロテクションポリシーの設定

説明 専用ホットスペアまたはグローバルホットスペアでホットスペアプロテクションポリシーを設定します。詳細に関しては、dell.com/support/manuals にある『*Dell OpenManage Server Administrator ストレージ管理ユーザーズガイド*』を参照してください。

構文 `omconfig storage globalinfo action= setprotectionpolicies
type=dhs raid=<r1 | r5 | r6 | r10 | r50 | r60 | all>
hscount=<1-16> warnlevel=<0-3> includeghsinvdstate=<yes | no>`
- ここで、hscount は、仮想ディスクに割り当てられたホットスペアの数で、warnlevel はこのポリシーが違反された場合に生成される警告に割り当てる重大度レベルです。hscount=0 warnlevel=0 を使用して、RAID レベルの専用ホットスペアプロテクションポリシーをリセットします。

例 グローバルホットスペアプロテクションポリシー

例 `omconfig storage globalinfo action=setprotectionpolicies
type=dhs hscount=1 warnlevel=1 includeghsinvdstate=yes`

omconfig Cachecade の点滅

説明	Cachecade に含まれる物理ディスクを点滅させます。
構文	<pre>omconfig storage cachecade action=blink controller=id cachecade=id - ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID および Cachecade ID です。これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、omreport storage cachecade controller=ID と入力してコントローラの Cachecades の ID を表示します。</pre>
例として、	コントローラ 1 で Cachecade 4 内の物理ディスクを点滅させます。
例	<pre>omconfig storage cachecade action=blink controller=1 cachecade=4</pre>

omconfig Cachecade の点滅解除

説明	cachecade に含まれている物理ディスクの点滅を解除します。
構文	<pre>omconfig storage cachecade action=unblink controller=id cachecade=id id は、コントローラの ID および cachecade の ID です。これらは omreport コマンドで報告されます。これらの値を取得するには、まず omreport storage controller とタイプしてコントローラ ID を取得し、次に omreport storage cachecade controller=ID とタイプしてそのコントローラの cachecade の ID を表示します。</pre>
例えば	コントローラ 1 の cachecade 4 の物理ディスクを点滅解除するには、次のように入力します。
例	<pre>omconfig storage cachecade action=unblink controller=1 cachecade=4</pre>

omconfig Cachecade の削除

説明	Cachecade を削除します。
構文	<pre>omconfig storage cachecade action=deletecachecade controller=id cachecade=id - ここで、id は、omreport コマンドによって報告されるコントローラ ID と Cachecade ID です。これらの値を取得するには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、omreport storage cachecade controller=ID と入力してコントローラの Cachecades の ID を表示します。</pre> <p>特定の状況においては、警告メッセージが表示されることがあります。この警告は、<code>force=yes</code> パラメータでオーバーライドできます。この場合、構文は次のとおりです。</p> <pre>omconfig storage cachecade action=deletecachecade controller=id cachecade=id force=yes</pre>

例として、 コントローラ 1 の Cachecade 4 を削除します。

例 omconfig storage cachecade action=deletecachecade
 controller=1 cachecade=4

omconfig Cachecade のサイズ変更

説明 物理ディスクの追加または削除により cachecade のサイズを変更します。

構文 omconfig storage cachecade action=resize controller=id
 cachecade=id pdisk=<PDISKID> - ここで、id は、**omreport** コマンドによっ
 て報告されるコントローラ ID および cachecade ID です。これらの値を取得する
 には、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、
 omreport storage cachecade controller=ID と入力してコントローラの
 cachecades の ID を表示します。

例として、 cachecade 4 のサイズを変更します。コントローラ 1 のコネクタ 0 の物理ディス
 ク 0~3 を使用します。

次は SAS コントロー omconfig storage cachecade action=resize controller=1
ラの例です。 cachecade=4 pdisk= 0:2:0,0:2:1,0:2:2,0:2:3

次は SCSI、SATA、お omconfig storage cachecade action=resize controller=1
よび ATA コントロー cachecade=4 pdisk=0:0,0:1,0:2,0:3
ラの例です。

omconfig Cachecade の名前変更

説明 cachecade の名前を変更します。

構文 omconfig storage cachecade action=rename controller=id
 cachecade=id name=<string> - ここで、id は、**omreport** コマンドによっ
 て報告されるコントローラ ID および cachecade ID です。これらの値を取得するに
 は、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、
 omreport storage cachecade controller=ID と入力してコントローラの
 cachecades の ID を表示します。

例として、 コントローラ 1 で cachecade 4 の名前を cc4 に変更します。

例 omconfig storage cachecade action=rename controller=1
 cachecade=4 name=cc4

omconfig PCIe SSD コマンド

以下の表は、PCIe SSD のタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンドの構文を示しています。

表 121. omconfig PCIe SSD コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage pciessd	action=addtocachepool subsystem=id pciedevice= <PDISKID> force=yes action=removefromcachepool subsystem=id pciedevice=<PDISKID> force=yes action=reactivate subsystem=id pciedevice= <PDISKID> force=yes

omconfig キャッシュプールへの PCIe SSD デバイスの追加

説明	キャッシュプールに指定された PCIe SSD デバイスを追加します。
構文	omconfig storage pciessd action=addtocachepool subsystem=id pciedevice=<PDISKID>、ただし id はサブシステムの ID であり、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定します。これらの値を得るには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示し、次に omreport storage cachecade controller=ID と入力して、そのコントローラの cachecade ID を表示します。
例として、	キャッシュプールに指定された PCIe SSD デバイスを追加します。
例	omconfig storage pciessd action=addtocachepool subsystem=2 pciedevice=0:2:0 force=yes

omconfig キャッシュプールへの PCIe SSD デバイスの追加

説明	指定された PCIe SSD デバイスをキャッシュプールから削除します。
構文	omconfig storage pciessd action=removefromcachepool subsystem=id pciedevice=<PDISKID>、ただし、id はサブシステムの ID であり、<PDISKID> 変数は物理ディスクを指定します。これらの値を得るには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示させ、次に omreport storage cachecade controller=ID と入力してそのコントローラの cachecade の ID を表示します。
例として、	指定された PCIe SSD デバイスをキャッシュプールから削除します。
例	omconfig storage pciessd action=removefromcachepool subsystem=2 pciedevice=0:2:0 force=yes

omconfig PCIe SSD デバイスの再アクティブ化

説明	キャッシュプールの一部だった、指定された PCIe SSD を再アクティブ化します。
構文	omconfig storage pciessd action=reactivate subsystem=id pciedevice=<PDISKID>、id はサブシステムの ID であり、<PDISKID> 変数は物

理ディスクを指定します。これらの値を得るには、omreport storage controller と入力してコントローラ ID を表示させ、次に omreport storage cachecade controller=ID と入力してそのコントローラの cachecade の ID を表示します。

例として、指定された PCIe SSD デバイスを再アクティブ化します。

例

```
omconfig storage pciessd action=reactivate subsystem=2
pcidevice=0:2:0 force=yes
```

omconfig Fluid Cache コマンド

以下の項では、Fluid Cache のタスクを実行するために必要な omconfig コマンド構文を示します。

表 122. omconfig Fluid Cache コマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage fluidcache	action=applylicense licensefile=<filename> action=connect

omconfig Fluid Cache に対するライセンスの適用またはアップデート

説明 Fluid Cache ライセンスを適用またはアップデートします。

構文

```
omconfig storage fluidcache action=applylicense
licensefile=<filename with absolute path>
```

例として、Fluid Cache ライセンスを適用します。

例

```
omconfig storage fluidcache action=applylicense licensefile=/
root/key/licensefile.xml
```

omconfig Fluid Cache への接続

説明 Fluid Cache システムに接続し、ストレージサブシステムのキャッシュ設定の詳細をアップデートします。

構文

```
omconfig storage fluidcache action=connect
```

omconfig パーティションコマンド

以下の項では、パーティションタスクを実行するために必要な omconfig コマンド構文について説明します。

表 123. omconfig パーティションコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage partition	action=refresh

omconfig パーティションリストの更新

説明	ストレージサブシステムで保持しているパーティションのリストを更新します。
構文	omconfig storage partition action=refresh

omconfig Fluid Cache ディスクコマンド

以下の項では、Fluid Cache ディスクタスクを実行するために必要な **omconfig** コマンド構文について説明します。

表 124. omconfig Fluid Cache ディスクコマンド

必要なコマンドレベル (1、2、3)	オプションの名=値のペア
omconfig storage fluidcachedisk	action=disablewithdiscard fluidcachedisk= <string>

omconfig データの破棄およびキャッシュの無効化

説明	キャッシュ上のデータを破棄し、指定された Fluid Cache ディスク上のキャッシュを無効にします。
構文	omconfig storage fluidcachedisk action= disablewithdiscard fluidcachedisk=<string>
例として、	キャッシュ上のデータを廃棄し、Fluid Cache ディスク fcd1 上のキャッシュを無効にします。
例	omconfig storage fluidcachedisk action= disablewithdiscard fluidcachedisk=fcd1

CLI コマンド結果の使用方法

Server Administrator のコマンドラインインタフェース (CLI) では、コマンドの出力をさまざまな方法で使用できます。本章では、コマンド出力をファイルに保存する方法と、コマンド出力のフォーマットをさまざまな目的に合わせて選択する方法について解説します。次の表は、omreport コマンドが適用可能なシステムを示します。

表 125. omreport コマンドに対するシステム可用性

コマンドレベル 1	コマンドレベル 2	対象
omreport	modularenclousure	ブレードシステム
	servermodule	ブレードシステム
	mainsystem	ブレードシステム
	システム	ラック型システムとタワー型システム
	シャーシ	ラック型システムとタワー型システム

コマンド結果の出力オプション

CLI コマンド出力は、お使いのオペレーティングシステムのタイプに応じて、コマンドウィンドウ、X-ターミナル、または画面上といったシステムの標準出力に表示されます。

コマンド結果を、標準出力に表示するのではなく、ファイルに出力することもできます。コマンド出力をファイルに保存すると、コマンド出力を後で解析や比較に使用できます。

コマンド結果を標準出力に表示する場合でも、ファイルに書き込む場合でも、結果をフォーマットすることができます。選択した形式は、コマンド出力を表示する方法およびファイルに書き込む方法を決定します。

コマンド出力表示の制御

各種のオペレーティングシステムにはそれぞれ、コマンド実行結果の標準出力への表示方法を制御する手段があります。以下で紹介するのは、コマンド結果を正しく確認できるように、出力のスクロールを抑制する便利なコマンドです。この構文は、Microsoft Windows のコマンドプロンプト、Red Hat Enterprise Linux のターミナル、SUSE Linux Enterprise Server のターミナルのいずれでも動作します。コマンド出力の表示でスクロールを制御するには、その CLI コマンドの後ろにパイプ記号 (|) を付け、さらに more と入力します。例えば次のようにタイプします。

```
omreport system summary | more
```

または

```
omreport servermodule summary | more
```

複数画面にわたるシステムサマリコマンド出力の最初の画面が表示されます。コマンド出力の次の画面を見るには、スペースバーを押します。

ファイルへのコマンド出力の書き込み

コマンド結果をファイルにリダイレクトするときに、コマンド結果の書き込み先となるファイル名（必要であればディレクトリパスも）を指定できます。ファイルの書き込み先のパスを指定するときは、オペレーティングシステムに適した構文を使用してください。

コマンド結果は2つの方法で保存できます。指定する出力ファイルと同じ名前の任意のファイルを上書きするか、コマンド結果を同じ名前のファイルに追加し続けることができます。

上書きされるファイルへのコマンド結果の保存

以前に書き込まれたファイルに保存されているデータを上書きする場合は、**-outc** オプションを使用します。例えば、11:00 A.M. にシステム上のファンプローブ 0 でファンプローブ RPM 読み取り値をキャプチャして、結果を **fans.txt** というファイルに書き込むには、次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

または

```
omreport mainsystem fans index=0 -outc fans.txt
```

次は、ファイルに書き込まれた結果の一部です。

インデックス	: 0
Status (ステータス)	: OK
プローブ名	: System Board Fan 1 RPM
読み取り値	: 2380RPM
最小警告しきい値	: 600RPM
最大警告しきい値	: 5700RPM
最小エラーしきい値	: 500RPM
最大エラーしきい値	: 6000RPM

4 時間後に同じコマンドを入力します。 **fans.txt** に書き込まれた 11:00 A.M. のスナップショットが不要になります。同じコマンドを次のように入力します。

```
omreport chassis fans index=0 -outc fans.txt
```

または

```
omreport mainsystem fans index=0 -outc fans.txt
```

3:00 P.M. のデータが **fans.txt** ファイル内の 11:00 A.M. のデータを上書きします。

fans.txt の内容が以下のようになります。

インデックス	: 0
Status (ステータス)	: OK

プローブ名	: System Board Fan 1 RPM
読み取り値	: 3001RPM
最小警告しきい値	: 700RPM
最大警告しきい値	: 5500RPM
最小エラーしきい値	: 500RPM
最大エラーしきい値	: 6000RPM

前のコマンド結果を参照して、前のファンプローブ 0 出力を現在の出力と比較することはできません。 - **outc** オプションを使って **fans.txt** ファイルを上書きしたからです。

既存のファイルへのコマンド結果の追加

以前に書き込まれたファイルに保存されているデータに新しいコマンド結果を追加する場合は **-outa** オプションを使用します。例えば、11:00 A.M. にシステム上のファンプローブ 0 でファンプローブ RPM 読み取り値をキャプチャして、結果を **fans.txt** というファイルに書き込みます。これらの結果を、4 時間後に取得される同じプローブの出力と比較するには、**-outa** コマンドを使用して新しい出力を **fans.txt** に追加します。

タイプ:

```
omreport chassis fans index=0 -outa fans.txt
```

または

```
omreport mainsystem fans index=0 -outa fans.txt
```

fans.txt の内容が以下のようになります。

```
インデックス      : 0
Status (ステータス) : OK
プローブ名        : System Board Fan 1 RPM
読み取り値        : 2380RPM
最小警告しきい値  : 600RPM
最大警告しきい値  : 5700RPM
最小エラーしきい値 : 500RPM
最大エラーしきい値 : 6000RPM

インデックス      : 0
Status (ステータス) : OK
プローブ名        : System Board Fan 1 RPM
読み取り値        : 3622RPM
最小警告しきい値  : 900RPM
最大警告しきい値  : 3500RPM
最小エラーしきい値 : 500RPM
```

最大エラーしきい値 : 6000RPM

テキストエディタを使用して、各データブロックがキャプチャされた時刻を挿入することができます。ファンブローブ 0 の 2 つのスナップショットを比較すると、2 つ目のレポートにいくつかの変更点が示されます。ファン RPM の読み取り値は 621 RPM 増加していますが、通常範囲内です。他のユーザーにより最小警告しきい値が 200 RPM 上げられ、最大警告しきい値が 2000 RPM 下げられました。

CLI コマンド出力のフォーマットの選択

CLI コマンドの結果のフォーマットを選択できます。このフォーマットは、コマンド出力の表示方法を決定します。コマンド結果の出力先がファイルに指示された場合には、このフォーマットを取り込んでコマンド結果がファイルに書き込まれます。

次のようなフォーマットを使用できます。

- リスト (lst)
- セミコロン区切りの値 (ssv)
- 表 (tbl)
- カスタム区切りの形式 (cdv)

フォーマットオプションの構文は次のようになります。

```
<コマンド> -fmt <フォーマットオプション>
```

たとえば、次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

-fmt tbl は表形式を指定します。

フォーマットオプションを、出力をファイルに転送するオプションと組み合わせることができます。例えば次のように入力します。

```
omreport system summary -fmt tbl -outa summary.txt
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt tbl -outa summary.txt
```

-fmt tbl は表形式を指定し、**-outa** はコマンド結果を `summary.txt` という名前ファイルに追加することを指定します。

リスト (lst)

デフォルト形式は **lst** または `list` です。出力を読みやすくするために最適化するにはこの形式を使用します。**lst** 以外の形式にしたい場合にのみコマンド出力の形式を指定する必要があります。

次のコマンド出力例を `lst` 形式で表示するには、次のように入力します。

```
omreport system summary
```

または

```
omreport servermodule summary
```


list 形式はデフォルト表示形式であるため、特別なフォーマットオプションは必要ありません。システム概要例のネットワークデータ部は、以下のように表示されます。

```
----- ネットワークデータ ----- ネットワークインタフェース 0 IP アドレス
: 143.166.152.108 サブネットマスク      : 255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ
イ      : 143.166.152.1 MAC アドレス      : 00-02-b3-23-d2-ca
```

表 (tbl)

tbl すなわち表形式オプションを使用すると、データを行と列の表形式で表示できます。下記のコマンド例の出力を表形式で見ると、次のようにタイプします。

```
omreport system summary -fmt tbl
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt tbl
```

出力例は以下のように表示されます。

```
----- ネットワークインタフェース 0
----- | 属性      | 値 | IP アドレス      | 143.166.152.108
| サブネットマスク | 255.255.255.0 | デフォルトゲートウェイ | 143.166.152.1 |
MAC アドレス      | 00-02-b3-23-d2-ca
```

セミコロン区切りの値 (ssv)

ssv フォーマットオプションは、コマンド出力を、セミコロンで区切られた値の形式にフォーマットします。このフォーマットを使用すると、コマンド出力結果を Microsoft Excel などのスプレッドシートプログラムや、データベースプログラムにインポートすることが可能になります。セミコロン区切りの値でフォーマットされたコマンド出力例を見るには、例えば次のように入力してください。

```
omreport system summary -fmt ssv
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt ssv
```

出力例は以下のように表示されます。

```
----- ネットワークデータ ----- ネットワークインタフェース 0 IP アドレス;143.166.152.108 サブネットマスク;255.255.255.0 デフォルトゲートウェイ;143.166.152.1 MAC アドレス;00-02-b3-23-d2-ca
```

カスタムの区切り形式 (cdv)

エクスポートされたデータをカスタムの区切り形式でレポートするには、cdv 形式を使用します。このオプションは任意の **omreport** コマンドで指定できます。例えばシステムの概要をカスタムの区切り形式で生成するには、以下のようにタイプします。

```
omreport system summary -fmt cdv
```

または

```
omreport servermodule summary -fmt cdv
```

また、**omconfig** を使ってカスタムの区切り形式のプリファレンスを設定することもできます。区切り記号 (デリミタ) として指定できる値は、感嘆符 (!)、セミコロン (;)、アット (@)、ハッシュ (#)、ドル (\$)、パーセント (%)、キャレット (^)、アスタリスク (*)、ティルデ (~)、疑問符 (?)、コロン (:)、コンマ (,)、パイプ (|) です。

次の例は、アスタリスクをデリミタとしてデータフィールドを区切る場合の指定方法です。

```
omconfig preferences cdvformat delimiter=asterisk
```